

図220 2007年度調査B区出土珠洲焼集成図 (S=1/3)

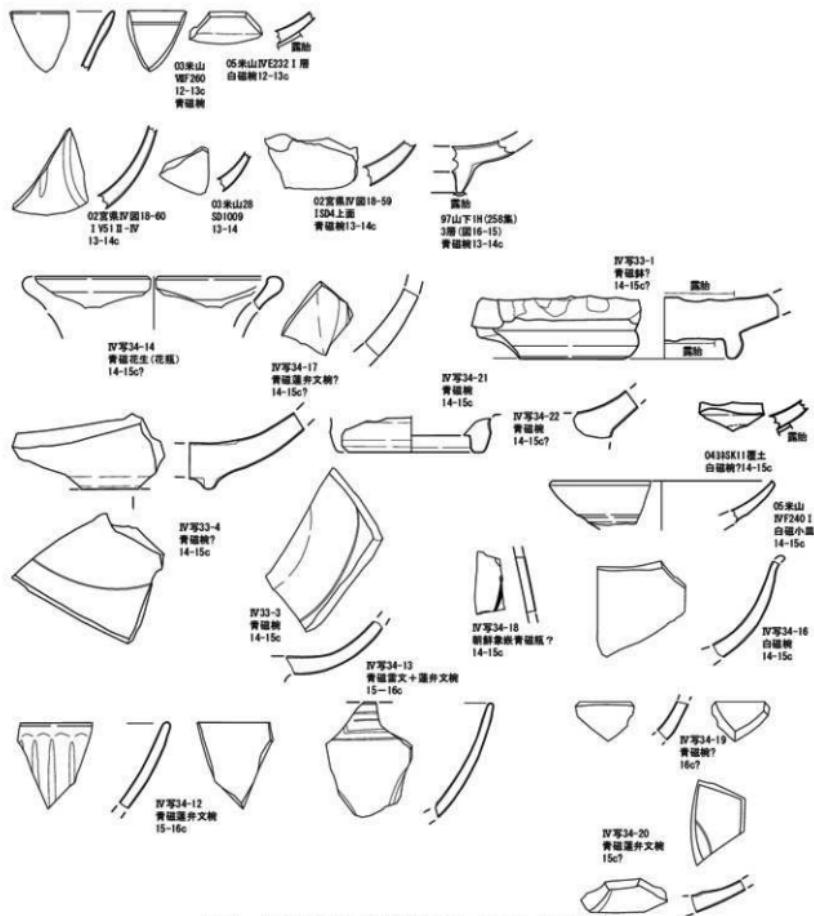


図221 既報告分貿易陶磁器集成図（主要なもののみ）

アサのみに限定した産業とまで発展していたかというといまだ疑問符が付く。また、集落全体の景観を探る意味で興味深いのが軸方向を揃えて並列したり群集したりする例が複数あることである。これらがどの程度の期間に残されたものかは残念ながらはっきりしないが、基本的に露天であることを考えると冬の降雪によりカマド自体が崩壊することは避けられないため、1つのカマド状遺構は1シーズン限りの使用で終わっていた可能性がある。したがって群集するカマド状遺構は1シーズンに複数使用されていた可能性と、複数のシーズンにわたり構築されていった結果の2つの見解が可能である。

最後に、カマド状遺構の使用年代であるが、遺構の重複関係を見ると、柱穴を切っている例が目立つことから、建物跡群よりも一段階新しい可能性を指摘できる。ただしその年代幅はAMS年代測定値

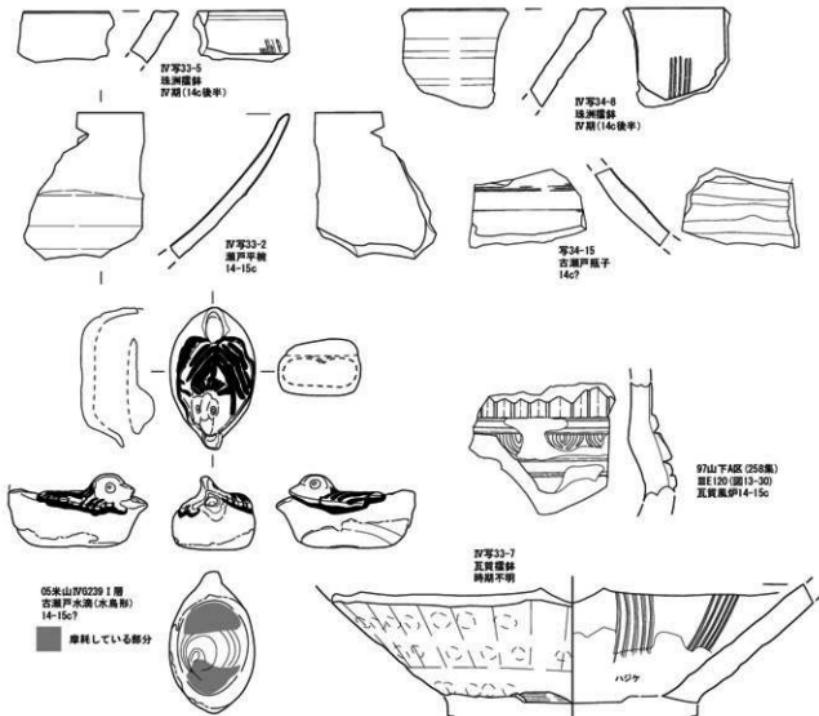


図222 既報告分国産陶器集成図（主要なもののみ）

で11世紀代～17世紀まで幅広くとられている。このなかで14世紀から15世紀にかけての測定値が比較的多く得られていることからカマド状遺構が機能していた年代は14～15世紀が主体で、一部16世紀代までいくものもあったと考えるのが妥当であると考える。

3、井戸跡について

井戸跡はB区から33基発見され、過去の調査分を含めると102基が発見されたことになる。そのうち井戸枠が確認できたものは22基あり、全体の約2割に相当する。ただし、土坑として報告されているものにも井戸跡の可能性があるものが含まれるため井戸枠のあるもの比率は1割程度と考えられる。

井戸枠は縦板・隅柱・横桟により組まれているものが主流であり、ほかに曲物を井筒として利用しているものが3例、横桟と縦板組のものが2例発見されている。これらの井戸枠のうち年輪年代測定法により板材の伐採年代が判明（Aタイプ）したもので一番古いものは1304年（SE32）で、一番新しいものと同じ遺構で1469年である。これ以外ではおおむね14世紀代の年代が得られている。井戸枠が伴わない例については、出土木材や種子のAMS年代測定を利用した結果、12世紀～16世紀の値が得られている。遺構の重複状況からも、素掘りの井戸跡でカマド状遺構などより古いものが確認されており、

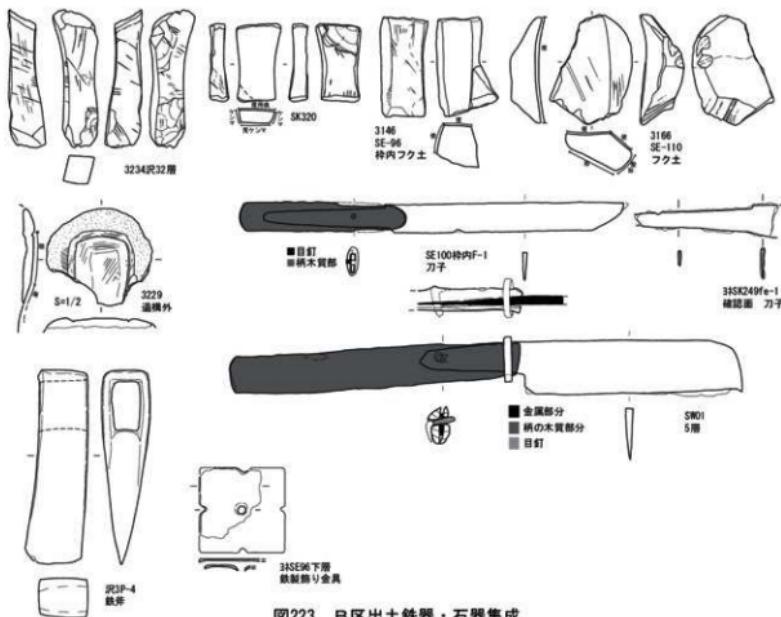


図223 B区出土鉄器・石器集成

大型建物跡に伴う時期の井戸跡も存在する可能性がある。素掘りの井戸跡に良く見られる状況として堆積土上位に人為的にふたをしたような状況が見られる。また、井戸枠があるものに関しては、上位に礫が多量に投棄されてたりすることから、意識的に井戸跡を埋め戻していることは容易に想像できる。

4、出土遺物について

○陶磁器について

図219～222には主な出土陶磁器を集成してみた。陶磁器から想定される遺跡の存続時期は、12世紀後半から15ないし16世紀まで幅広い。12世紀後半から13世紀前半にかけては白磁水注・白磁椀・手づくねかわらけ・劃花文青磁・珠洲Ⅰ～Ⅱ期製品などが相当する。13世紀後半から14世紀前半にかけては舶載青磁とともに珠洲製品が増加し始める。14c後半から15c前半にかけては瀬戸製品が一定の割合を占め、珠洲製品・舶載陶磁器もそれなりの量が入ってくる。瀬戸製品については、香炉・合子・豆皿・天目椀・水鳥水滴など小型品や希少品が目立つ。水滴はB区出土の石硯などとの関連が興味深い。また、瓦質の風炉や擂鉢などもみられる。15世紀～16世紀については雷文や線描連弁文椀などが見られる。陶磁器などの出土状況を見ると、12～13cにかけてはB区と米山(2)遺跡北区などに出土が見られ、13～14世紀にかけては遺跡全体に広がるかに見える。14～15世紀にかけては出土量も増え、ここでも遺跡全体に出土する傾向が見て取れる。15～16世紀に関しては、米山(2)遺跡南区のやや北寄りに集まる傾向があるなど、時期により遺跡の主体部が移動している可能性がある。(茅野)

第2節 宮田館遺跡の遺構と出土遺物について

縄文時代前期後半期に位置づけられる土器について－宮田館遺跡の捨て場事例分析から－

1. 型式の考え方

土器型式が「類型概念であるタイプtypeを構成要素とする時間的に限定された集合概念」（小杉 2008:38）と規定するならば、時間的に限定された1時期にはさまざまなタイプの土器が混在することが一般的であると考えられる。

土器型式設定、つまり狭義の時期設定を行うためには、そこに内包された土器タイプ群の内容をとらえなくてはならない。時期設定にあたっては、遺跡で発見された遺物群の内容ごとの比較がなされる必要がある。1つの地点から、時間的に限定された枠の中でまとまりをもって取り上げられた遺物群が設定できるのであれば、そのまとまりごとに比較して、問題に即した時期（≒土器型式）を決定していくべきであると考える。まとまり間に層位的関係が認められるのであれば、その層位的新旧関係をよりどころにして、遺物群の比較を行うことは基本的前提である。型式学的操作から時間差を読み取るのは、相対的な時期の新旧を判断する手段がまったく絶たれた場合である。層位的事実があれば、時期設定にあたって遺物のみの比較による型式設定は必要がない。このような時期設定のあり方にに関する論述は小杉氏に詳しく（小杉 2008）大変参考にさせていただいた。型式学的手法と称される属性の変化を用いて、分類された遺物の変化の方向性に層位を援用するという手続きも1つの手段には違いないが、考古学的事実関係を意図的に解釈してしまう可能性がある。

冒頭で述べたように、一括遺物として設定した遺物群には、複数のタイプが内包されるという場合が一般的な現象と考えられる。一括遺物とは、例えば中古車両場に展示してある多くのクルマの組み合わせのようなものである。展示場には現在という時間に切り取られた中で、さまざまなタイプのクルマが存在している。我々が時代遅れを感じるクルマもあれば、的確に現在の感覚を具現したもの、また時代を先取りし、これから自動車タイプの主流となっていくものも展示されているであろう。土器の一括遺物も同じことがいえる。つまり一時期の枠に収められた遺物群には、その時期にぴったりと合う属性群をもつたものと、異なる時代性を有した土器が、少なからず混在する状況が指摘されると思う。一括遺物からタイプの多寡を吟味し、流行の趨勢を捉えた上で、「この時期にはこのタイプが優位を占める」「このタイプに代表されるのがこの時期である」「このタイプの、この属性が初めて現れるのがこの時期である」といった傾向が導き出せると考えられる。このような操作を踏まえた後、時期を切り取ることが冒頭に定義される型式設定の作業であろう。その切り取り方は、知りたい内容によって多少異なるため、あるいは切り取る研究者の時代のとらえ方にも影響されるため、完全な共通理解はないといってよい。つまり、人間文化の変化をどのようにとらえるかによって、型式のとらえ方は変わっていく。

小杉氏は考古学の編年研究の重要な点として次のように述べる。「時期」や「様式」として時間的な単位として一括される対象群には、必ずしも形態や文様、製作技術の点でなんらかの共通性・類似性が潜在しているとは限られない。とくに異なる材質、たとえば金属器や土器、漆器などの間には、同時存在したものであっても形態・文様・製作技術において共通性や類似性が存在しない場合も多く、この点が美術史研究における「様式」と根本的に異なる。考古学の編年研究において重要な点は、「廃棄時における」という限定をもちながらも、共存したことの事実性である（小杉 2008:32）（傍

点筆者)。

なにがなにと一緒に出土したのか。この事実を積み重ねていくことが重要であり、時期ごとの趨勢を判断するための基本的な材料になる。考古学的脈絡が乏しいゆえに、やむをえず遺物の属性分類によって設定された時期区分（型式設定）も、当然のことながら考古学的事実によって検証されなければならない。時期設定の前提に必要なことは、一つの時期の中にある新しいタイプと古いタイプの共存の可能性を忘れないことである。

2. 宮田館遺跡・捨て場1における頻度のセリエーション

宮田館遺跡では縄文土器のまとまりが捨て場1に集中して発見された。さらに層位ごとのまとまりが3層に分かれて確認され、それらの層は堆積状況で、古い方から新しい方へ時間的に連続する3つの層位の関係としてとらえられる。層位的事実の明白な事例であり、それぞれの層に含まれる土器群の内容を比較するには良好な資料群といえる。

本項において、内容の変化を捉える方法として用いたのは、頻度のセリエーション frequency seriation とされるものである。このセリエーションはいくつかあるセリエーションの中でも、時期的な流行をとらえるのに有効な方法である。ここでは最初に土器タイプの分類を行い、それぞれの量比を比較することにより、設定された土器タイプの流行を探ってみることにする。

現場で取り上げた層位関係では、古い方から新しい方へ、それぞれ4層、2層、1層となる。このように分離されたそれぞれの層位ごとに、いかなるタイプの土器が含まれるのか集計してみた。この作業にあたり、土器を分類する指標として抽出した属性は、口縁部文様帶に表現される文様の種類である。捨て場1で出土した土器のほとんどが口縁部文様帶を有し、そこには文様の施されていることが確認されたため、比較する属性として有効であると考えられるためである。また多くの研究者が型式設定のメルクマールとして使用している属性でもあるため、おそらく時間的変化を鋭敏に反映する属性と推測される。

以上を踏まえて、口縁部文様形態と施文方法で以下のように分けた。なお文様分類名は、イメージを捉えやすいように見た目で連想できる言葉で表現した。後に比較対象を他の遺跡に増やすために、宮田館遺跡には出土しなかった「結節」という項目も範疇に入れてある。

結節：結節回転文を水平に施し、S字、Z字状の文様が繰り返されるもの。

網目：単軸絡条体第2類・第5類・第6類・第6A類が水平に施され、網目文様が表出されるもの。

多平行：主に単軸絡条体第1類を水平に回転し、数の多い平行した条が表出されるもの。

斜め：主に単節・複節の斜縄文が施されるもの。

羽状：結束1種によって羽状縄文を施すもので、途中で180°方向を逆にして施すために菱文様が表出される。

平行：縄文押圧や単軸絡条体押圧で平行文様を表現するもの

山：縄文押圧や単軸絡条体押圧で山文様を表現するもの

菱：縄文押圧や単軸絡条体押圧で菱文様を表現するもの

その他文様あり：上記分類に入れられないもの。出土量は少ない。

捨て場1に含まれる土器を破片も含めて口縁部文様ごとにすべてカウントした結果が表1である。傾向として、全体の中で山がその占める割合を徐々に増加させていき、網目・多平行は減少するという傾向がみてとれる（図224上部3段）。菱は幾分減少傾向にあるといえるが明確ではない。羽状は全3層を通して一定量存在する。これらの傾向は層位の時間的新旧関係を根拠にしているため、おおむね間違いないだろうが、より蓋然性を与えるためには、今後近隣の他地点で同様の方向性が辿れることを確認していく必要がある。

3. 三内丸山遺跡と宮田館遺跡における頻度のセリエーション

三内丸山遺跡第6鉄塔地点や第6次調査では、厳密な層位的調査が行われている。これらの調査では、それぞれの層位ごとの資料の比較が行える非常に良好な資料群が抽出されている。ここでは三内丸山遺跡の資料と宮田館遺跡の資料を比較し、さらに大きく変化の趨勢を捉えてみたいと思う。

三内丸山遺跡出土の土器について、報告書掲載資料に限り口縁部の文様が確認できる資料を上述の分類によって層位ごとにカウントした。カウント結果を層位によって、古い方から新しい方へ並べたのが図224の下部である。下層で最も多くを占めていた結節が量を減らしていき、上層に至るにつれて網目が量を増加し、多くを占めるようになる。網目が量を増す傾向と同時に少し遅れて多平行が量を増やしていくという傾向が看取できる。

網目と多平行は宮田館遺跡でも一定量確認されている文様であり、宮田館遺跡でもそれぞれが減少していく傾向にあった。そして全体に占める量は三内丸山遺跡ほど多くない。この傾向から、宮田館遺跡は三内丸山遺跡よりも新しい傾向を示しているということができるため、三内丸山遺跡より新しい段階に置くことができる。この2遺跡の順序は蓋然性が高いが、網目と多平行の減少度合があまりにも劇的すぎる。よって資料のまとまりが確認できる、これら2遺跡の間を埋める割合をもつ資料群（三内丸山X・120H堆積土、三内丸山遺跡XI第6次調査第27・28層）を間に置き、漸移性を調整したのが図224である。ちなみに三内丸山遺跡XI第6次調査第27・28層は円筒下層c式に比定されている。これらを挿入することによって、羽状の増加傾向や平行・山が次々と増加していく傾向を推定することができる。

以上のように文様要素が少しづつ増加しながらピークを迎え、少しづつ減少に向かい消滅するという傾向がだいたいにおいて確認された。いわゆる頻度のセリエーションにみられる軍艦型カーブを示している。それぞれが主流となる順序は、結節→斜め→網目→多平行→羽状・平行→山→菱のようにまとめられる。時期が新しくなるにつれて、流行する文様が変わっていくことを表している。

しかし、これは厳密にはそれぞれの文様要素が出現する順序ではなく、流行の順序を示しているだけである。出現の順序である可能性を示してはいるが、確証されたものではないことを確認しておく必要がある。一括遺物内に同時存在している場合は量の多寡が、文様要素の出現に関する時間的順序を決定する保証にはならない。例えば、結節と斜めと網目は流行する順番は1結節、2斜め、3網目であるが、一括遺物中に同時存在している以上、どれがどれに対して早く現れた要素であるのかという判断は不可能である。ただ、出現、盛行、衰退・消滅という傾向を示す軍艦型カーブがどの文様要素にもみられるという前提のもとに、可能性の高い出現順序を表しているという傍証にはなりうるであろう。出現の順序が確認されるためには、軍艦型カーブの出現ポイントが順番に右上がりにならな

	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	計
三内丸山Ⅸ VI b層	64	10	1		4				79
	81%	13%	1%		5%				
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山Ⅸ VI a層	129	22	19	6	18				192
	67%	11%	10%	2%	9%				
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山Ⅸ V c層	81	6	25	15	7				134
	66%	4%	19%	11%	5%				
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山Ⅸ V b層	68	22	117	112	3				322
	21%	7%	36%	35%	1%				
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山Ⅸ V a層	32	11	79	38	3				163
	29%	7%	48%	23%	2%				
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山Ⅸ IV層	1	3	54	58	11	10	20	12	169
	1%	2%	32%	34%	7%	6%	12%	7%	
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山X 120H(堆積土)	5	11	18	16	10	9	3	72	
	7%	15%	25%	22%	14%	13%	4%		
宮田館地Ⅰ	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
1層	107	134	50	722	1462	2380	153	5121	
	2%	3%	1%	14%	32%	46%	3%		
2層	19	50	38	97	225	300	29	758	
	3%	7%	5%	13%	30%	40%	4%		
4層	12	55	22	77	257	218	22	663	
	2%	8%	3%	12%	39%	33%	3%		
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山第6次調査区(第27・28層)	2	1	1	19	16	10	5	54	
	4%	2%	2%	35%	30%	19%	9%		
	縦筋	斜め	網目	多平行	羽状	平行	山	巻	
三内丸山X 290H(床面・床底)	0	0	2	10	28	96	3	99	
				2%	10%	28%	5%		

表1 各遺跡ごとの文様集計表

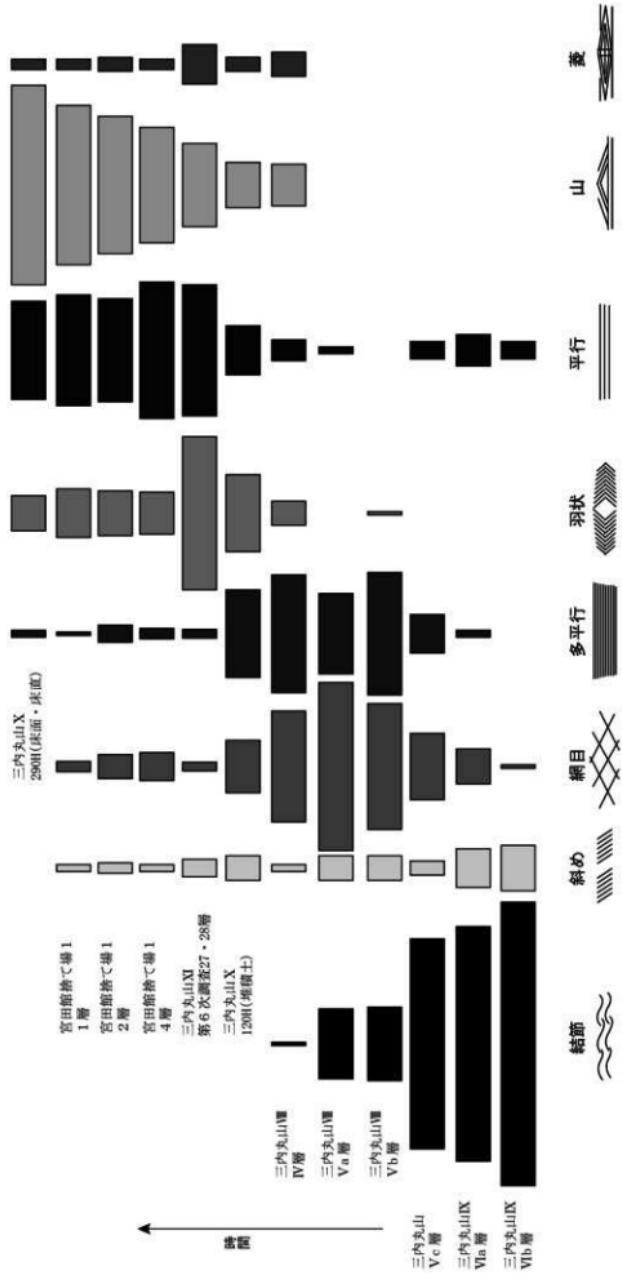
くてはならない。

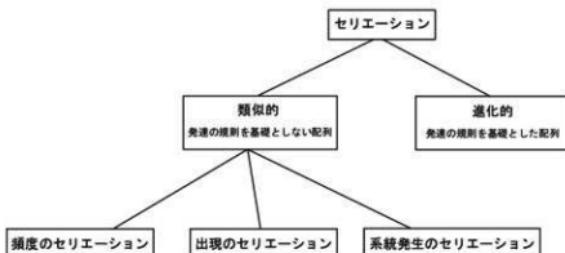
4. 流行と出現

前項では、口縁部文様要素というメルクマールとなるべき特徴で行った分類で、層位ごとに分類群がどのように主流を占めるのかという流行の変化をみてきた。その方法として、頻度のセリエーションを用い、それぞれの分類群が全体の中で占める割合が、少量から増加し、ピークをむかえ、また少量に転じる軍艦型カーブを確認し、分類群が次々と主流を変えていく様を確認した。

しかし、頻度のセリエーションから分かることは、系統ごとに分類されたそれぞれの土器の流行であるため、厳密には系統の出現順序を表したことにはならない。何度もいうように、頻度のセリエーションから分かることの主体は、時期変化にともなうそれぞれの土器系統の趨勢である。これは他の比較する土器系統との量比で決定される性質のものである。新たな属性を有した土器の出現とは別の問題である。

いくつかのセリエーションの分類方法を示したのが図225である。この図では、頻度のセリエーションと出現のセリエーションは峻別されている。このように土器の時間的順序を決定するにはいくつかのセリエーションがあり、知りたい結果（具体的に言えば、画期の設定方法の違い）によって使い





セリエーションは形態の類似性をもとにした配列方法で構成される。(O'Brien and Lyman. 1999: 64)

図225 セリエーション方法の分類

分ける必要がある。

頻度のセリエーションでは時間的経過による系統内の変化はみえない。最初に設定した分類をずっと系統をとらえていくしかできないのである。しかし、土器は属性を変容させながら（他の系統の影響を受けたり、また与えたりしながら）変化する。系統内は静的ではなく動的であることが多く、同時代の他系統とともに影響関係にあり変化する。この前提から、それぞれの系統の流行を系統内の変化に重ね合わせて、属性の出現・変容と流行を系統的に表現するセリエーション図の必要性が生じてくる。ここにおいて頻度のセリエーションとともに「出現・変化のセリエーション」を用いることで、土器の組み合わせ内においての流行、系統内の変容、類似系統の分岐、新しい系統の出現、系統どうしの融合の様相が見えてくると考えられる。

モンテリウスは「尚型式学の研究に際して決して忘れてならないことは一の型式から二つ或はそれ以上の異った組列が出来ることに依って進化がますます分岐することである。それで一の型式の組列 (Typen-Serien) は枝分かれのない樹、まっすぐにのびる椰子の樹にたとえることは出来ない。寧ろますます多くの枝のある櫻の樹、或は系譜学的の系統樹に似たものである」（モンテリウス 1932 (1999) :32) と述べている。

最終的には頻度のセリエーションとともに、系統内の変化・分岐を表現する図を作成し、その変化・分岐の引き起こされた原因を探っていく必要があるだろう。今回はそのための試験的な図を提示してみると、ここに示した系統内における分岐の概念などには統一性がなく、非常にまとまりのないものになっている（図227～228）。変化と分岐の概念の違いさえ曖昧であるが、備忘録的に掲載させていただいたことをご容赦ねがいたい。今後はこれらの概念整備を行っていくことと、さらに理解しやすい図を作成することが必要である。

系統内変化の例は、結節の系統でも、その結節文様の施し方、形態は時間とともに変化するため、三内丸山IXのVib層とVa層の様相を比較すると違うタイプに見えるというものである。

5. 地域ごとにおける流行のタイムラグ

前項までの系統による整理は、一地域、つまり同じ系統を有する土器の存在する限定された地域内におけるものである。一地域に限定した場合、新たに出現する土器タイプが他地域といかなる関係に

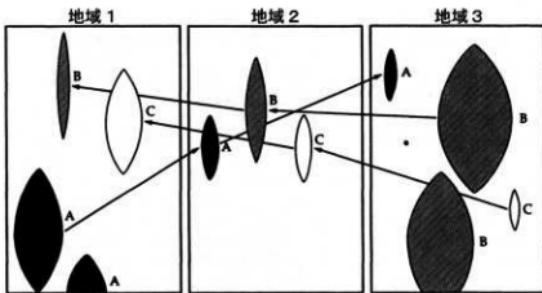


図226 地域ごとの影響パターンモデルの一例 (O'Brien and Lyman. 1999:48)

あるのかが分からぬ。ここでは展望として、今後のセリエーションについて、その考え方の方向性について探りたい。

図226は、地域を超えて、同じ土器タイプがある場合、その出現から消滅に至る動きは、地域ごとで同時に現れるのではなく、多少の時間的ズレをもって現れることを表現している。これは流行のタイムラグまたはドップラー効果 (O'Brien, M. J. and Lyman, R. L. 1999) といえる現象であり、同じ文様が盛行した中心とその外延双方の時間的同一を保証しない。民俗学における柳田国男の方言周囲論にも類似した考え方である。方言周囲論は、「ある言語現象が中央から周辺地域に広まっていく過程は波紋のそれに類似していると考え、波紋の周辺にあたる方言圏のあちこちにかつて中央で使われた共通の古い形がみられる」と説く論（柳田：1980）である。もちろん土器タイプの出現から消滅は各地で同時に起こったという考えを否定するものではなく、さまざまな土器変化のパターンを想定するものである。ただ情報の交換が行われた場合、流行のタイムラグは、伝達速度や取り入れ方の問題だけで、必ずといってよいほど想定しなければならない現象であろう。

小笠原雅行氏が述べるように地域ごとの土器の変遷過程を明らかにし、それらを照合することは基本的で最も重要な作業の一つであり（小笠原2008:350）、また中村哲也氏が指摘しているように「型式名優先の議論より、地域単位で何らかのまとまりを持った資料の配列を把握」（中村2007:76）することが肝要である。

地域ごとの詳細な比較を行うことによって、ある地域のいかなる属性が他地域のどの属性に影響を与えたのかなど、考古学的遺物から当時の交流関係を分析することが可能になり、よりダイナミックな編年構築が可能になる。

具体的な事例とすれば、南部地域や秋田県北部地域でそれぞれ同じようなセリエーションを、いろいろな属性や、土器に限らずさまざまな遺物を用いて作成し比較することによって、さまざまな属性に流行のタイムラグが確認できる予想をもつてゐる。今後の課題としたい。（岩田）

文献

- 小笠原雅行 2002 「第IV章第2節1項 土器」『青森県史 別編 三内丸山遺跡』青森県
- 小笠原雅行 2008 「円筒上層式土器」『総覧縄文土器』小林達雄編 総覧縄文土器』刊行委員会:344-351頁
- 岡本 洋 2007 「円筒下層式の細分」『円筒土器文化の諸問題』青森県考古学会: 31-51頁
- 小杉 康 2008 「土器型式編年の基礎概念—山内清男・モンテリウス・チャイルドー」『縄文時代の考古学 歴史のものさし』2 同成社: 23-41頁
- 鈴木公雄 1999 『出土錢貨の研究』東京大学出版会
- 茅野嘉雄 2004 「第1節 縄文土器I群について」『宮田館遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第365集: 53-55頁
- 茅野嘉雄 2008 「円筒下層式土器」『総覧縄文土器』小林達雄編『総覧縄文土器』刊行委員会: 218-225頁
- 中村哲也 2007 「青森県における前期末葉から中期初頭の土器編年」『円筒土器文化の諸問題』青森県考古学会: 75-92頁
- 柳田国男1980『蝸牛考』岩波文庫
- モンテリウス著 浜田耕作訳1932 (1999) 『考古學研究法』雄山閣
- 青森県教育委員会1997『三内丸山遺跡VII』青森県埋蔵文化財調査報告書第230集
- 青森県教育委員会1998『三内丸山遺跡IX』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
- 青森県教育委員会1998『三内丸山遺跡X』青森県埋蔵文化財調査報告書第250集
- 青森県教育委員会1998『三内丸山遺跡XI』青森県埋蔵文化財調査報告書第251集
- 青森県教育委員会2003『岩渡小谷(3)(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第352集
- 青森県教育委員会2003『上野尻遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第353集
- 青森県教育委員会2004『宮田館遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第365集
- 青森県教育委員会2006『近野遺跡IX』青森県埋蔵文化財調査報告書第418集
- 青森県教育委員会2007『二股(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第437集
- 青森県教育委員会2008『米山(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第456集
- O'Brien, M. J. and R. L. Lyman 1999 *Seriation, Stratigraphy and Index Fossils. The Backbone of Archaeological Dating.* Kluwer Academic/Plenum Publishers.
- Lipo, C.P., O'Brien, M.J., Collard, M and S.J. Shennan, ed. 2006
Mapping our Ancestors. Transaction Publishers.

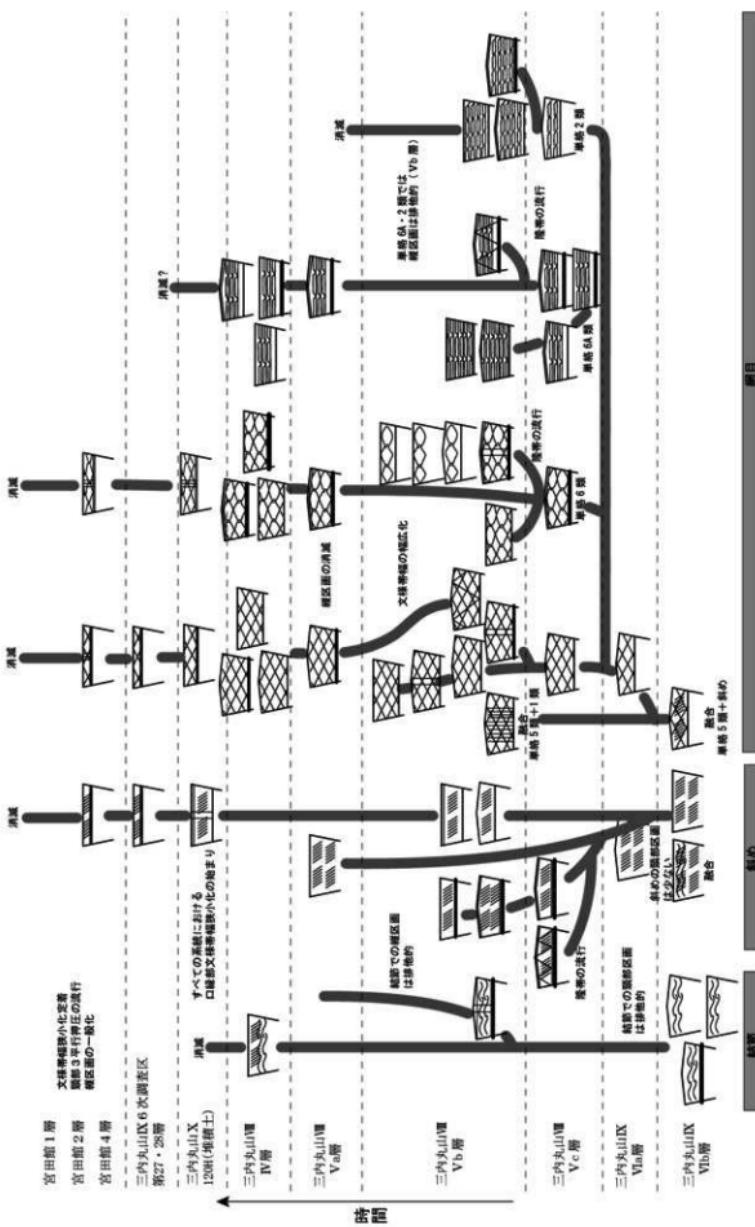


図227 系統的編年模式図（備忘録的試案）

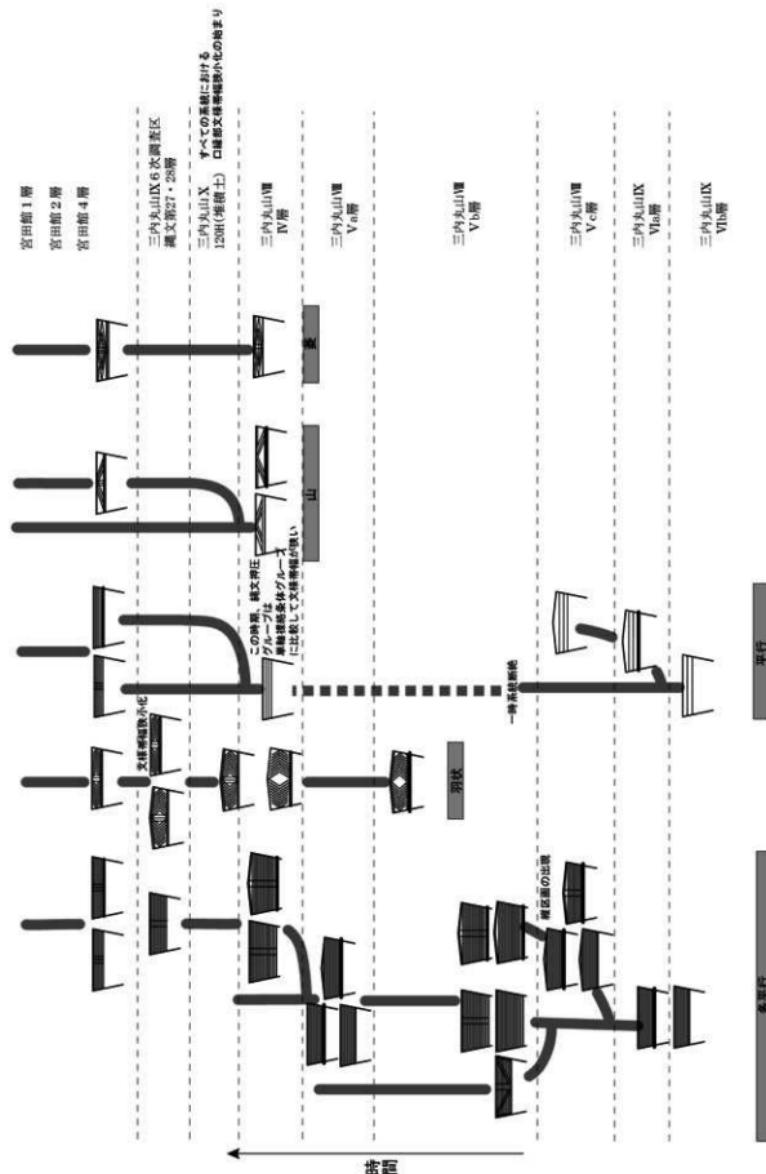


図228 系統的縦年模式図（備忘録的試案）

平安時代以降の遺構・遺物について

宮田館遺跡では平安時代に属すると推測される集落跡が確認された。集落跡を構成する要素には建物跡、土坑、溝などがあり、当センターと青森市教育委員会による過去7次にわたる調査（今回の調査を含めれば8次）箇所と一体のものである。以前の調査成果については、『宮田館遺跡VI』で田中珠美氏が詳細にまとめているため、ここでは特徴的な点を記してまとめに代えたい。

遺構・遺物の特徴

カマド主軸方位による建物跡は、東方向と南東方向の2種類がある。また出土遺物は全体の土師器の中で壺が一定量を占める建物跡がSI-01, 02である。壺の主体的な建物跡はSI-05, 06である。他の建物跡出土遺物はその量が少ないためここには含めていない。前者は田中氏が器種組成から分類したI, II, III群のそれぞれI群、II群に相当する。組成と含まれる土師器の特徴により、I→II→III群の変遷が想定されている。また建物跡への白頭山火山灰の一次堆積が認められないことから、火山灰降下以降の年代を考えており、これらのことから出土土師器の年代を10世紀中葉から11世紀に位置づけている。本地点で建物跡に明確に伴う遺物を分別するのは難しいが、概ね田中氏の設定した分類のI群、II群に相当すると思われる。

外周溝を有する建物跡も1軒確認され、以前の調査を合わせて2軒目の出土例となる。建物跡をコの字状に取り巻き、開口部は南東である。この建物跡に付属する柱穴の痕跡など掘立柱建物跡を示すものは確認されなかった。

特徴的な遺物として、SI-02の床面とカマドから出土した製塙土器がある。双方とも積み上げ痕を残し、バケツ形を呈するものである。他に製塙土器はSD-03からも出土している。

またSI-02からは鍛冶行為の可能性を示唆する羽口が出土しているが、全体の形状は小片であるため不明である。

本調査地点で出土した鉄製品もすべてSI-02から出土した。鋤・鋤先、手鎌、鐵鎌などが出土しているが、鋤・鋤先は周溝内から刃先を下に出土したため、立てかけてあった状態を想定することもできる。またSI-02からは鍛冶行為の可能性を示唆する羽口が出土しているが、全体の形状は小片であるため不明である。他の建物跡に比べてSI-02は規模が大きいことと、カマド横に張出部が設けられているという特徴をもつ。この規模の特徴に加え、SI-02から出土する鉄製品の偏在と羽口の出土は何らかの関連性が指摘できそうであるが明確なことはいえない。

SD-03は集落跡を取り巻く大溝であるが、以前の調査区で確認されていた溝跡の延長部分であり、丘陵部の裾野に展開する集落跡をV字状に取り巻くことが再確認された。溝の端がIM-56グリッドで確認されたと思われたが、この付近は水田による削平が激しく、溝としての痕跡がとらえられなかつただけの可能性もある。実際、この部分から南東に屈曲して延びる溝のような掘りこみが確認され、SD-03と一連の遺構である可能性がある。またSD-03端部分から分岐するように南東に延びるSD-07も、規模は小さいが、おそらく集落跡を囲う機能を有した溝であったことが推測される。

カマドについて

本地点、ひいては過去の宮田館遺跡の調査で確認されたカマドは、屋外へ長く延びる煙道をもった

タイプが多い。SI-01、02のカマドは、礫を芯材とし、その上に粘土を盛り付けて袖とした構造である。カマドの燃焼部周辺には細かい土器片が集中していたため、粘土に混ぜられたものである可能性がある。他のカマドは粘土のみか土器片を混ぜた粘土で構築されたものと推測される。SI-03のカマドでは地下式から半地下式への付け替えも確認された。

長煙道を有するカマドタイプ（以下、長煙道カマドもしくは長煙道タイプ）は地下式、半地下式を問わず、青森県では主流のカマドタイプである。このような長煙道タイプは8世紀後半～9世紀初頭には東北北部に主体として普及したタイプとされている（谷1982:240-241）。

長煙道カマドは煙道が長く、横煙道であるという特徴を有する。煙道部が長いと通気性が良く、燃焼を促進し、高熱は得られるが、焚口からの吸引力が増すため焰の滞留が不十分である（谷1982:228）。このように長煙道カマドは高熱が得られ、通気性が良いという特徴がある。このような特徴は東北北部の寒冷な気候に対応するために普及したカマドタイプではないかと推測される。つまりカマドを炊事のみの目的ではなく、暖房として使用した場合、高熱の得られる形態を有していた方が寒冷地帯では有効であることが考えられる。また通気性が良いということは、換気する必要性が少なく、長く室内に暖気を保つことができることが推測される。もちろん東北北部における当時の食文化との関わりも想定されるが、寒冷地方での長煙道カマドが主流タイプである理由の一つには、高熱の確保と通気性の良さがあったためと考えられる。

東北北部ではこのタイプのカマドは主流であるが、それ以外の地域にも存在する。南関東ではこのようなタイプのカマドは散見されるに過ぎないが、上総西部にF類型カマド型集落が存在する（谷1990:1）。7世紀末に散見しはじめ、8世紀後半～9世紀後半にピークを迎える、10世紀後半にはほとんどなくなる。カマドの形態の類似性から当時の移住政策など人的交流を窺わせる事例ではある。

(岩田)

文献

- 青森県教育委員会 2004『宮田館遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第365集
 青森県教育委員会 2006『宮田館遺跡V』青森県埋蔵文化財調査報告書第411集
 青森県教育委員会 2007『宮田館遺跡VI』青森県埋蔵文化財調査報告書第429
 伊藤博幸 1998「後半期の集落」『岩手考古学』岩手考古学会: 67-88頁
 伊藤博幸 「東北北部におけるエミシからエゾへの考古学的検討－「考古学からみたアイヌ民族史」へのコメント(1)『アイヌ文化の成立と変容－交易と交流を中心として－』: 59頁
 乾 芳宏 1982「擦文時代以降における火焔変遷の一考察」『物質文化』39 物質文化研究会: 37-46頁
 桐原 健 1978「古代東国における龜信仰の一面—龜内支石のあり方について」『國學院雑誌』78-9: 52-58頁
 谷 旬 1982「古代東国のカマド」『千葉県文化財センター研究紀要』7 千葉県埋蔵文化財センター: 223-248頁
 谷 旬 1990「所謂「F類カマド」型の集落（上総西部編）」『研究連絡誌』第29号 (財)千葉県文化財センター: 1-5頁
 津野 仁 2008「蝦夷の武装」『考古学研究』第54巻第4号: 41-60頁
 寺沢知子 1992「カマドへの祭祀的行為とカマド神の成立」『考古学と生活文化』: 455-473頁
 中田裕香 1991「礫を構築材としたカマドについて」『吉崎昌一先生還暦記念論集 先史学と関連科学』吉崎昌一先生還暦記念論集刊行会: 141-164頁
 横川好富 1987「龜の出現とその背景—埼玉県を中心として—」『埼玉の考古学』新人物往来社: 361-380頁

第8章 まとめ

1、米山(2)遺跡について

米山(2)遺跡における7回にわたる調査においては、縄文時代中期・後期・晩期の集落、弥生時代前期から後期の遺物、中世の集落、近世・近代の遺物などが発見された。米山(2)遺跡は北区の低位段丘面以外は基本的に沖積性低湿地に遺跡が立地している。

米山(2)遺跡

縄文時代の米山(2)遺跡について

縄文時代前期：遺物が散発的に出土する程度である。北区に隣接する上野尻遺跡では円筒下層c式期の集落が確認されている。

縄文時代中期

中期前半：北区で円筒上層c式の土器埋設遺構が発見されている。

中期後半～末葉：北区と南区で最花式～大木10式並行期の竪穴住居跡が検出されている。

縄文時代後期

後期初葉～前葉：後期初葉の住居跡が北区から検出されている。後期前葉（十腰内I式）について北区でラスコ状土坑が発見された。遺物は遺跡全面から出土するが、竪穴住居は発見されていない。

後期中葉～後葉

十腰内V式相当の竪穴住居跡が北～南区中央付近まで発見されている。しかし04・05年度調査区より南側からは該期の遺物の出土が極端に少なくなっているため、このあたりが該期集落の南限であると考えられる。ちなみに米山遺跡の北側には環状掘立柱建物跡群が検出された上野尻遺跡が存在する。これとの関係も今後の課題である。

縄文時代後期～弥生前期

晚期前葉：大洞B～BC式の遺構・遺物が北区から出土している。遺構は土坑主体である。

晚期中～後葉：北区において大洞C2～A式の土坑（土坑墓か？）が検出されている。

晚期末葉～弥生前期：南区で大洞A'式期の遺物包含層が発見されている。

弥生時代中期～後期：北区などで散発的に遺物が出土している。

平安時代：須恵器と製塙土器が少量南区から出土しているが、遺構は確認できない。北区からは今のところ該期の遺物出土は皆無である。

中世：広い範囲から遺構が発見されている。各遺構ごとにその傾向を記述する。

掘立柱建物跡：南区（B区）にやや集中する。この区域にはお堂などの中心的な施設があった時期（13世紀～14c中葉）がある。大型の建物跡以外は遺跡全体に小さなまとまりを持ちながら存在するようである。

竪穴建物跡（竪穴遺構）：米山(2)遺跡南区でもやや北寄りで発見されており、04年の試掘結果では未調査域にも複数存在するようである。この種の遺構には2種類がみられる。1つは3～4m四方程の規模で出入り口の張り出しを持つタイプ。2つ目は長方形で張り出しを持つタイプである。各々壁周溝の有無でも細分できそうである。これらの遺構は先述のとおり米山南区北寄りから北区にかけ

て分布する。さらに上野尻遺跡と宮田館遺跡でも発見されている。現状での分布傾向として、長方形で大きめのものは上野尻遺跡や宮田館遺跡にみられ、方形タイプや長方形でも壁周溝がめぐるタイプは米山南区北寄りに見られる傾向がある。竪穴遺構からはあまり遺物が出土しないが、底面に炭化物層が堆積する特徴があり、炭化物を含む土壤中から炭化植物種子（イネ・ヒエ属など）が検出された。同様の種子はカマド状遺構・井戸跡・土坑・沢跡などからも出土しており、付近でそれらを栽培もししくは管理していた可能性がある。

カマド状遺構：米山南区から多量に検出された。試掘結果によると未調査区域にも相当量存在するようである。カマド状遺構は軸方向を同じくして近接した群をなす例が複数存在する。カマド状遺構の用途・構築時期などの検証はこれら群をなすものとほぼ単独に存在するものとの違いを明らかにすることも切口のひとつとして捉えられよう。

井戸跡：米山南区から数多く発見された。カマド状遺構のそばにあり、セットになる可能性が高いが、カマド状遺構との対応関係に関しては、慎重になる必要がある。井戸跡自体は12世紀～15世紀の年代測定値が得られているため、遺構の重複関係などを頼りに可能な限り時期区分をする必要がある。

土坑：多種多様な土坑があるが、それらの性格については不明な部分が多い。しかし土坑だけが他の遺構からはなれて単独で存在する例が少ないと、他の遺構とともに集落の中での役割があったと思われる。

土坑墓・火葬墓：土坑墓は米山南区中央と北寄りからそれぞれ1基ずつ発見された。特にSK119には銅鏡と鉄刀が副葬されており、堆積土中位の炭化物層からはイネ・アワ・ヒエなどが多量に検出された。埋葬儀礼を考える上で重要な資料と考えられる。火葬墓は南区北寄りとB区から発見された。いずれも浅く小さな土坑に炭化材と焼骨片が認められている。底面が焼けている例は無いため、茶毬所は別のところと考えられる。これら墓所の時期については、AMS年代測定結果では11世紀～15世紀までみられるが、古木効果なども勘案すると14～15世紀くらいに帰属する可能性が高いのではと考えている。

遺物：陶磁器・木製品・鉄製品・石器などが出土した。陶磁器については製作年代が12世紀後半から16世紀の幅が考えられる。木製品は主に井戸跡から出土した。井戸枠の部材についてはそのほとんどがヒバ製であることがわかっている。木製品では用途不明のものが多い中、漆器（椀・箸）・曲物・杓文字・農具（鋤）・祭祀具（形代・火堀り臼）などが出土した。今後詳細に検討することで本県の中世の道具史に寄与できる貴重な資料と考える。鉄製品は刀子・鉈・鉄斧などの刃物、飾り金具、鉄鏃などが出土した。また、上野尻遺跡では鉄鍋も出土している。石器及び石製品では、石硯・砥石のほかに人形（石仏？）などの変わったものも出土した。

近世以降について

近世以降については具体的な遺構を知ることは困難であった。しかし、17世紀代の陶磁器も少ないながら出土することから遺跡自体は存続していたのだと思う。SW01・02が中世後半期の遺構であったとするならば、農具の出土は遺跡周辺の利用状況が中世後半～近世にかけて農耕主体に変わった可能性を指摘できるかもしれない。また、近代になると用水路が掘削され、水田が造成され始めるようである。

2、宮田館遺跡について

縄文時代

早期：白浜式や螢沢A群土器など貝殻文系土器群が散発的に出土している。

前期：円筒下層c～d式の捨て場や堅穴住居・土坑・埋設土器などが宮田館遺跡北側で発見された。また、円筒下層d2式期の大型住居跡が宮田館南側で発見され、堆積土中から同時期の翡翠製品が出土した。

中期：円筒上層c式の堅穴住居跡が南側で発見されている。また、楓林式・最花式・大木10式並行期の堅穴住居跡も南側から発見されている。

後期：後期初頭～十腰内I～II式が散発的に出土している。

晩期：晩期の遺物はごく少量出土するのみである。

弥生前期：北側から砂沢式期の遺物がやまとまって出土している。

弥生中期～古墳時代：天王山式・恵山式・後北C:D式・北大I式が北側から出土している。特に北大I式は青森地区では初出土である。

平安時代：10世紀中葉から11世紀にかけての集落が山裾に展開する。集落は幅2mほどの溝跡の内部に存在している。溝跡は山裾を全周しているようである。集落は北側から南にかけて変遷していくようである。北側では外周溝付きの住居跡2軒が検出されており、隣接する山下遺跡で発見された古代集落との比較が望まれるところである。

中世：今回は小山彦逸氏と一緒に中世城館と目される宮田館跡の縄張り調査を行った。その結果、北側斜面を中心に平場を複数確認できた。また、山稜頂部にも2重の堀に囲まれた郭を確認した。宮田のイチョウ大木とともにこの周辺一体が中世の拠点的な場所であった可能性が示唆された。今後の検討に期待したい。

3、理化学的分析結果について

紙幅の関係から、分析結果に対するコメントは別の機会に譲るが、さまざまな観点から行った分析を生かすためにも今後この報告書が活用されることを祈る限りである。(調査担当者一同)

付 章

第1節 米山(2)遺跡の掘立柱建物跡

高島 成信

はじめに

2007年（平成19）06月以来、何度も現地を訪れ、担当者より説明していただき、自分でも図面に当たって検出した掘立柱建物跡について、ここに報告できることは嬉しいことである。その間、担当者には御面倒をお掛けして、さまざまな事柄を調べていただき、また、より詳しい図面を要求したりした。

ここでは、約60棟もの掘立柱建物跡のなかから、梁間が一間および二間のものを除いて、梁間が三間以上のもののなかから、注目される建物跡を選んで、その構造や柱間寸法、使われ方や建築年代などについて述べている。それらのなかには、住居跡と考えられるものや宗教施設と見られるものなどがあり、ここ米山(2)遺跡の性格そのものにもおおよぶような事柄もでてくるが、それらには触れないことにしてある。

ここに報告することは、ひとえに担当者たちの努力の賜物であり、心より感謝の意を表したい。また、八戸市教育委員会の佐々木浩一氏から目を通していただき、いつもながらの適切な御教示を頂いたことに、深い謝意を表したい。

1、07年度の調査区で検出されたもの

2007年（平成19）の調査区で検出された掘立柱建物跡は、埠跡も含めた総数で59棟を数える。それらは、現地で担当者とともに検出したものである。ここではそれらのなかから、特に貴重と思われる物を選び出して、若干の説明をしたい。

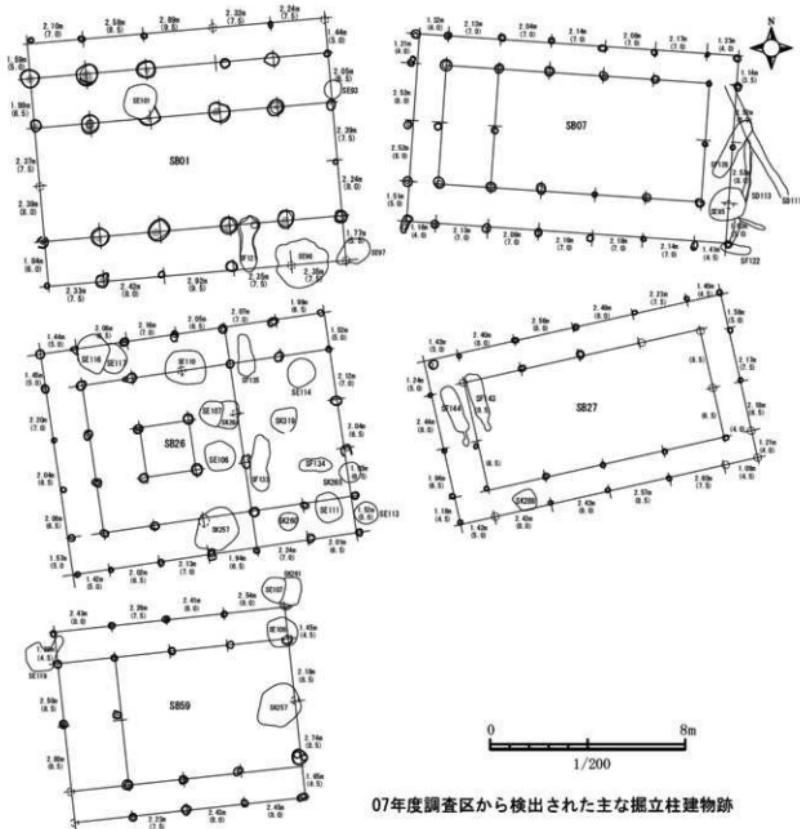
SB01掘立柱建物跡は、桁行五間に梁間四間であるが、身舎梁間を二間として二面の庇を付け、さらに北側に孫庇を付ける形である。

身舎梁間の寸法は、8.0尺に7.5尺と大きめに取り、庇の出は6.5尺とか6.0尺になっており、孫庇の出は5.0尺である。これでは孫庇とは言い難く、縁とも思えるが、北側に縁を設けること自体も考え難いところではある。桁行では中央を9.0尺を取り、その両脇を8.0尺と7.5尺に取り、両端を7.5尺としており、整然とした柱間の取り方が見られる。

SB07掘立柱建物跡は、桁行七間に梁間四間であり、身舎梁間は二間である。この身舎の西端は間仕切されている。寸法は身舎梁間を8.0尺および7.5尺に取り、桁行は身舎部分がすべて7.0尺である。そしてその周囲には庇のようなものが付くが、南側ではその出が5.0尺であるのに、他の東・北・西側では4.0尺を計ることができる。これらも縁と見るほうが適切かもしれない。

SB26掘立柱建物跡は、桁行六間に梁間五間という大規模なものであり、身舎の梁間が三間としているのには注目される。西側半分は絶柱になっており、東側に二間に三間の大きな部屋が取られている。しかも北・西・南側に庇が廻り、東側にはこれが無い、という珍しい三面庇のものである。

寸法は梁間中央を7.0尺に取り、両脇を6.5尺としており、桁行では絶柱の中央を7.0尺に取り、両脇を6.5尺とし、東側では右端を6.5尺としてその隣を7.0尺にしている。そして三面庇の出はすべて5.0尺である。このような特異ともいえる形の建物跡はどのように使われたものであろうか。後の考察することにしてある。



SB27掘立柱建物跡は、桁行六間で梁間が四間である。身舎梁間を二間とし、周囲に一間通りの庇のような縁が廻っている。身舎は7.5尺の二間であり、桁行では8.0尺の四間である。周囲を取巻く一間通りは、南・東・北側ではその出が4.0尺であり、西側が4.5尺である。この一間通りのものは、その柱穴の在り様などからも、縁を支えるもののようにあり、これも縁と見て置くことにする。

SB59掘立柱建物跡は、桁行四間に梁間四間であり、身舎梁間を二間とし、身舎桁行四間のうち、西側に一間を間仕切を置いて仕切っている。そして表裏に一間ずつの庇を置いた二面庇の建物跡となっている。身舎梁間は8.5尺の二間であり、桁行は8.0尺の四間である。南・北側の庇の出はともに4.5尺となっており、これも庇というよりは縁と見たほうが妥当であろう。

その他、多くの掘立柱建物跡が検出されているが、梁間一間ないし二間のものが多く、ここに挙げるほどでは

なかった。

2. それ以前の調査で検出されたもの

2001年(平成13)、2004~06年(平成16~18)にかけて調査した米山(2)遺跡のなかで、これまでに報告していない掘立柱建物跡があり、それを纏めてここで報告する。それらは約20棟を数えるが、ここでも上記と同様に、主なものだけを取り上げることにした。

SB60掘立柱建物跡は、桁行は調査区の外に伸びるようで不明であり、梁間が三間のものであろう。身舎梁間が二間であり、その東側に庇が付き、南側にも庇のある形を示している。身舎の柱間寸法が大きくて、11.0尺と10.0尺を測るが、桁行では8.0尺でゆくようである。南側の庇の出は4.0尺を測り、東側では5.5尺となっている。大規模な建物跡が想定されるところであるが、その大部分が調査区域の外に伸びるようである。

SB61、SB62、SB84、SB88掘立柱建物跡はほぼ同じ場所に重複して検出されたが、それぞれの柱穴跡には直接の切合いか関係はなかった。同時に建っていることが不可能なことであるが、その前後関係は不明のままである。SB61およびSB62は、梁間一間だけの小規模なものであり、桁行もそれぞれ二間と四間だけである。



過去に報告された調査区から検出された掘立柱建物跡

SB84は掘立柱建物跡は、桁行三間に梁間二間の規模であり、間仕切で二室に分けられており、住居跡かとも考えられるものであり、その寸法は桁行で6.0尺+6.5尺+8.0尺（=20.5尺）であり、梁間は8.0尺+6.5尺（=14.5尺）である。

また、SB88掘立柱建物跡も同様な平面形状を示しているが、左右対称になっている。寸法を見ると桁行では6.5+7.5+6.5尺（=20.5尺）となり、梁間では8.5+7.5尺（=16.0尺）である。

SB71掘立柱建物跡は、桁行四間に梁間二間の主屋の南側に桁行二間に梁間二間の付属屋が付いた形の建物跡である。柱穴は揃っておらず、どうして梁を架渡したかと思われる個所もあるが、何とか建物跡として見ることができる。桁行の寸法を見ると、上辺で西側から90尺+5.0尺+6.0尺+6.0尺（=26.0尺）となり、下辺では5.5尺+8.0尺+4.5尺+8.0尺（=26.0尺）となる。梁間も同様で西側では7.5尺+6.5尺（=14.0尺）であり、東側では5.5尺+8.5尺（=14.0尺）となっている。このような建物跡は何であったのかは不明ながらも、使用人たちの住んでいた住居跡ではないのかと考えたりしている。

SB72掘立柱建物跡は、先のSB71と同じ場所で重複して検出されたものである。こちらは、桁行三間に梁間二間の主屋の西側に桁行二間梁間一間の付属屋が付いた形の建物跡である。こちらは、柱間寸法に不揃いの個所はなくて、綺麗に纏まっていて、すっきりとした小規模の建物跡である。ちなみにその主屋に見られる柱間では、桁行が6.5尺+8.5尺+4.5尺（=19.5尺）となり梁間は7.0尺+7.5尺（=14.5尺）となっている。

SB74掘立柱建物跡は、桁行四間梁間三間の建物跡で、桁行方向に東側に間仕切が入っている。東端の柱穴がよそのものと揃わないが、何とか梁を架渡すことができよう。寸法は東側とそれから二列目では6.5尺+10.0尺+6.0尺（=22.5尺）となるが、西側では6.0尺+6.5尺+6.0尺+4.0尺（=22.5尺）となる。梁間では8.0尺+8.5尺+6.0尺（=22.5尺）であり、一面底の建物跡と見ることができる。

むすび

ここでは、上に述べた各建物跡の年代を推測するとともに、その建物跡がどのように使われていたのかをも推定した。

SB26掘立柱建物跡であるが、その使われ方として、一種の仏堂として使われたのではないかと考えられる。東側の大広間は「龍堂」として用いられたものとし、西側の総柱は「三間堂」あるいは「五間堂」として、まったくの「仏堂」になるのではなかろうか。東側が出入り口であり、この「龍堂」を隔てて、その後方に「仏堂」がある、ということになる。

このような仏堂は、中央ではあまり見られないものであるが、この地方にあっては、「龍堂」は有用な施設であり、近世に見られる仏堂では、例えば、弘前・普門院本堂があり、弘前岩木・権現寺愛宕堂や川内・中崎觀音堂などが挙げられる。

このような仏堂が造られた時期としては、15世紀に入ってからと考えられ、また、6.5尺が多用されているその柱間寸法などから、この時期が推定されるところである。

SB01掘立柱建物跡では、この建物跡を漬している井戸跡SE96の井戸枠縦板の伐採年代が1372年とされており、さらに井戸跡SE101より出土した木製品の炭素年代では14世紀以降の可能性が言われていること、および、柱間寸法の年代からして、13世紀末から14世紀半ばに掛けてのものと推定される。

SB07掘立柱建物跡では、上記と同様に、この建物跡を漬している地床炉跡SF128出土の炭化材の炭素年代が13世紀末以降のものとされ、また、ここから出土した株洲IV期の擂鉢（14世紀後半）などとともに、柱間寸法に見

るところから13世紀末から14世紀初頭のものとしたい。

SB27掘立柱建物跡は、これといった証拠は無いものの、四方に廻る縁の出の寸法がまちまちであることや、4.0尺や4.5尺という数値を示すことや、縁東穴が身舎の柱穴と揃っていないこと、それに、身舎の柱間寸法が8.5尺と6.5尺を組み合わせていることなどから、14世紀中頃までには造られていた可能性がある。

SB59掘立柱建物跡もはつきりしないものの、井戸跡SE106に切られている柱穴があり、身舎の柱間寸法がわりと古い時期の数値を示している。先のSB07掘立柱建物跡とよく似た平面をもっていること（SB07は四面底の形であるが）などから、14世紀半ばころのものと推定した。

以前に調査された地区の建物跡の年代であるが、今回のような詳しいデータは無く、柱間寸法から推定したおおよその年代である。

SB60掘立柱建物跡では、10.0尺代と8.0尺代とともに4.0尺代も用いられており、その年代を推定することすら不可能である。

SB84掘立柱建物跡については、6.0尺代と8.0尺代とを用いているこの建物跡は、その寸法からは14世紀末ごろのものと推量される。SB88掘立柱建物跡でもほぼ同じ時期ころで、SB84よりは柱間寸法なども揃っているところから、少し後まったものと考えられる。

SB71掘立柱建物跡では、柱穴跡が揃っていない個所も見られ、柱間も不揃いでであることから、やや古い形式と捉えており、14世紀半ば過ぎのころのものと見ており、SB72掘立柱建物跡では、上記のようなことは無く、柱間もきちんと揃い、寸法もしっかりとしているところから、少し時期を遡くして、15世紀半ばのものと見ている。

SB74掘立柱建物跡では、この建物跡も6.0尺代とともに8.0尺代と10.0尺代などの寸法が用いられており、その年代は捉え難いのであるが、一応、14世紀半ばのものとしておく。

ここで取り上げた建物跡の年代からすると、13世紀後半ころから14世紀半ば、15世紀初頭から半ば頃と見ることができた。そしてここでは、SB26のような宗教施設と見られるものもあったりするのであり、仏具などの出土遺物は無いようであるが、そのようなことも考慮されなければならないであろう。

参考文献

茅野嘉雄・他著『米山(2)遺跡III』青森県教育委員会、2005、「青森県埋蔵文化財調査報告書第391集」

第2節 宮田館遺跡周辺の縄張りについて—縄張り調査から見てくる宮田館跡—

小山 彦逸

はじめに

青森県埋蔵文化財調査センターからの依頼で平成20年12月4日に宮田館遺跡の現地踏査を行った。

今回は縄張り調査ということで、現地踏査を行い地表面観察よって残っている遺構を読み解き、それを図化していくという作業手順で行った。

縄張り調査とは、ご存知の方も多いと思うが、あくまでも肉眼で確認できる遺構を読み解き、図化しながら城の防衛機能などを推測し、そのことから城館跡の性格や用途を考えるというものである。のために、さらに細かな解明を補うためには発掘調査なども当然必要となってくる。そのことをあらかじめご理解していただきたい。

1 宮田館遺跡の立地と概要

宮田館遺跡は青森平野の東端、青森市中心部から東に約8.3kmの丘陵地に立地している。

宮田館遺跡は、「鞍越山」と地元の人たちが呼んでいる山頂にあり、鞍越山のことを「クラヌシ山」とか、「クラグシ山」^(注1)、「エゾオジ山」と呼び、空堀が二重に回されている山なので鉢巻山^(注2)とも呼ばれている。

また、東岳は古代に修験者のいる山坊「阿津摩岳千坊」と関係がある^(注3)、とも言われている。

2 縄張り調査の成果（図1）

宮田館遺跡を踏査して作成した縄張り図が図1である。

宮田館遺跡の縄張り調査から言えることは、まず宮田館遺跡と考えられている範囲は西側の丘陵地先端部分と東側の山頂部分の2箇所が考えられていた。便宜上、西側の丘陵地先端部分をA空間と呼称し、東側の山頂部分をB空間、B空間の北側部分をC空間とし、B空間の東側部分をD空間と呼称することとする。

（1）A空間（西側の丘陵地先端部分）

A空間は、現在耕作地として利用され、平場と考えられる段差は祠がかつて置かれていたと言われる場所から段々と南側に構築されていっている。段差の高低差はおよそ2～4mほどで、一見すると戦国期城館の曲輪のようにも見えるが、耕作されている地表面に見られる火山灰の露出状況や、段差を作り出している切岸部分を肉眼観察した草花の生え具合などを見る限りにおいて、最近の開墾によって作り出された切岸や平場のようにも見え、時期の断定はできなかった。

A空間の東側に幅が3mほどの空堀（a堀）とA空間の中央にb堀と思われるものが見られた。b堀については、農作業道のようにも思われ、堀跡と断定することはできなかった。a堀についても堀底と考えられる部分に重機が通ったように跡が見られ、積極的に堀跡と断定することはできなかったが、a堀の西側に土壘状の高まりが設けられており、堀跡であった可能性も否定できない。ただ積極的に堀跡であると断定することもできず判断に苦しむところである。

（2）B空間（東側の山頂部）

標高およそ100mの山頂部を中心に、2本の空堀（c堀・d堀）が設けられている。規模は東西約70m、南北約50mである。c堀のすぐ外側は堀跡を構築する際に堀から搔き揚げられた土砂を盛って作ったと考えられる土壘が見られ、その土壘がひとつの結界のようになっていると言える。ただ、北側の一部がバッカリと口を開けたように途切れています。この土壘が途切れた部分が、このB空間に入るための進入口と考えられる。この進入口から入って左右に傾斜があり、その傾斜を登るようにして入っていくと進入口2に辿りつき、そこからB空間

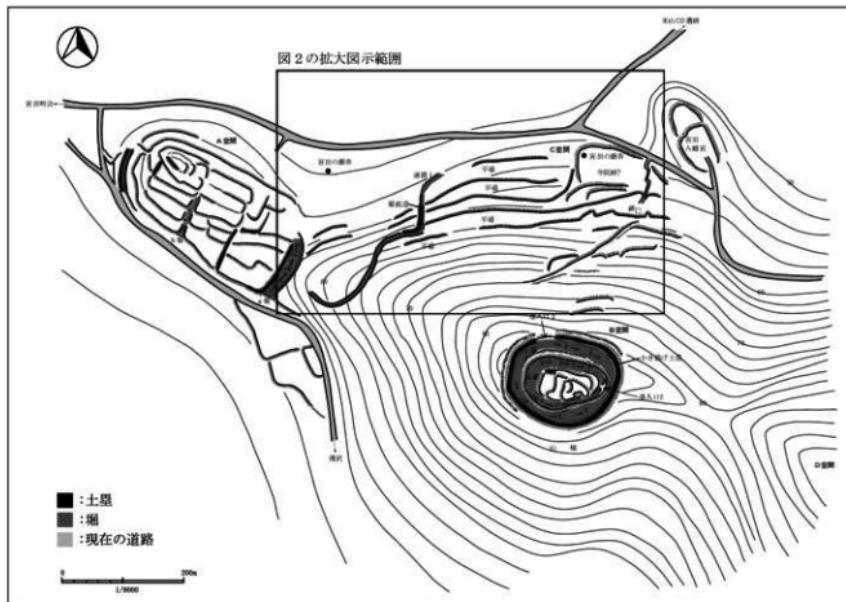


図1 宮田館跡（仮称）の縄張り図

の中心部に入っていくこととなる。B空間の中心部内には不規則な平面形の平場が3箇所ほど見られるが、整地されたという状況でもなく日常の居住空間ではないと考えられる。どちらかというと非日常的な場所であったと推測される。

ただ、明らかに言えることは、このB空間の堀跡や土塁は最近に作られたものではなく、少なくとも中世か、それ以前に構築されたものと推測される。

(3) C空間（B空間の北側部分）

この場所は宮田の銀杏の巨木が2本、約350m離れて点在しており、その南側に遺構が構築されていることが確認された。当初はこの場所には遺構はないのではないかと思われていたが、現地踏査をしたところ、斜面の土砂を切り崩し、切岸とし、その土砂を押して聖地として曲輪を作り出している。特に特筆されることは通路1とした場所は法面に直角に通路を堀底道状にして作り出し、途中で90°の角度で西側に道を折って作り出しているという点は、この宮田館跡の用途を考えた時には貴重な手掛かりとなるものである。そしてこの通路は途中から南側に蛇行しながら作られ、途中で道は途切れるが、おそらくA空間のa塁に関連していくのではないかと思われる。

宮田銀杏の東側の周辺には「宮田山寺地主謝塗慰靈之碑」などの標柱があり、地元の人たちの言い伝えによると山寺があったと言われている。現地踏査をした限りにおいても、山寺などの寺院が作られていたような空間を想定される遺構も見られる。

この空間は、寺院など構築され、なおかつ通路1でもあるように、その中を歩く人が精神的に淒いと思うよう

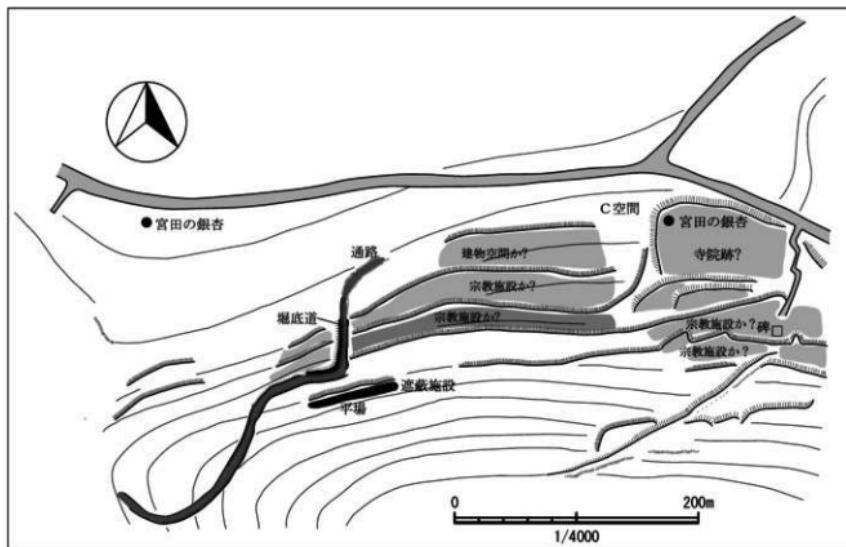


図2 寺院跡と思われる部分の概念図

写真1 宗教施設?と思われる平場群
(斜面上方(南)から)写真2 通路と思われる堀状のくぼみと土壘
(遮蔽施設?の上位から)

な装置をこの空間は演出しているように感じられる。

(4) D空間 (B空間の東側部分)

この場所は、B空間に隣接している場所で、城館跡として利用する時には、なんらかの遮蔽施設の遺構などがあるのではないかと思って現地踏査を行った。この場所から東側に500mほど尾根伝いに現地踏査を行ったが、残念ながら、遺構と断定できるものはなかった。

3 縄張り調査から導きだされる推測

(1) 根小屋式城館の可能性は

当初、宮田館遺跡と呼ばれるものはA空間とB空間からなる、戦国期城館に見られる、根小屋式と呼ばれる、平地に居館（A空間）があり山頂部には立て篭もるための山城（B空間）が設けられるというものではないかとも推測していた⁽²⁴⁾。

しかし、縄張り調査においては、A空間が城館跡であったといい可能性は、前述したように低いと判断されることがから、この仮説は成り立たないものと考えられる。

(2) 築城技法から見た見解

次に考えていたことは、築城技法の中に「南部氏」と「安藤氏」のどちらかの特徴を持っているのであれば、そこから類推できるのではないかと考えたが、A空間がもし城館跡であったとするならば、空堀を掘り切る状況などを見る限りにおいては南部氏的技法に近く、B空間はどちらかと言えば、伝尻八館跡⁽²⁵⁾などに見られる安藤氏的な技法があるよう見えなくもない。しかしA空間は現地踏査をした限りでは、城館跡と考えるには現段階では難しい。またB空間は、安藤氏的とは見えなくもないが、平内町内や、周辺にある戸崎館跡や後泡瀬夷館跡などの関係もあり、すぐには安藤氏に関係したものとも言えない。結局、決定的な特徴が見出せないというのが結論となる。

(3) 築城技法から見たもうひとつの仮説

そのようなことから大胆な仮説となるが、C空間の寺院跡と考えられる空間や通路1がここを通行する人たちに意識的に見せびらかすという意識で作られていたとも考えられることから、権威の象徴的なものとして作られた施設ではなかったかとも考えられてくる。

もし本格的な城館であるならば、C空間の平場はB空間の西側や南側にも設けられるのが一般的であるが、あえてそこまでやっていないということは、やはり見える部分だけに手を加えているということになるのではないだろうか。テレビや映画の舞台装置のようなもので、見える部分だけを豪華に構え、その後ろにはほとんど手を加えないという意識と同じ発想の中で作られた可能性も考えられる。

見せびらかすという意識で作られる城の代表的なものは秋田県男鹿市にある脇本城跡（国史跡）や秋田県能代市の檜山城跡（国史跡）などでも見られる技法のひとつである。ただ脇本城跡や檜山城跡に比べて宮田館跡の規模は小さく、それらの城館跡と比較してよいかどうかという問題もある。

もうひとつ考えられることは、未完の城館跡ということを考えられなくもないが、未完のままで放置したという時には、やはり社会的な背景がどのようなものであったかを考えなければならなくなってくる。

(4) 寺院等の宗教施設の可能性

やはりもっとも有力な推測は、『青森市史叢書I 民俗調査報告書第一集』の第7章信仰の第一節の社寺跡で詳しく述べられているが、修驗寺院の跡があったという伝承、そして石塔婆などもあり、銀杏の巨木が2本も現存しているということから、中世の社寺跡の空間として利用されていた可能性が最も高いのではないかと考えられてくる。

青森県内で類似する遺跡としては、深浦町の折曾之関跡⁽²⁶⁾や七戸町の五庵川原跡⁽²⁷⁾などが挙げられる。これらも伝承では社寺跡があったとされ、そして銀杏の古木が現存しているなど極めて同じ構成要素を持っていると感じられる。

余談とはなるが、銀杏の古木は中世の寺院と密接な関係があり、そのような条件も宮田館遺跡と呼ばれるこの地域周辺にはあるように感じられる。

4 若干のまとめ

頁数の関係で、今回の調査成果を要約すると下記のようにことが言える。

①宮田館遺跡とされているが、前述してきたように、城館跡というよりも寺院等の宗教施設が張り付いた、宗教遺跡^(注1)ではなかったのか。

②山頂部の二重の堀跡と丘陵地先端部のC空間とは、時期的に重複するのかどうかは今後の検討が必要となってくるが、時間差があると考えられる。

③C空間からA空間に向かって作られた、堀底状の通路は近世よりも古い時期に作られたもので、そのことから交通路の問題が浮上してくるのではないだろうか。

④B空間が城館跡として構築されていたとするならば、東側のD空間にはなんらかの遮蔽施設が作られると考えると、そのような施設が見られないことから、城館跡とは積極的には言えないのではないか。

おわりに

中世城館跡の繩張り調査は、あくまでも現時点で確認される遺構を図化しながら、城館跡の用途や機能、性格、階級などを知る手掛かりとなるが、今回の繩張り調査では宮田館遺跡とされているものが城館跡と解釈するには、あまりにも難しいと考えられる。

青森市刊行の『青森市史叢書1』には、山寺があったとする伝承が残されており重要な鍵となると思う。さらに、現存している銀杏の古木と寺院跡の関係などは、県内の類例と考えあわせても貴重な判断材料になるのではないかと考えられる。

いざれにしても、この周辺での埋蔵文化財発掘調査の成果などと照らし合わせながら、広い視野で宮田館遺跡とされる遺跡を考えていくことが必要である。

【註】

・註1 青森市刊行の『青森市史叢書1 民俗調査報告書第一集 矢田・宮田・瀧沢の民俗』(1999年)に記されている。

・註2 『新青森市史 資料編2 古代・中世』を参照していただきたい。

・註3 青森市刊行の『青森市史叢書1 民俗調査報告書第一集 矢田・宮田・瀧沢の民俗』(1999年)に記されている。

・註4 『新撰陸奥国誌第一巻』によると、宮田村の近くに「根小屋村」という村があり、根小屋村を大根小屋と呼んで、今の諏訪村の小字根小屋を小根小屋と呼んでいたという。このような地名は中世城館の存在を窺わせるような気がするが、今後の検討課題となる。

・註5 『新青森市史 資料編2 古代・中世』青森市刊行を参照していただきたい。

・註6 深浦町教育員会で調査を進めてきた「折曾之間跡」の繩張り調査において、高知大学教授の市村高男氏が指摘していることで、古寺と銀杏の巨木には密接不可分の関係があると指摘している。銀杏の葉のDNA分析によると深浦町の銀杏と鎌倉の銀杏のDNAが類似しているとの報告もされているという化学分析結果も示されている。

・註7 『中世據部の世界と南部氏』(2003) 七戸町教育委員会刊行の中で、市村高男氏が「中世七戸から見た南部氏と據部」の中で、銀杏の木と寺院跡についても詳しく述べられている。

・註8 青森市刊行の『青森市史叢書1』の中で菅江真澄の「栖の木」の寛政8年(1796)の条に「…略…寺のありしあとおぼしくて、五百とせよりこなたの石塔婆あまたふしまろび、…略…近きころこの畠中より、ここまで(高麗手)の陶皿あまた堀得しといふ」などのことから、中世時期の寺院跡の可能性が垣間見られる。

米山(2)遺跡 紹文土器観察表

団番号	整理番号	P番号	口径	底径	器高	出土位置	層位	器種	特徴	時期	型式
圓5-1	1-1	P-10			7.8 (25.8)	S1-33	1層	深鉢	[LR(縦)]	中期大差?	
圓5-2	4	P-4				S1-33	1層	深鉢	[LR(縦)], 太脚	中期大差?	大木10
圓5-3	5	P-5				S1-33	1層	深鉢	[LR(縦)], 内面被熱・ハジケ	中期大差?	大木10?
圓5-4	2	P-2				S1-33	1層	深鉢	[LR(縦)]	中期後葉～大差?	
圓5-5	3	P-3				S1-33	1層	深鉢	[LR(縦)], 太脚	中期後葉?	
圓5-6	6	P-7				S1-33	1層	深鉢	[LR(縦)], 太脚	中期後葉?	花?
圓6	7	P-1				S1-34	0.底面	深鉢	[LR(縦)]	中期後葉?	
圓8-1	14					S1-35	1層	深鉢	[LR(縦)], 鉢竹管・内面ミガキ	中期後葉?	円筒上盤e?
圓8-2	9	P-1				S1-35	1層	深鉢	[LR(縦)], 沈縫	中期大差?	楓林・鹿花
圓8-3	18					S1-35	2層	深鉢	[LR(縦)], 太脚, 内面ミガキ	中期後葉?	鹿花
圓8-4	19-1					S1-35	2層	深鉢	[LR(縦)], 内面無化物付唇	中期後葉～末	
圓8-5						S1-35	1層	深鉢	單脚少頭切	中期後葉?	
圓8-6	16					S1-35	1層	深鉢	[LR(縦)], 太脚, ミガキ	中期大差?	大木10?
圓8-7	21				9.1 (4.5)	S1-35	1層	深鉢	[LR(縦)], 沈縫	中期大差～後葉初頭	
圓8-8	22				12.8 (5.2)	S1-35	1層	深鉢	[LR(縦)], 沈縫, 指捺压痕, 底部彎曲	中期大差?	
圓8-9	11					S1-35	1層	洗鉢?	無文	後期中葉～後葉?	
圓8-10	12					S1-35	1層	洗鉢?	口縁状突起	後期後葉?	
圓8-11	13					S1-35	1層	洗鉢?	無文	後期後葉?	
圓10-1	80	P-189				S1-35	1層	洗鉢?	無文	後期後葉?	
圓10-2	24					S1-297	帶土	深鉢	[LR(横), 縱縫]	前期中葉	円筒下盤a~b
圓10-3	64					S1-297	帶土	深鉢	[LR(横), 沈縫]	前期後葉	円筒下盤c~d?
圓10-4	65					S1-297	帶土	深鉢	[LR(横), 内面ミガキ]	前期後葉?	円筒?
圓10-5	81	P-198				S1-297	帶土	深鉢	[LR(横), (ER本筋)], 内面ミガキ	前期後葉?	
圓10-6	82	P-199				S1-297	帶土	深鉢	[LR(横), 沈縫, 指捺压痕, 内面ミガキ]	中期中葉	円筒上盤?
圓10-7	25	P-1				S1-299	帶土	深鉢	口縫上押印, 竹筋, 沈縫, 沈縫	中期前葉?	円筒上盤?
圓10-8	84	P-213				S1-299	帶土	深鉢	[LR(横), 太脚, 凹形大脚压痕]	中期後葉?	楓林?
圓10-9	83	P-213				S1-299	帶土	深鉢	[LR(横), 太脚, 沈縫, LR(縦)]	中期後葉?	楓林
圓10-10	73	P-42				S1-299	帶土	深鉢	[LR(横), 沈縫, LR(縦), 内面ミガキ/ナゾ]	中期後葉	楓林・鹿花
圓10-11	74	P-118, 235				S1-299	帶土	深鉢	[LR(横), 沈縫, LR(縦), 内面ミガキ]	中期後葉	鹿花?
圓10-12	85	P-234				S1-299	帶土	深鉢	折り底, 口縫, 摩擦	中期大差?	地花?
圓10-13	42	P-16				S1-299	帶土	深鉢	折り底, 口縫, LR(横)	中期後葉?	地花?
圓10-14	66	P-99				S1-299	帶土	深鉢	折り底, 口縫, LR(縦)	中期後葉?	地花?
圓10-15a	49					S1-299	帶土	深鉢	折り底, 口縫	中期後葉?	地花?
圓10-15b	56	P-22				S1-299	帶土	深鉢	折り底, 口縫, 太脚, 内面ミガキ	中期後葉?	地花?
圓10-16a	39-1	P-7				S1-299	帶土	深鉢	底脚, 線縫	中期後葉?	地花?
圓10-16b	36	P-6				S1-299	帶土	深鉢	底脚, 線縫, 偏斜把手, 内面ミガキ	中期後葉?	楓林・鹿花
圓10-16c	38	P-4				S1-299	帶土	深鉢	底脚, 線縫	中期後葉?	楓林
圓11-17	70	P-81, 142				S1-300	深鉢	皮狀凹凸, 斜り底, LR(縦), 沈縫羽状(斜), 沈縫, 内面ミガキ	中期後葉	鹿花	
圓11-18	43	P-26				S1-300	深鉢	皮狀凹凸, LR(縦), 沈縫	中期後葉?	地花?	
圓11-19	77	P-137				S1-300	深鉢	皮狀凹凸, LR(縦), 沈縫, 亜脚刺突	中期後葉?	地花	
圓11-20	48					S1-300	深鉢	皮狀凹凸, LR(縦), 沈縫, 内面ミガキ	中期後葉?	地花	
圓11-21	28	P-1				S1-299	深鉢	単筋口縫	中期後葉?	大木10?	
圓11-22	75	P-132				S1-299	深鉢	折り底, 口縫, LR(縦), 内面ミガキ	中期後葉?	大木10?	
圓11-23						S1-299	深鉢	折り底?	後期～一期?		
圓11-24	79	P-152				S1-299	深鉢	[LR(縦), 沈縫, ミガキ]	中期後葉?	大木10	
圓11-25	35	P-46	23.9	10.3	43.0	S1-299	深鉢	[LR(縦), 沈縫, ミガキ, 底部網代压痕]	中期後葉?	大木10?	
圓11-26	71	P-81, 142	8.3	(10.4)		S1-299	深鉢	[LR(縦), 内面ナゾ/ミガキ]	中期後葉～後葉初頭		
圓11-27						S1-299	深鉢	口縫絞り返し, LR同一凹槽	後期後葉?		
圓11-28	31	P-2				S1-299	深鉢	底台付, 内外ミガキ	地期?		
圓11-29	52	P-21				S1-299	深鉢	皮狀凹凸, 皮狀凹凸(底部網代), 平行化縫, 起微, 異?	地期?		
圓11-30	49-1					S1-299	深鉢	皮狀凹凸(底部網代), 沈縫	弥生前期～中期?		
圓11-31	60	P-22				S1-299	深鉢	皮狀凹凸(土文字), 内面沈縫	弥生前期～中期?		
圓11-32	54	P-21				S1-299	深鉢	皮狀凹凸(土文字), 平行化縫, LR(縦)	弥生?		
圓11-33	59	P-28				S1-299	深鉢	平行化縫, 起微, 刺突	弥生?		
圓11-34	33	P-4	23.7	8.5	35.0	遺構外(ER2)	広口壺	皮狀凹凸(底部網代), 平行化縫, 起微, 沈縫(土文字), LR(縦), ミガキ	弥生前期～中期?		

米山(2)遺跡 細文時代の石器観察表

整理番号	図	番号	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重(g)	備考	備考2	石質	
3250	5	7	S133	フク士	6.75	5.6	1.3	S-×			珪質頁岩	
3009	8	12	SI-35	床面	4.9	2.8	1.3	1.6				
3018	8	13	SI-35	2層	6.3	6.55	2.3	70.0	頁岩			
3010	8	14	SI-35	床面	4.2	5.95	2.3	35.9				
3015	8	15	SI-35	覆土1層	4.8	5.5	1.3	27.4	S-5			
3000	8	16	SI-35	覆土1層	3.4	5.1	1.3	15.5	S-2			
3002	8	17	SI-35	覆土1層	2.45	3.2	0.6	30.0	S-4			
3007	8	18	SI-35	覆土1層	4.85	5.1	2.7	68.7	S-10			
3019	9		SK-216	2層	4.45	5.2	1.5	25.7	S-×		珪質頁岩	
3066	12	35	沢4	田層	3.1	1.5	0.65	2.7	S-10	P44と同地点	鈍石英	
3122	12	36	遺構外		2.7	1.3	0.3	1.7	S-39		珪質頁岩	
3123	12	37	遺構外		3.35	2.05	0.4	2.7	S-40		珪質頁岩	
3046	12	38	沢2		6.9	3.8	0.9	12.6	S-5		珪質頁岩	
3236	12	39	沢4	Ⅲ	5.4	3.7	1		S-1		珪質頁岩	
3124	12	40	遺構外		3.8	7	1.05	22.4	S-41	P-167と同地点	珪質頁岩	
3092	12	41	遺構外		3.2	4.5	0.7	8.7	S-2	P-6と同地点	珪質頁岩	
3106	12	42	遺構外		2.4	2.1	0.65	3.4	S-11		鈍石英	
3107	12	43	遺構外		0.9	4.6	0.8	36.9	S-23		珪質頁岩	
3246	12	44	SF129	フク士	2	4.7	0.9		S-×		珪質頁岩	
3247	12	45	SF129	フク士	4.2	3.5	1.7				珪質頁岩	
3055	12	46	沢4	田層	8.6	5.9	2.1	94.3	S-6		珪質頁岩	
3083	13	47	沢4	田層	5.2	6.2	1.8	50.6	S-12	P50と同地点	珪質頁岩	
3248	12	48	沢4	Ⅲ	5.5	6.1	1.7		S-8		珪質頁岩	
3042	12	49	沢2		5	6.8	2.35	80.0	S-3		珪質頁岩	
3048	13	50	沢2		7.35	7.65	1.8	75.1	S-6		珪質頁岩	
3130	12	51	遺構外		5.2	3.8	1.1	28.3	S-273		珪質頁岩	
3233	13	52	遺構外		2.35	1.7	1		S-59		珪質頁岩	
3040	13	53	沢2		7	4.8	1.7	55.3	S-1		珪質頁岩	
3249	13	54	沢4	Ⅲ	5.85	7.1	1.3		S-3		珪質頁岩	
3033	13	55	沢1	4層	7.7	6.6	2.9	109.9	S-3		珪質頁岩	
3251	13	56	SF170	1	1.5	1	1				ヒスイ	
3118	13	57	遺構外		4.55	2	0.3	6.2	S-35		粘板岩	
3209	13	58	遺構外	Ⅲ層	6.3	6.2	2.75	134	S-6		粗粒玄武岩	
3208	13	59	遺構外	Ⅲ層	12.3	5.1	2.55	232	S-5石斧		綠色片岩	
3224	13	60		覆土	9.2	5.35	2.5	200	S-1・1		角閃岩	
3230	13	61	遺構外			8.6	6.8	4.8		S-48		デイサイト
3221	13	62	遺構外	表探						570	S-×	凝灰岩
3232	13	63	遺構外			14.6	6.7	5		S-223		デイサイト
3210	13	64	遺構外	Ⅲ層	9.2	7.9	2.2	224	S-7		流紋岩	

米山(2)遺跡 古代以降の石器観察表

整理番号	図	番号	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重(g)	備考	日付	石質
3141	52	12	SE-94	覆土中位	13.4	8.2	4.8	850	S-4	6/13	安山岩
3146	57	20	SE-96	紺内覆土	12.5	5.2	5.2	620	S-×	7/3	流紋岩
3166	78	16	SE-110	覆土	13.5	8.2	4.6	302	S-×	10/3	安山岩
3173	95		SK-298	3層	5.15	1.9	1.25	12	S-1	10/17	凝灰岩
3233	97		SK-320	確認面	9.6	5.45	2.3		S-X		凝灰岩
3188	117	5	SW-02	8層	23.3	10.5	2.8	1160	S-×	10/18	粗粒玄武岩
3229	119	9	遺構外		8	8.7	0.8		S-217	11/9	凝灰岩

米山(2)遺跡 鉄製品観察表

国版番号	F番号	遺構名	層位	器種	特徴	諸要素
57-21	SE-96	紺内下層	銅り金具	中央に鏽跡のある穴	長さ5.3cm、幅5.0cm、厚さ0.35cm(推定7cm角)	
62-24	P-1	SE-100	紺内	刀子	木製柄残存、目打は木製	(刃身)長さ29.5cm、幅2.4cm、厚さ0.4cm、(刃渡り)19.2cm
90	Fe-1	SK-249	確認面	刀子柄		長さ11.5cm、幅2.6cm、厚さ0.2cm
105-13	Fe-1	PL1	4層	刀子		幅1.8cm、厚さ0.2cm
105-12	Fe-5	PL1	4層	鉄製品	板状の鉄を2枚重ねている可能性あり	長さ37.6cm、幅3.8cm、幅1.2cm
110-14	P-4	PL3	小斜井			長さ17.9cm、幅5.2cm、厚さ4.0cm
115-25	W00	SW-01	5層	純	木製柄残存、目打は鉄製、留金具	(刃身)長さ26.3cm、幅4.4cm、厚さ0.55cm、(柄)長さ23.5cm、幅3.3cm、厚さ1.7cm

米山(2)遺跡遺構内出土古代以降の土器・陶磁器観察表

通 番号	形態	出土場所	Pno	層位	種類	产地	器形	特徴	生産年代
41	1 182	SF128	2	3	陶器	侏羅	擂鉢		13c末～14c後半(IV)
41	2 181	SF128		1	陶器	侏羅	擂鉢		13c末～14c後半(IV)
41	19 15	SE96		仲内79土	陶器	侏羅	擂鉢	9本	13c末～15c前半(IV～V)
68	4	SE105	1	2	陶器	美濃?	?	亀の頭部を象り、中空。うなじには格子目が見られ、目の部分は粘土で貼り付けている。下部は熟成感跡が見られ、全体的に釉が剥がれなくなっている。	17c末～18c初頭?
71	4 183	SE106	1	確認面	陶器	侏羅	壺?	ロクロ巣形	?
71	5 184	SE106	2	2	陶器	侏羅?	壺?	ロクロ巣形	?
71	1 19	SK235	2	下	陶器	侏羅	擂鉢		13c後半(IV前)
89	2 18	SK235	3	フタ土	陶器	侏羅	擂鉢		14c初(IV中)
89	3 11	SK235	1	フタ土	陶器		擂鉢	9本	13c末～15c前半(IV～V)
90	1 41	SK246		3	青磁	中国	青州		14後～15
91	1 1	SK257	1	2	陶器	侏羅	片口擂鉢		14c初(IV中)
91	1 34	SK259	1	1	白磁	中国	水注	底部外周に把手の跡離れた痕跡	12C
94	2 32	SK259		1	陶器	瓶戸	合子	瓶戸?	古董?
33	1 26	SK280	1		陶器	侏羅	擂鉢		13c末～15c前半(IV～V)
105	36	SP3339		フタ土	白磁	中国	壺	透明釉、C群	14～15
105	1 52	沢1 IV0192	13	4	土器	在地	かわらけ	手づくね、口縁3段ナダ	12C末～13C始?
105	2 46	沢1 IVN190	6		青磁	中国	壺?	鍼透弁文	13～14c
105	3 38	沢1 IVM187	9	4	青磁	中国		泡透透弁文 B9、横田皿	13～14
105	4 37	沢1 IV0193	4		青磁	朝鮮	壺?	象嵌	14～15
105	5 47	IV0188	14		陶器	瓶戸	天日輪	古瓶戸	14C後半
105	6 43	IV0188	14		陶器	瓶戸	天日輪	古瓶戸	14C後半
105	7 21	沢1 IVM186	10	4	陶器	侏羅	擂鉢		13c後半～14c初頭(IV前～中)
105	8 28	沢1 IVN193	1	1	陶器	侏羅	壺		12c後半～13c初(Ⅰ～Ⅱ)
105	9 5	SN17	2	純土	陶器	侏羅	壺	破断面彫刻	13c末～15c前半(IV～V)
105	10 22	沢1 IV0193	6	4	陶器	侏羅	壺		12c後半～13c初(Ⅰ～Ⅱ)
110	1 50	沢3 IVB199?		フタ土	土器	在地	小壺	手づくね、口縁2段ナダ	12C末～13C始?
110	2 16	沢3 IIIPI91	16	2	須恵器	五所川原	壺		
110	2 53	沢3 IIIPI91	15	2	土器	在地	壺?	手づくね、口縁2段ナダ、黒底	12C末～13C始?
110	3 51	沢3 IIIQ191	8	2	土器	在地	大壺?	手づくね、2段ナダ?	12C末～13C始?
110	4 44	沢3 IIIPI90	11	2	陶器	瓶戸	青州	脚付き、球彌、外底無輪、後期様式	14～15C?
110	5 42	沢3 IIS194	7	2	青磁	中国	壺?	高台内面無輪 B1	13～14c
110	6 29	沢3 IIS197	3	2	陶器	侏羅	擂鉢		12c後半～13c初(Ⅰ～Ⅱ)
110	7 30	沢3 IIS197	5	2	陶器	侏羅	擂鉢	外底面板目压痕、底面付近削痕押凹、6+14	13c末～15c前半(IV～V)
110	8 27	SC14横 WB200	23		陶器	侏羅	擂鉢	内面凹目	14c初(IV中)
110	9 12	沢3 IIIQ191	12	3	陶器	侏羅	壺	外表面9+12	
110	9 9	沢3 IIIQ192	9	2	陶器	侏羅	壺	外表面9+12	
110	10 6	沢3 IIS194	6	2	陶器	侏羅	擂鉢		
110	10 14	沢3 RI94	14	2	陶器		擂鉢		13c末～15c前半(IV～V)
110	11 24	沢3 IIIR192	2	2	陶器	侏羅	擂鉢	被然、破断面磨耗	13c末～15c前半(IV～V)
117	1	SW02	1	底面	土器	在地	小壺?	内外面ナダ?	12C末～13C始?

米山(2)遺跡遺構出土古代以降の土器・陶磁器観察表

備考	番号	器種	出土地点	Pno	層位	種類	産地	器種	特徴	生産年代
118	1	鉢2		15		土器	在地	製塙土器	底部付延縁押正、外底面板目压痕	平安後期?
118	2185	SK257		1	フリ土	須恵器	五所川原	壺	磨滅	平安後期?
118	3/25	PC3 III R193		19	2	須恵器	五所川原	壺		平安後期?
118	4/8	用水路1		8		須恵器	五所川原	壺?		平安後期?
118	5/16	PC3		16		須恵器	五所川原	壺		平安後期?
118	6/23	III P188		167		須恵器	五所川原	須恵器壺		
118	7/7	SN17		1	焼土	須恵器	五所川原	壺		
118	8/10	PC3 III Q192		10	2	須恵器	五所川原	壺		
118	9/20	III R197		203		須恵器	五所川原	壺		
119	1/35	III R194		158		青磁	中国	环	施磁蓮弁文	13~14
119	2/187	IV L186		223		青磁	中国	碗	口唇部反り	14~15c
119	3/48	IV C193?	表様(B区中央付近)			陶器	瀬戸	豆皿	豆皿?外底面条痕	14世紀後半
119	4/2	IV O191		5		陶器	珠洲	盤鉢		14c初(IV中)
119	5/17	IV R189		17	II	陶器	珠洲	盤鉢		13c末~14c後半(W)
119	6/4	用水路1				フリ土	陶器	床鉢	口唇部内面に波状文	14c末~15c前半(V)
119	7/31	III T191		201		陶器	床鉢			14c後半(Vに近い)
119	8/3	IV R190		2		陶器	床鉢			13c末~14c後半(W)
120	1	104		172		磁器	肥前	碗?	青磁釉	肥前 II - III
120	2	99				磁器	肥前	碗?	青磁釉、蛇の目釉剥ぎ	肥前 IV
120	3	190		34		磁器	肥前	碗?	蛇の目釉剥ぎ	肥前 IV
120	4	108		201		磁器	肥前	碗?	蛇の目釉剥ぎ	肥前 IV - V
120	5	198		28		磁器	肥前	碗?	垂付釉剥ぎ	肥前 IV
120	6	114		14		磁器	肥前	碗?	見込みに二重圓綻	肥前 IV
120	7	191		218		磁器	肥前	碗?	蛇の目釉剥ぎ、垂付釉	肥前 IV
120	8	92		9		磁器	肥前	碗?	剥ぎ	肥前 IV
120	9	91	SP129			磁器	肥前	碗?	壇模文、二重圓綻	肥前 IV - V
120	10	88	用水路1	8		磁器	肥前	碗?	二重綻	肥前 IV - V
120	11	125		18		磁器	肥前	碗?	内面青釉、垂付釉剥ぎ	肥前 IV - V
120	12	209		33		磁器	肥前	碗?	青磁釉	肥前 V
120	13	89	用水路1	8		磁器	肥前	碗?	肥前	肥前 V
120	14	197		207		磁器	肥前	碗?	青磁釉	肥前 V
120	15	90		2		磁器	肥前	碗?		肥前 V
120	16	95		55		磁器	肥前	碗?		肥前 V
120	17	96		6		磁器	肥前	碗?	垂付釉剥ぎ	肥前 V
120	18	112		201		磁器	肥前	合子蓋	青磁釉	
120	19	130	SK229	1		陶器	唐津	壺?	内・灰釉、外・灰釉(下半遮船)	唐津 I - II
120	20	163		159		陶器	唐津	碗?	鈍絞釉、蛇の目釉剥ぎ	唐津 III - IV
120	21	199		223		陶器	唐津	鉢	鈍釉・灰釉(刷毛目)	唐津 III - IV
120	22	138		169		陶器	唐津	盤鉢?	鈍釉、漆灑	唐津 III - IV
120	23	195		27		陶器	唐津	鉢	鈍釉	唐津 IV
120	24	193		64		陶器	唐津	鉢	鈍釉・灰釉(刷毛目)	唐津 III - IV
120	25	154				陶器	唐津	壺?	鈍釉・灰釉(刷毛目)	唐津 III - IV
120	26	151		17		陶器	唐津	鉢?	鈍釉・灰釉(刷毛目)	唐津 IV
120	27	161		92		陶器	唐津	盤鉢	鈍釉	唐津 III - IV
120	28	146		159		陶器	唐津	碗?	蛇の目釉剥ぎ、高台内面に墨書き「十」、開脚、打ち欠き、灯明芯の押さえとして再利用か?	唐津 IV

米山(2)遺跡出土木製品觀察表

件番	遺跡名	遺物名	量	位置	形態	(単位)	材種	材質	断面形状	寸法	材幅	材厚	材長	断面積	断面積×材長	表面状況	表面処理	備考		
																		規格	実寸	
47-2		642	S6993	3	下層	φ=7.3	板	杉	丸孔	(18.9)	1.2	4.1	1.45	1.45×7.3	10.53	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-3		641	S6993	板土	Y=4	平明	φ=6.5	木	丸孔	(21.0)	1.2	4.5	1.45	1.45×6.5	9.85	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-4		108	S6993	板土	Y=1	平明	φ=6.0	木	丸孔	(24.2)	1.1	2.96	1.45	1.45×6.0	8.51	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-5		646	S6993	板土	Y=2	平明	φ=5.5	木	丸孔	(35.5)	1.3	6	1.45	1.45×5.5	26.75	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-6		644	S6993	3	Y=1+1	平明	φ=5.0	木	丸孔	(38.6)	1.3	6	1.45	1.45×5.0	26.70	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-7		645	S6993	板土	Y=1	平明	φ=4.9	木	丸孔	(38.9)	0.06	7	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-8		647	S6993	板土	Y=5	平明	φ=4.5	木	丸孔	(38.1)	0.5	3.45	1.45	1.45×4.5	16.35	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-9		643	S6993	3	Y=10	平明	φ=4.9	木	丸孔	(38.9)	0.06	7	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-10		653	S6993	3	Y=14	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.5	4.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-11		650	S6993	3	Y=19	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.6	5.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-12		652	S6993	3	Y=21	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.6	5.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-13		653	S6993	3	Y=21	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.6	5.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-14		654	S6993	3	Y=21	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.6	5.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-15		659	S6992	板土	Y=26	平明	φ=4.9	木	丸孔	(21.0)	0.06	3.45	1.45	1.45×4.9	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-16		652	S6993	3	Y=12	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.6	5.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-17		650	S6992	3	Y=6	平明	φ=4.9	木	丸孔	(71.0)	0.6	5.6	1.45	1.45×4.9	21.05	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-18		655	S6992	3	Y=16	樹苔	φ=6.0	木	丸孔	(68.0)	0.2	3.2	1.45	1.45×6.0	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-19		654	S6992	3	Y=15	樹苔	φ=6.0	木	丸孔	(78.2)	0.7	4	1.45	1.45×6.0	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-20		658	S6992	3	Y=25	樹苔	φ=6.0	木	丸孔	(78.4)	0.2	4.2	1.45	1.45×6.0	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-21		651	S6992	3	Y=9	平明	φ=5.5	木	丸孔	(41.0)	0.6	3.6	1.45	1.45×5.5	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-22		649	S6992	3	Y=5	平明	φ=5.5	木	丸孔	(42.0)	0	4	1.45	1.45×5.5	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-23		651	S6993	—	Y=5	平明	φ=4.9	木	丸孔	(34.4)	0.6	3.6	1.45	1.45×4.9	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-24		652	S6993	板土	Y=1	平明	φ=6.0	木	丸孔	(21.0)	0.7	6.7	1.45	1.45×6.0	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-25		640	S6993	板土	Y=3	平明	φ=6.0	木	丸孔	(22.7)	0.1	0.4	1.45	1.45×6.0	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-26		646	S6993	板土	Y=1	樹苔	φ=5.5	木	丸孔	(38.3)	0.3	2	1.45	1.45×5.5	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-27		661	S6993	—	Y=5	平明	φ=5.5	木	丸孔	(34.4)	0.6	3.6	1.45	1.45×5.5	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-28		642	S6993	板土	Y=1	平明	φ=6.0	木	丸孔	(21.0)	0.6	3.6	1.45	1.45×6.0	10.55	圓孔	丸孔	アーチナロ		
47-29		145-①	S6994	樹土	Y=9+1	平明	φ=6.0	木	丸孔	(22.3)	0.9	1.65	1.45	1.45×6.0	10.55	上圓底	上圓底	アーチナロ		
47-30		145-②	S6994	樹土	Y=9+2	平明	φ=6.0	木	丸孔	(17.0)	0.0	1.3	1.45	1.45×6.0	10.55	上圓底	上圓底	アーチナロ		
47-31		641	S6994	樹土	Y=9	食器板	φ=6.0	木	丸孔	(17.4)	0.1	0.6	1.45	1.45×6.0	10.55	上圓底	上圓底	アーチナロ		
47-32		646	S6994	下盤	Y=1	花火	φ=6.0	木	丸孔	(12.0)	0.3	1.2	1.45	1.45×6.0	10.55	上圓底	上圓底	アーチナロ		
47-33		646	S6994	下盤	Y=2	平明	φ=6.0	木	丸孔	(36.4)	0.06	3.4	1.45	1.45×6.0	10.55	上圓底	上圓底	アーチナロ		
47-34		647	S6994	下盤	Y=3	平明	φ=6.0	木	丸孔	(36.7)	0.06	3.4	1.45	1.45×6.0	10.55	上圓底	上圓底	アーチナロ		

登録番号	遺物名	材質	形状	寸法	説明	参考文献
35-2	045 S5094 磁土中 磁土中	土	平窓	φ14	不明	(38.0) 1.8~
35-3	027 S5094 磁土中 磁土中	土	平窓(通水孔)	φ15	不明	(38.0) 1.8~
35-4	064 S5094 磁土中 磁土中	土	平窓	φ13	不明	(38.0) 1.8~
35-5	127 S5095 磁土中 磁土中	土	平窓(通水孔)	φ14	2.3~	1.4 横幅、上端に加工あり ヒノキ材アラコ風
35-6	138 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ13	不明	(38.0) 2.3~
35-7	125 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ13	不明	(38.0) 2.3~
35-8	129 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓(通水孔)	φ10	2.2~	4.75 横幅、上端に加工あり ヒノキ材アラコ風
36-5	136 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ17	不明	(38.0) 2.6~
36-6	073 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ15	不明	(38.0) 2.6~
36-7	070 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ12	不明	(38.0) 2.6~
36-8	077 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓(通水孔)	φ15	不明	(38.0) 2.6~
36-9	074 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ16	不明	(38.0) 2.6~
36-10	071 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ12	不明	(38.0) 2.6~
36-11	075 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ10	無付	(38.0) 2.6~
36-12	072 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ12	不明	(38.0) 2.6~
36-13	077 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ13	不明	(38.0) 2.6~
36-14	136 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ13	不明	(38.0) 2.6~
36-15	069 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ19	短小	(38.0) 2.6~
36-16	076 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ17	不明	(38.0) 2.6~
37-1	031 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓(通水孔)	φ13	不明	(38.0) 2.6~
37-2	032 S5096 磁土中 磁土中	土	平窓	φ16	不明	(38.0) 2.6~
38-1	037 S5097 磁土中 磁土中	土	平窓(通水孔)	φ1	無縫(内側)	(38.0) 2.6~
38-2	078 S5099 上端 磁土中 磁土中	土	平窓	φ21	不明	(38.0) 2.6~
41-2	193 S5099 上端 磁土中 磁土中	土	平窓	φ9	不明	(38.0) 2.6~
41-1	063 S1000 磁土中 磁土中	土	平窓	φ49	不明	(38.0) 2.6~
41-2	065 S1000 磁土中 磁土中	土	平窓	φ20	無縫	(38.0) 2.6~

測量結果												測量結果																
測点番号	測量日	測量員	測量方法	測量距離(m)	測量高さ(m)	測量傾斜角(度)	測量方位角(度)	測量結果				測量員	測量方法	測量距離(m)	測量高さ(m)	測量傾斜角(度)	測量方位角(度)	測量結果										
								測量値	標準値	誤差	測量値				測量員	測量方法	測量値	標準値	誤差	測量員	測量方法	測量値	標準値					
61-3	190	SEI00	仲木	845	下限	1.45~2	108.2	25.8	1.45~2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-4	079	SEI00	仲木	845	中限	—	—	(68.65)	6.9	1.9	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-5	084	SEI00	仲木	845	下限	—	—	(68.2)	18.3	1.76	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-6	135	SEI00	仲木	845	中限	—	—	(67.7)	12	2	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-7	081	SEI00	仲木	845	下限	—	—	(68.2)	10.6	1.9	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-8	082	SEI00	仲木	845	中限	—	—	(71.7)	18.4	1.4	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-9	080	SEI00	仲木	845	下限	—	—	(76.27)	10.0	2.65	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-10	111	SEI00	仲木	845	中限	8.5~1.7	8.5~1.7	(81.9)	32	3.6	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-11	159	SEI00	仲木	845	下限	8.5~1.7	8.5~1.7	(82.9)	41.9	4.19	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-12	098	SEI00	仲木	845	中限	8.73	8.89	(83.9)	41.6	4.8	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-13	110	SEI00	仲木	845	下限	8.73	8.89	(84.9)	10.8	2.18	標準	アスラロ	上限	108.2	25.8	1.45~2	108.2	1.45~2	±0.05	下限	1.45~2	108.2	25.8					
61-14	089	SEI00	仲木	845	中限	8-1	8-1	標準	アスラロ	上限	25.8	6	±0.5~	アスラロ	上限	25.8	6	±0.5~	アスラロ	上限	25.8	6	±0.5~					
61-15	136	SEI00	仲木	845	下限	8-2	8-1	標準	アスラロ	上限	22	1.15	0.6	標準	アスラロ	上限	22	1.15	0.6	標準	アスラロ	上限	22	1.15	0.6			
61-16	137	SEI00	仲木	845	中限	8-2	8-2	標準	アスラロ	上限	17.2	0.8	0.4	標準	アスラロ	上限	17.2	0.8	0.4	標準	アスラロ	上限	17.2	0.8	0.4			
61-17	168	SEI00	仲木	845	下限	8-1~14	8-1~14	標準	アスラロ	上限	73.1	3	0.75	標準	アスラロ	上限	73.1	3	0.75	標準	アスラロ	上限	73.1	3	0.75			
61-18	626	SEI00	仲木	845	中限	8-1~3	8-1~3	標準	アスラロ	上限	26.1	2	—	標準	アスラロ	上限	26.1	2	—	標準	アスラロ	上限	26.1	2	—			
61-19	087	SEI00	仲木	845	下限	8-1~3	8-1~3	標準	アスラロ	上限	19.3	2.1	1.7	標準	アスラロ	上限	19.3	2.1	1.7	標準	アスラロ	上限	19.3	2.1	1.7			
61-20	688	SEI00	仲木	845	中限	8-1~4	8-1~4	標準	アスラロ	上限	6.12	0.165	0.3	標準	アスラロ	上限	6.12	0.165	0.3	標準	アスラロ	上限	6.12	0.165	0.3			
61-21	015	SEI00	仲木	845	下限	8-1~4	8-1~4	標準	アスラロ	上限	(16.16)	(0.1)	(0.1)	標準	アスラロ	上限	(16.16)	(0.1)	(0.1)	標準	アスラロ	上限	(16.16)	(0.1)	(0.1)			
61-22	088	SEI00	仲木	845	中限	—	—	(27.4)	9.0	1.65	標準	アスラロ	上限	27.4	9.0	1.65	標準	アスラロ	上限	27.4	9.0	1.65	標準	アスラロ	上限	27.4	9.0	1.65
61-23	017	SEI00	仲木	845	下限	8-1~4	8-1~4	標準	アスラロ	上限	(27.0)	9.8	0.4~	標準	アスラロ	上限	(27.0)	9.8	0.4~	標準	アスラロ	上限	(27.0)	9.8	0.4~			
61-24	114-0	SEI01	下限	845	中限	8-1~4	8-1~4	標準	アスラロ	上限	(27.0)	9.8	0.4~	標準	アスラロ	上限	(27.0)	9.8	0.4~	標準	アスラロ	上限	(27.0)	9.8	0.4~			
61-25	189-0	SEI01	4	845	下限	8-1~4	8-1~4	標準	アスラロ	上限	21.2	0.8	0.6	標準	アスラロ	上限	21.2	0.8	0.6	標準	アスラロ	上限	21.2	0.8	0.6			
61-26	189-0	SEI01	4	845	中限	8-1~2	8-1~2	標準	アスラロ	上限	(17.16)	0.6	0.4~	標準	アスラロ	上限	(17.16)	0.6	0.4~	標準	アスラロ	上限	(17.16)	0.6	0.4~			
61-27	189-0	SEI01	4	845	下限	8-1~2	8-1~2	標準	アスラロ	上限	(18.45)	0.6	0.3~	標準	アスラロ	上限	(18.45)	0.6	0.3~	標準	アスラロ	上限	(18.45)	0.6	0.3~			
61-28	114-0	SEI01	下限	845	中限	8-1~6~3	8-1~6~3	標準	アスラロ	上限	(21.16)	0.6	0.6	標準	アスラロ	上限	(21.16)	0.6	0.6	標準	アスラロ	上限	(21.16)	0.6	0.6			
61-29	—	SEI01	—	845	下限	8-1~6~4	8-1~6~4	標準	アスラロ	上限	(21.16)	0.6	0.4~	標準	アスラロ	上限	(21.16)	0.6	0.4~	標準	アスラロ	上限	(21.16)	0.6	0.4~			
61-30	189-0	SEI01	4	845	中限	8-1~7~5	8-1~7~5	標準	アスラロ	上限	(12.1)	0.45	0.45	標準	アスラロ	上限	(12.1)	0.45	0.45	標準	アスラロ	上限	(12.1)	0.45	0.45			
61-31	189-0	SEI01	4	845	下限	8-1~7~6	8-1~7~6	標準	アスラロ	上限	(7.60)	0.6	0.5~	標準	アスラロ	上限	(7.60)	0.6	0.5~	標準	アスラロ	上限	(7.60)	0.6	0.5~			
61-32	114-0	SEI01	下限	845	中限	8-1~9~2	8-1~9~2	標準	アスラロ	上限	(8.46)	0.6	0.5~	標準	アスラロ	上限	(8.46)	0.6	0.5~	標準	アスラロ	上限	(8.46)	0.6	0.5~			

			遺物名	種類	形態	寸法	性別	年齢	状況	備考	出土地点	地層	出土位置	出土状況	発見者	記入者	記入日
65-11	174-④	SE101	下顎	骨	4-6才	不明	(8.0)	4.75	0.55	極次	新小						
65-12	173	SE101	下顎	骨	4-5才	不明	(8.0)	4.4	0.55	極次							
65-13	178	SE101	4	骨	5才	不明	(13.0)	4.3	0.3	後頭部・乳頭部・頭頂部・枕部	2才以上						
65-14	175-②	SE101	下顎	骨	5才-6才	不明(複数)	(16.4)	4.0	0.35	極次	上に軽くあり						
65-15	185-④	SE101	4	骨	5才-7才	不明	(5.5)	3.15	0.2	極次	頭に当たる						
65-16	693	SE101	4	骨	9才	極小	(10.2)	2.5	0.2	後頭部・頭頂部	2才以上						
65-17	175	SE101	4	骨	9才-11才	不明	(12.0)	4.5	0.45	極次	ヒノキアラゴニ						
65-18	179	SE101	4	骨	9才-11才	不明	(10.1)	5.0	0.3	極次	頭頂部・枕部						
65-19	172-①	SE101	下顎	骨	9才-11才	不明	(28.7)	0.9	0.2	極次	頭頂部・枕部						
65-20	172-②	SE101	下顎	骨	9才-12才	不明	(23.16)	3	1.0	極次	下顎骨						
65-21	177	SE101	4	骨	5才-6才	不明	(13.0)	2.4	0.45	極次	一頭化						
65-22	178	SE101	4	骨	5才-6才	不明	(17.0)	5.6	1.0	極次	一頭化						
65-1	141	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(15.6)	10	2.6	極次	頭頂部	上					
65-2	146	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(45.7)	3.1	1.1	極次	頭頂部	上					
65-3	143	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(46.3)	16.4	1.8	極次	下顎骨						
65-4	148	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(61.0)	17.8	2.1	極次	下顎骨						
65-5	144	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(43.0)	8.8	1.5	極次	下顎骨						
65-6	145-①	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(68.0)	0.75	0.3~	極次	乳頭部の側に						
65-7	145-②	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(27.0)	7.6	0.65	極次	一頭化						
65-7	147	SE104	骨	骨	5才-6才	不明	(28.2)	7.5	1.2	極次							
65-8	139	SE104	—	骨	6才	不明	(61.0)	12.95	0.5~	極次	乳頭部						
65-9	140	SE104	骨	骨	6才-7才	不明	(18.0)	1.1	3.0~	極次	乳頭部						
65-10	151	SE104	骨	骨	6才-7才	不明	(68.0)	0.7	2.5	極次							
65-11	183	SE104	骨	骨	6才-7才	不明	(21.0)	0.55	0.3	極次							
65-12	150	SE104	骨	骨	7才	不明	(18.0)	2.15	0.75	極次	2才と重複する						
65-13	149	SE104	骨	骨	7才	不明	(18.0)	1.25	0.2	極次							
65-14	696	SE104	ワタバ	骨	7才	不明	(17.0)	0.9	0.1	極次	頭頂部						
65-15	145	SE104	骨	骨	7才	不明	(15.0)	4.5	0.85	極次	一頭化						
65-16	188	SE105	—	骨	7才	毛か	(26.0)	0.25	0.75	極次	下顎骨						
65-17	287	SE105	—	骨	7才	毛か	(27.0)	4.9	2.0~	極次	下顎骨						
65-18	149	SE105	—	骨	7才	不明	(21.0)	0.15	3.45	極次	乳頭部						

地番	区画	地名	面積	形状	測量	測量員	測量日	測量結果		備考
								面積	形状	
69-1	010	SE1006	面積	測量	測量	6.4	6.4	6.4	6.4	面積のつり合ひ、本木 （庄内川左岸から）ト 万葉物語あり
69-2	022	SE1006	面積	測量	測量	26.4	3.65	0.39	0.39	面積のつり合ひ、本木 （庄内川左岸から）ト 万葉物語あり
69-3	021	SE1006	面積	測量	測量	12.3	0.85	0.73	0.73	面積のつり合ひ、本木 （庄内川左岸から）ト 万葉物語あり
71-1	006	SE1008	面積	測量	測量	15.65	3.05	2.16	2.16	面積のつり合ひ、本木 （庄内川左岸から）ト 万葉物語あり
71-2	183	SE1008	2	面積	測量	(28.2)	15.8	2.16	2.16	面積のつり合ひ
71-3	149	SE1008	2	面積	測量	(15.0)	8.1	1.17	1.17	面積のつり合ひ
77-4	191-4	SE110	-	面積	測量	12.3	3.25	2.16	2.16	面積のつり合ひ
77-4	191-5	SE110	-	面積	測量	(13.0)	10	7.6	7.6	面積のつり合ひ
77-4	191-6	SE110	-	面積	測量	11.05	2.8	1.71	1.71	面積のつり合ひ
77-4	191-C	SE110	-	面積	測量	(12.7)	1.63	1.63	1.63	面積のつり合ひ
77-4	191-D	SE110	-	面積	測量	4	1.36	1.2	1.2	面積のつり合ひ
77-2	199	SE110	面積上	測量	測量	(72.55)	(13.6)	0.9	0.9	面積のつり合ひ
77-3	196	SE110	面積上	測量	測量	(64.1)	13.3	1	1	面積のつり合ひ
77-4	194	SE110	面積	測量	測量	(54.3)	12.1	1.1	1.1	面積のつり合ひ
77-5	195	SE110	2	面積	測量	(26.90)	11.15	1.05	1.05	面積のつり合ひ
77-6	199	SE110	-	面積	測量	(11.0)	0.80	0.80	0.80	面積のつり合ひ
77-7	192	SE110	無木(53)	面積	測量	(38.46)	4.9	4.4~4.2	4.4~4.2	一分合ツトアリ
77-8	198	SE110	面積	測量	測量	(22.2)	8.5	1.26	1.26	面積のつり合ひ
77-9	197	SE110	面積上	測量	測量	(6.1)	2.8	0.96	0.96	面積のつり合ひ
77-10	010	SE110	-	面積	測量	(7.0)	1.4	0.76	0.76	面積のつり合ひ
77-11	012	SE110	-	面積	測量	26.75	(6.96)	1	1	面積のつり合ひ
78-12	013	SE110	面積上	測量	測量	27.4	36.05	2.16	2.16	面積のつり合ひ
78-13	014	SE110	2	面積	測量	35.1	(14.1)	1.47	1.47	面積のつり合ひ
78-14	011	SE110	-	面積	測量	(18.2)	11.2	1.45	1.45	面積のつり合ひ
78-15-1	019-①	SE110	2	面積	測量	16.16	(6.45)	1.3	1.3	面積のつり合ひ
78-15-2	019-②	SE110	2	面積	測量	(12.7)	5.6	1.1	1.1	面積のつり合ひ
78-15-3	019-③	SE110	2	面積	測量	12.9	(2.45)	1.1	1.1	面積のつり合ひ
78-15-4	019-④	SE110	2	面積	測量	(12.2)	(6.6)	1.1	1.1	面積のつり合ひ
114-1	184	SE111	2	面積	測量	(26.2)	(18.6)	0.6	0.6	面積のつり合ひ
114-2	015	SE111	面積	測量	測量	15	(8.3)	0.65	0.65	面積のつり合ひ

日付	場所	遺物名	形態	寸法	材質	状態	特徴	参考文献
114.3	385	SII11	縦板	W=1.7 D=0.7 H=0.9	木	良	1.1~2.4cmに断面 横板 全ての面に漆 跡	
75.4	186	SII13	板土	W=1	不明	0.45	2.4cmに断面 横板 全ての面に漆 跡	
79.1	202	SII14	板土	W=5	不明	0.4	8.5cmに断面 横板 下端に加熱あり	
79.2	200	SII14	板土	W=1	不明	0.45	0.75~2.5cmに断面 横板 異常に断面が細い	
79.3	201	SII14	板土	W=4	不明	0.15	1.1~1.3cmに断面 横板	アメトロ AM4-2719
81.1	205-②	SII16	板土	W=2	漆	0.2	0.65	1.3cmに断面 横板 一層漆付
81.2	205-①	SII16	板土	W=1	漆	21.35	0.8	0.3cmに断面 横板
81.3	205-③	SII16	板土	W=3	漆	0.40	0.7	0.4cmに断面 横板
81.4	205-④	SII16	板土	W=1	漆	0.40	0.45	0.7cmに断面 横板 異常に断面が細い
81.5	205-⑤	SII16	板土	W=3	漆	0.35	0.35	0.7cmに断面 横板
81.6	205-⑥	SII16	板土	W=1	漆	0.35	0.35	0.7cmに断面 横板
82.1	206	SII18	板土	W=5	不明	0.4	15.95cmに断面 横板 全ての面に漆 跡	
86.1	208	SII22	4	W=6	不明	0.40	16.3cmに断面 横板 全ての面に漆 跡	
86.2	206	SII22	2	W=2	不明	0.40	15cmに断面 横板 上下端が加工された 横板	
86.3	207	SII22	2	W=3	漆付	0.25	4.7cmに断面 横板	
86.4	209	SII22	4	W=1.7	漆付	0.35	15.5cmに断面 横板	
87.1	214	SII23	1	W=1.7	漆付	0.40	15.4cmに断面 横板	
87.2	212	SII23	板土	W=17	不明	0.40	4.65cmに断面 横板	
87.3	210	SII23	1	W=4	不明	0.40	2.6cmに断面 横板	
87.4	058	SII23	板土	W=1	漆付(漆)	0.25	1.3cmに断面 横板	
87.5	211	SII23	1	W=4	不明	0.40	4.35cmに断面 横板	
88	166	SII29	3	W=1	不明	0.30	2.2cmに断面 横板	
89.4	213	SII34	T型	W=10	漆付	0.13	5.6cmに断面 横板	
89.5	120	SII35	T型	W=10	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	
89.6	118	SII35	T型	W=10	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	アメトロ AM4-271
89.7	114	SII35	T型	W=10	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	アメトロ AM4-271
90.8	115	SII35	T型	W=10	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	
90.9	113	SII35	T型	W=10	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	
90.10	113	SII35	T型	W=10	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	
90.11	112	SII35	T型	W=25	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	
90.12	121	SII35	T型	W=3	漆付	0.15	5.6cmに断面 横板	
90.13	116	SII35	T型	W=20	不明	0.15	5.6cmに断面 横板	
90	169	SII37	1	W=1	漆付	0.20	0.8cmに断面 横板	
90	171	SII38	-	不明	0.20	0.5	1.5cmに断面 横板	アメトロ AM4-272

遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号
90	170	S6251	3	土	1	土	1	土	1	土	1	土	1	土	1
91	145	S6257	瑞士												
92-1	916	S6251	底面付												
92-2	917-①	S6251	底面付 底												
92-3	917-②	S6251	底面付 底												
92-4	168	S6251	底面付												
92-5	168	S6251	底面付												
92-6	167-①	S6251	底面付 底												
93	689	S62111	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱
93	104	S62112	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱
93	690	S62117	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱
93	130	S62118	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱
93	691	S62119	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱
93	131-①	S62116	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
93	103-5, 6, 7, 8,	S6143	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
93	634	S6143	底面付												
107-4881	154	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4882	134	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4883	155	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4884	156	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4885	157	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4885-1	159	尻J木6101	4	尻J木6102	4	尻J木6103	4	尻J木6104	4	尻J木6105	4	尻J木6106	4	尻J木6107	4
107-4885-2	158	尻J木6101	4	尻J木6102	4	尻J木6103	4	尻J木6104	4	尻J木6105	4	尻J木6106	4	尻J木6107	4
107-4886	160	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4887	161	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4888	162	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4889	133	尻J木6101	1	尻J木6102	1	尻J木6103	1	尻J木6104	1	尻J木6105	1	尻J木6106	1	尻J木6107	1
107-4889-1	163	尻J木6101	4	尻J木6102	4	尻J木6103	4	尻J木6104	4	尻J木6105	4	尻J木6106	4	尻J木6107	4
107-4889-2	164	尻J木6101	6	尻J木6102	6	尻J木6103	6	尻J木6104	6	尻J木6105	6	尻J木6106	6	尻J木6107	6
94-1	991	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6
94-2	992	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6	S601	6

出土地点	遺物名	性質	形態	大きさ	寸法(cm)	説明	出土地点	遺物名	性質	形態	大きさ	寸法(cm)	説明
114-3	038	3901	5	平-12	金物(底小) (柄の内側)	10 (5.35) 0.6 高さ 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材ローラー				
114-4	044	3901	6	平-13	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-5	029	3901	5	平-12	金物(底小) (柄の内側)	11.1 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-6	030	3901	6	平-12	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-7	092	3901	2	平-1	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-8	095	3901	5	平-21	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-9	024	3901	5	平-49	下鏡	3.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-10	628	3901	5	平-7	下鏡(鏡中)	12.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-11	119	3901	5	平-9	金物(底小) (柄の内側)	12.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-12	108	3901	6	平-74	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-13	153	3901	5	平-40	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-14	693	3901	5	平-5	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-15	096	3901	5	平-41	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
114-16	097	3901	5	平-59	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
115-17	122	3901	5	平-50	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
115-18	099	3901	5	平-72	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
115-19	134	3901	5	平-47	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
115-20	094	3901	5	平-29	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
115-21	098	3901	5	平-54	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
115-22	123	3901	5	平-23	下鏡	4.6 6.0~7.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
117-2	039	3902	8	平-7	鏡	25.8 1.1~2.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
117-3	132	3902 b	-	平-12	鏡	23.7 1.1~2.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				
117-4	623	3902	8	平-4	鏡	23.7 1.1~2.5 幅	12.6 (8.1)	筒状 丸柱	ヒノキ材アカロマ				

米山(2)遺跡出土古鏡観察表

出土位置	銘種	書体	初解年	神代元
SR229	紀伊元通寶	篆書	1068	北宋
SP2225	1 開元通寶	真書	621	隋
SP2225	2 政和通寶	分押	1111	北宋
SR01	1 永通萬國	楷書	1408	明
SR01	2 蜂杖(網狀)	無文	16~17c	
SC12	天祐通寶	篆書	1017	北宋
SC21	皇宋通寶	篆書	1038	北宋
グリッド	天祐通寶	真書	1017	北宋

捨て場1出土細文土器観察表

測定番号	測定値(cm)	直径	底径	高さ	口部形	口部断面形状	口部断面 文字記述	外表面の窓		内面 縦 横 幅 幅	備 考
								口部窓 位置	口部窓 形状		
[R]26-1	21.4	—	(11.1)	—	—	平口縫	4.6	R.L.R.窓(底面)。	ミガキ 中 外表面底物付着	ミガキ 中	
[R]26-2	27.9	13.5	2.1	2.8	4.9縫	4.9縫	—	R.L.R.窓(底面)。 →R.L.R.窓(底面)。	ミガキ 少 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 少	
[R]26-3	29.9	15.0	2.0	2.5	—	4.9縫	3.9	R.L.R.窓(底面ののみ)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]26-4	17.1	—	10.5	(22.8)	1.7	(2.2)	4.9縫	R.L.R.窓(底面)。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]26-5	18.3	—	(11.5)	2.0	—	4.9縫	2.8	R.L.R.窓(底面ののみ)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]26-6	27.3	(1.8)	(2.8)	4.4	4.9縫	4.9縫	—	R.L.R.窓(底面)。	ミガキ 多 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 多	
[R]26-7	26.6	—	(19.5)	—	—	4.9縫	4.9縫	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 多 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 多	
[R]26-8	26.5	—	(23.3)	—	—	4.9縫	4.3	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 多 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 多	
[R]26-9	17.5	—	(17.2)	—	—	4.9縫	4.9縫	R.L.R.窓(底面)。	ミガキ 多 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 多	
[R]27-1	19.6	—	(32.5)	—	—	4.9縫	3.1	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]27-2	21.8	—	(29.0)	—	—	4.9縫	4.2	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]27-10	22.0	19.0	39.5	2.2	4.0	4.9縫	3.3	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]27-11	20.0	12.4	32.1	1.7	2.6	4.9縫	3.5	R.L.R.窓(底面)。	ミガキ 多 内面糊付着	ミガキ 多	
[R]27-12	19.7	9.6	39.5	2.1	4.2	4.9縫	3.4	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 多 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 多	
[R]27-13	(24.2)	—	(32.7)	—	—	4.9縫	4.3	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]27-14	19.1	—	(34.7)	—	—	4.9縫	—	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 多 外表面底物付着	ミガキ 多	
[R]28-15	19.5	—	19.2	1.9	3.8	4.9縫	4.3	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 多 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 多	
[R]28-16	21.0	—	(16.9)	2.1	—	4.9縫	4.8	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	
[R]28-17	27.0	12.6	(10.9)	(2.1)	—	4.9縫	2.8	R.L.R.窓(底面)・側辺切欠。	ミガキ 中 外表面底物付着 内面糊付着+コード	ミガキ 中	

測定番号	測定場所(m)	法面高さ			口跡高さ 支承高さ・底高さ			口跡高さ 支承高さ(m)			表面的観察			内面 縫合 特徴	側 面 特 徴
		口徑	底径	周長	口徑	底径	周長	口跡高さ	支承高さ	底高さ	口跡高さ	支承高さ	底高さ		
(R)28-17	20.6	—	(34.0)	—	—	—	—	平口縫	3.8	口跡高さ L.R. 間距 支承高さ R.L. 間距	口跡高さ・口縫部	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗
(R)28-18	21.3	14.4	31.7	—	1.7	2.9	2.4	R.L. 間距	2.4	R.L. R. 間距(底上部のみ)・斜辺(凹側)	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-19	25.2	—	(34.0)	—	1.8	—	—	平口縫	2.9	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-20	22.1	—	(28.9)	—	—	—	—	4.4 平口縫	3.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-20	22.1	—	(31.0)	—	—	—	—	4.4 平口縫	3.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-21	24.0	(18.9)	23.1	(2.7)	—	2.5	—	4.4 平口縫	3.2	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-22	20.2	—	(24.3)	—	—	—	—	4.4 平口縫	2.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-23	20.8	—	(24.0)	—	—	—	—	4.4 平口縫	2.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-24	22.1	—	(33.4)	—	—	—	—	4.4 平口縫	2.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-25	21.6	—	(18.0)	—	—	—	—	4.4 平口縫	2.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-25	21.6	8.6	41.9	(2.1)	—	—	—	4.4 平口縫	2.9	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-26	21.2	—	(33.8)	—	—	—	—	4.4 平口縫	2.2	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-27	19.5	—	(16.0)	—	—	—	—	4.4 平口縫	3.6	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-28	15.1	7.4	(22.2)	2.1	(3.6)	—	—	4.4 平口縫	1.7	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-29	13.1	7.4	19.3	1.8	2.6	—	—	4.4 平口縫	3.2	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-30	(21.7)	10.6	(38.6)	2.0	—	—	—	4.4 平口縫	3.7	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-31	21.4	—	(22.5)	—	—	—	—	4.4 平口縫	3.7	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-32	21.6	12.5	1.7	2.7	4.4 平口縫	3.2	—	4.4 平口縫	4.2	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-33	22.0	13.9	—	33.7	1.6	2.4	—	4.4 平口縫	4.7	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-33	19.2	10.8	40.0	1.8	3.7	—	—	4.4 平口縫	3.5	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-34	21.7	—	(27.2)	—	—	—	—	4.4 平口縫	3.6	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	
(R)28-35	23.0	—	(27.2)	—	—	—	—	4.4 平口縫	3.8	R.L. R. 間距(底上部のみ)、 R.L. R. 間距(底上部のみ)、	—	—	ミガキ 多 等耗	ミガキ 中 等耗	

区間 番号	起点 標高(m)	終点 標高(m)	距離(m)	法面計 測量点	法面計 測量点	口絶部 横断面形状 (支承高さ/支承延長)	口絶部 横断面形状 (支承高さ/支承延長)	外山道付箇 所	端 脚 地 盤 特 徴	備 考
[区間30-31] 16.1 ~ 18.6	— (18.6)	— (18.6)	—	4 単位 深次口絶	3. 1~~8 (左側第一層(R.L. + R)側切削輪、 右側第二層(R.L. + R)側切削輪、 支承高さまで支承が及ぶ)	R.L.R側切削輪(R.L.上)、 前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利
[区間30-37] 17.1 ~ 20.0	— 10.0	26.0 ~ 2.0	1. 8 2. 6	4 単位 深次口絶	4. 0	R.L.R側切削輪(R.L.上)、 前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利
[区間31-38] 21.8 ~ 25.0	13.4	37.9	1. 8 ~ 1. 9	4 単位 深次口絶	4. 0	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間31-39] 24.0 ~ 25.0	11.2	13.3	2. 1 ~ (2. 2)	4 单位 深次口絶	4. 5	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間31-40] 16.0	9.0	(36.1)	1. 8	(3. 9)	4 单位 深次口絶	4. 2 5. 0	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪(最上位の5%)、 前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、
[区間31-41] 17.7 ~ 18.3	— (36.1)	—	3. 1	8 单位 深次口絶	3. 1	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利
[区間31-42] 19.2 ~ 24.9	(2. 3)	(2. 3)	2. 7	平口絶?	3. 4	R.L.R側切削輪(R.L.上~中位)、 前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪(下位)	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利
[区間31-43] 16.0 ~ (26.4)	—	—	—	平口絶	1. 8	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-44] (32.2) ~ (31.2)	—	—	—	平口絶	3. 1	R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-45] (24.6) ~ 11.2	11.4	(2. 2)	3. 7	4 单位 深次口絶	6. 0	R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-46] (18.8) ~ 8.9	10.0	(2. 1)	4. 5	4 单位 深次口絶	3. 5	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪(奥)、 前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪(先)、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-47] (22.3) ~ 9.7	42.0	(2. 3)	4. 3	8 单位 深次口絶	3. 2	R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-48] 23.6 ~ 12.5	37.1	1. 9	3. 0	4 单位 深次口絶	3. 3	R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-49] 23.0 ~ (32.6)	—	—	—	4 单位 深次口絶	3. 9	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利
[区間32-50] 21.6 ~ (23.9)	—	—	—	平口絶	2. 2	R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 多 砂利
[区間32-51] 19.6 ~ (25.9)	—	—	—	4 单位 深次口絶	3. 0	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪(奥)、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利
[区間32-52] 26.0 ~ 13.2	40.3	2. 0	—	4 单位 深次口絶	3. 5	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利
[区間32-53] 27.6 ~ (23.9)	—	2. 1	—	—	4. 0	—	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 中 砂利
[区間32-54] 18.9 ~ 11.4	42.4	1. 6	—	4 单位 深次口絶	3. 0	前輪底条件体第1層(R.L. + R)側切削輪(奥)、 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利
[区間32-55] 20.0 ~ 1. 8	—	—	—	4 单位 深次口絶	3. 7	—	3. 2~8 R.L.R側切削輪(R.L.上)、	内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利	3. 2~8 内山側下位コゲ 少 砂利

測定番号	口徑 mm	流量 mm	底板 高さ mm	底板 底面 高さ mm	底面 底面 高さ mm	法線計 口部底 底面 高さ mm		口部底 底面 高さ mm		口部底 底面 高さ mm		側面計 側面 底面 高さ mm		側面計 側面 底面 高さ mm		側面計 側面 底面 高さ mm	
						底面計 底面 高さ mm	底面計 底面 高さ mm	口部底 底面 高さ mm	口部底 底面 高さ mm	口部底 底面 高さ mm	口部底 底面 高さ mm	側面計 側面 底面 高さ mm	側面計 側面 底面 高さ mm	側面計 側面 底面 高さ mm	側面計 側面 底面 高さ mm	側面計 側面 底面 高さ mm	側面計 側面 底面 高さ mm
[R]33-54	(17.1)	—	(23.3)	—	—	4.4	4.4	R.L.R.側面(底上部)の△・斜辺回転	R.L.R.側面(底上部)の△・斜辺回転	4.4	4.4	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-55	28.0	—	(19.6)	—	—	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-56	19.2	—	(22.7)	—	—	2.4	2.4	R.L.R.側面(底上部)の△・斜辺回転	R.L.R.側面(底上部)の△・斜辺回転	2.4	2.4	ミガキ多	ミガキ多	ミガキ多	ミガキ多	ミガキ多	ミガキ多
[R]33-57	15.9	—	(18.4)	—	—	4	4	4	4	4	4	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-58	25.8	11.6	(29.5)	2.2	—	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-59	(26.8)	(23.6)	36.8	(1.7)	(2.9)	6.5	6.5	R.L.R.側面回転	R.L.R.側面回転	6.5	6.5	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-60	(26.0)	13.2	44.4	(1.8)	3.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-61	14.8	7.0	36.3	2.1	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-62	22.1	—	(13.2)	—	—	3.8	3.8	4.单位	4.单位	4.单位	4.单位	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-63	(17.7)	—	(22.8)	—	—	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-64	16.0	—	(26.5)	—	—	—	—	底面計回転	底面計回転	—	—	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-65	19.1	9.7	29.6	2.0	3.1	4.1	4.1	R.L.R.側面回転(底上部)の△・斜辺回転	R.L.R.側面回転(底上部)の△・斜辺回転	5.2	5.2	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-66	18.9	10.5	42.9	1.8	4.1	3.6	3.6	底面計回転	底面計回転	—	—	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-67	13.8	1.9	3.6	—	—	4.1	4.1	R.L.R.側面回転(底上部)の△・斜辺回転	R.L.R.側面回転(底上部)の△・斜辺回転	3.6	3.6	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-68	10.3	(37.3)	—	2.0	2.0	—	—	底面計回転	底面計回転	—	—	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-69	7.8	23.0	2.0	—	2.9	2.9	2.9	R.L.R.側面回転	R.L.R.側面回転	—	—	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-70	20.8	—	(21.9)	—	—	3.0	3.0	口部底 R.L.R.側面回転、 口部底 R.L.R.側面回転	口部底 R.L.R.側面回転、 口部底 R.L.R.側面回転	4.8	4.8	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-71	17.2	8.4	25.1	2.0	3.0	—	—	平口底	平口底	2.3	2.3	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少
[R]33-72	(24.6)	—	(31.9)	—	—	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少	ミガキ少

区間 番号	位置 高さ(m)	横幅(m)	断面 構成部	法面形状 前面高さ 前面底面距離	口縫部 形状	口縫部 丈高さ(m)	外山付帯		内面 構 造	備 考
							4単位 底辺	文書標示(m)	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	
[R]26-73	24.1 ~ 25.5	(28.5) ~ (21.7)	~	~	4単位 底辺	2.4	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	~	外山付帯 壁長	△
[R]26-74	16.8 ~	(17.6) ~ (34.6)	~	~	底辺(上部) 底辺(下部)？	3.4	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]26-75	14.4	~	~	~	平日縫	3.3	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]26-76	18.6	~	~	~	平日縫	2.4	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	△
[R]26-77	24.5 ~	12.8 ~ (30.7)	35.1 ~ ~	1.9 ~ ~	4単位 底辺	2.9	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	△
[R]26-78	23.1 ~ 24.0	12.8 ~ ~	37.3 ~ (21.6)	1.8 ~ ~	4単位 底辺	3.3	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]27-40	21.5 ~	~	(21.6) ~	~	~	~	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	单輪轍兼体高1倍(R.L.)側面	△
[R]27-81	(18.0) ~	8.2 ~ (34.1)	25.5 ~ ~	(2.2) ~ ~	4単位 底辺	3.1	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]27-82	16.5 ~	8.4 ~ (17.1)	~	~	4単位 底辺	2.5	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]27-83	15.6 ~	8.4 ~ (12.0)	1.9 ~ ~	22.6 ~ ~	4単位 底辺	3.1	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]27-84	(16.0) ~	7.6 ~ (27.2)	35.9 ~ (37.4)	2.1 ~ (1.7)	4単位 底辺	2.7	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]27-85	(27.2) ~	(16.0) ~ (11.9)	37.4 ~ ~	(3.9) ~	4単位 底辺	4.8	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]28-96	(19.8) ~	~	(16.7) ~ (24.3)	~	4単位 底辺	4.2	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]28-97	(26.0) ~	(16.7) ~ (24.3)	(3.9) ~	~	4単位 底辺	4.6	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△
[R]28-98	18.6 ~	~	~	~	4単位 底辺	3.7	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	R.L. 標高(上部)～(下部)、斜面勾配	△

遺構出土遺物観察表（総文～古境）

団番号	測量番号	P番号	口径	底径	高さ	出土位置	部位	断面	特徴	施道	時間	形式		
団39-89	161	(5, 7)	H-D-78-1	1層	直筒	LH(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光、側面有光	中	断面長直	円筒下施c	始て地	1			
団39-90	245	133	(12, 1)	H-C-76-3	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光	中	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-91	165	2	(8, 6)	H-C-77-4	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光	少	断面長直	円筒下施c	始て地	1	(163)と同一	
団39-92	165	1	(6, 9)	H-C-77-4	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光	少	断面長直	円筒下施c	始て地	1	(163)と同一	
団39-93	162	1	(8, 9)	H-D-78-1	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光	中	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-94	167	1	(8, 2)	H-D-73	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光	中	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-95	238	1	(10, 4)	H-C-75-4	2層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ、内面有光	中	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-96	172	1	(6, 7)	H-C-77-4	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-97	177	1	(5, 2)	H-D-78-1	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-98	239	1	(5, 8)	S-06	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	少	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-99	165	1	(4, 0)	H-D-73	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-100	246	1	(13, 1)	H-D-74-1	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	少	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-101	174	1	(9, 2)	H-D-74-1	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-102	169	1	(5, 0)	H-D-73-2	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	多	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-103	168	1	(6, 2)	H-D-73-2	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-104	175	1	(5, 5)	H-D-78-1	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	多	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-105	247	90	(7, 7)	H-D-73-1	1層	直筒	口部RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-106	189	1	(7, 6)	H-D-74-2	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-107	170	1	(3, 1)	H-C-77-3	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-108	141	1		H-D-72	カクラン	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-109	152	2	(5, 0)	S-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	早明	白瓦	円筒下施c	始て地	1		
団39-110	181	1	(4, 1)	H-D-74-2	2層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	早明	白瓦	円筒下施c	始て地	1		
団39-111	152	1	(5, 5)	H-G-65	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	早明	白瓦	円筒下施c	始て地	1		
団39-112	237	1	(9, 6)	S-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-113	254	1	(5, 9)	H-L(横)-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施d1	始て地	1		
団39-114	235	106	(1+15, 9)	H-C-76-1	1層	直筒(直角形)	内面ミガキ	多	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-115	183	20	7, 7	(5, 9)	H-C-73-3	1層	直筒(直角形)	内面ミガキ	多	断面長直	円筒下施c	始て地	1	
団39-116	246	1	(4, 2)	H-F-72	1層	直筒(直角形)	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	少	断面長直	円筒下施c	始て地	1		
団39-117	250	87	(3, 4)	H-C-75-3	4層	合計2段鉢	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-118	235	1	2, 6	(2, 6)	H-C-73-3	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1	
団39-119	27	1	(4, 4)	H-C-73-4	1層	直筒(直角形)	内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-120	234	1	(2, 4)	H-C-77-3	1層	直筒(直角形)	内面ミガキ	多	断面長	円筒下施c	始て地	1		
団39-121	243	1	3, 6	(1, 3)	C-T-75-4	1層	直筒(直角形)	内面ミガキ	少	断面長	円筒下施c	始て地	1	
団39-122	232	135	8, 2	(2, 8)	H-C-75-2	1層	直筒(直角形)	内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1	
団39-123	244	1	2, 9	(2, 4)	H-D-74-1	4層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒下施c	始て地	1	小型
団39-124	134	1	(6, 0)	H-H-59	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-125	141	1	(5, 2)	H-L(横)-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-126	240	1	(4, 8)	H-L(横)-07	2層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-127	153	1	(4, 0)	H-L(横)-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-128	236	1	(5, 0)	H-L(横)-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-129	153	1	(7, 1)	H-L(横)-07	2層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-130	143	1	(3, 3)	H-L(横)-07	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		
団39-131	143	1	(6, 9)	H-G-66	1層	直筒	RF(横)、RF(横)、内面ミガキ	中	断面長	円筒上施a	始て地	1		

固有番号	測量番号	P番号	口径	底面	断面	上位面	部位	特徴	地質	時期	時代	備考
801-01-133	251		(3.2)	H-C-77-3	1層		砂質?	RJ(鉄), 内面×外面×ガラス	中	前段後半	丹波中期?	始て場
801-01-134	137	(12.2)	BB-65	1層			砂質	内面・鉄穴, 黒鉄(鉄), 内外面×ガラス	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-135	138			BB-67	1層		砂質	内面・黒鉄(鉄), 外面×ガラス	中	後期後半		
801-01-136	133			BB-68	1層		砂質	RJ(鉄), 肥手	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-137	135			BB-69	1層		砂質	内面・鉄穴(鉄), 扇形(口縁)	中	前段後半		
801-01-138	139			BB-70	1層		砂質	内面・鉄穴(鉄), 内外面×ガラス	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-139	204			SD-96	1層		砂質	RJ(鉄), 格子文	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-140	205			BF-48	1層		砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-141	148			BB-53	1層		砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-145	156		6	(2.0)	BB-48	1層		底面2ヶ所・側面状況	小窓内	牛・人気(3)		
801-01-146	136			(11.4)	BB-55	1層	砂質	内面・J.R.(鉄), 内外面×ガラス	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-147	132	12	(7.1)	BB-54	1層	砂質	内面	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-148	160			BB-73-1	1層		砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-149	241			SD-94	1層		砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-150	149			(5.2)	SD-95	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-151	203			(4.6)	SD-96	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-152	128	21.δ	(9.3)	SD-73	1層		砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-153	166		(8.3)	SD-73	1層		砂質?	RJ(鉄)(鉄), 内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-154	130			(10.7)	BB-54	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-155	143	1					砂質	内面・J.R.(鉄), RJ(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-156	145			(5.1)	H-G-55	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-157	144			(3.5)	H-G-55	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-158	157			(4.0)	BB-59	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-159	184			6.7	(2.5)	BB-45	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)	
801-01-160	147			(4.8)	BB-45	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-161	236			(3.2)	BB-53	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-162	129	30.2	(9.1)	BB-60	1層	砂質	砂質	内面・J.R.(鉄), 内外面状況?	後期後半	牛・人気(3)		
801-01-163	142				BB-64	1層	砂質	内面・J.R.(鉄)	後期後半	牛・人気(3)		

図141-103、104、106、107、本文の記述参照

遺構出土製品観察表

固有番号	測量番号	P番号	上位面	部位	地質	形状	特徴	地質	時期	時代	備考
801-01-129	159	H-C-64	上層	土面	土面	圓錐形上部扁平	圓錐形下部尖細, 直径, ピン	中	後期後半		
801-01-142	8	96(木)ランプ5	上層	土面	土面	圓錐形上部扁平	圓錐形下部尖細, 深褐色, ミガラク	後期後半			
801-01-143	158	H-C-56	上層	土面	土面	圓錐形上部扁平	圓錐形下部尖細, 深褐色, ミガラク	後期後半			
801-01-144	263	H-C-77	上層	土面	土面	圓錐形上部扁平	圓錐形下部尖細, 黒鉄(鉄)	前段後半			

遺構内出土遺物観察表（平安）

遺構番号	遺物番号	P番号	出土位置	層位	器種	外面形態	内部形態	口径(cm)	瓶高(cm)	底径(cm)	備考	
図74-1	9	10	SI-01	カマツ池、南上層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	11.4	5.1	5		
図74-2	6	1, 2, 9, 15, 16	SI-01	床面、床下、壁上	土器	口クロナラ	ロクロナラ	13.1	6.5	6.5	4, 7	
図74-3	7	1, 13, 17, 27	SI-01	床面、床下、壁上	土器	口クロナラ	ロクロナラ	13.1	5.3~5.5	5	幅切端(ひざ)なし	
図74-4	8	4, 14	SI-01	床面、床下、壁上	土器	口クロナラ	ロクロナラ	12.6	5.4	6		
図74-5	10	カマツ	SI-01	カマツ池、南上層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	13.3	(4.2)			
図74-6	41	11	SI-01	床面、カマツ、10層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	13.6	(8.9)			
図74-7	39	10, 11, 12, 27	SI-01	床面、カマツ、10層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	13.3	13.4	5.4		
図74-8	40	14, 15, 17, 21, 24, 25	SI-01	床面、床下、壁上、カマツ、2層、3層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	13.6	(16.0)			
図74-9	42	25	SI-01	2層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	14.9	8			
図74-10	183	SI-01	1層	土器	直筒	口クロナラ	ロクロナラ	(6.0)			中実柱状	
図74-11	93	11	SI-01	床面	土器	口クロナラ	ロクロナラ	(2.1)				
図74-12	11	SI-02	覆土	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	12.2	5.5	5.5		
図74-13	2	36	SI-02	2層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	13.2	6.4	6.4	ヘラ足等
図74-14	3	9, 10, 12	SI-02	床面	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	15.4	6.7	5.5	
図74-15	12	SI-02	覆土	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	11.6	(4.3)			
図74-16	15	SI-02	床下	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	10.8	(3.9)			
図74-17	14	SI-02	覆土	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	13.6	(4.0)			
図74-18	13	SI-02	壁上	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	(2.5)				
図74-19	16	44	SI-02	カマツ、床下、壁上	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	(3.3)			
図74-20	18	64	SI-02	2層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ミガキ、内面黒色化現	(2.5)			
図74-21	17	SI-02	カマツ、床下	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	11.2				
図74-22	37	SI-02	床下	高台所	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	11.2				
図74-23	20	76	SI-02	カマツ、床下	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	11.6			
図74-24	19	6, 8, 10, 12, 27	SI-02	覆土、2層、3層、4層、5層、6層、7層、8層、9層、10層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	11.2	5.6	5.6	SI-03層上と複合
図74-25	44	7, 29	SI-02	床面、床下、壁上	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	16.6	(19.3)		
図74-26	48	SI-02	覆土、カマツ、1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	12	(6.9)			
図74-27	57	43, 45, 70	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	13	(8.4)		
図74-28	58	1, 41, 104	SI-02	床面、2層、3層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	7.2	(9.7)		
図74-29	43	11, 12, 13, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30	SI-02	2層、3層、4層、5層、6層、7層、8層、9層、10層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	18.4	(21.4)		
図74-30	47	SI-02	カマツ、1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	19.6	(6.2)			
図74-31	56	SI-02	覆土、カマツ、1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	19.6	(6.2)			
図74-32	69	124	SI-02	覆土、カマツ、1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)		
図74-33	49	124	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)		
図74-34	45	元(13.5)×3.5×3.5	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)		
図74-35	82	24	SI-02	カマツ、2層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)		
図74-36	51	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-37	50	SI-02	覆土、カマツ、1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-38	55	SI-02	カマツ、2層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-39	84	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-40	60	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-41	3	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-42	61	SI-02	1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			
図74-43	83	SI-02	カマツ、1層	土器	口クロナラ	ロクロナラ	ロクロナラ	21.6	(10.0)			

固番号	標識番号	F番号	出上位置	側位	種類	形状	外在形状	内在形状	低函特徴	口径(cm)	面積(cm)	筋溝(cm)	備考
図89-44	129	SI-02	床面	斜面上端	輪滑車	輪滑車、ナード	ナード?			(6.5)			
図89-45	4	4,65,114	SI-02	カマ ¹ 面 ² 上、6輪	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード、ヘリテ			(12.8)		(9.2)	
図89-46	135	SI-02	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード					(2.9)	
図89-47	127	SI-02	床下 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード					(7.1)	
図89-48	134	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード					(2.6)	
図89-49	137	SI-02	床面	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(4.6)	
図89-50	132	SI-02	床面	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(8.7)	
図89-51	91	5	SI-02	床面	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ			(4.1)	中空用型態
図89-52	130	SI-02	床面	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(4.6)	
図89-53	94	66	SI-02	床面	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(4.6)	
図89-54	92	SI-02	カマ ¹ 面 ² 上端	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(1.0)	口端部形状をもつし縫合部に異形
図89-55	97	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(2.9)	
図89-56	98	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(2.2)	
図89-57	95	2	SI-02	カマ ¹ 面 ² 上、6輪	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-58	131	SI-02	床面	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ				(1.9)	
図89-59	99	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-60	101	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-61	102	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-62	96	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-63	100	SI-02	1輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-64	104	SI-02	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-65	22	SI-03	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-66	21	SI-03	12輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-67	62	SI-03	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-68	53	SI-03	カマ ¹ 面 ²	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-69	63	63	カマ ¹ 面 ² 上、6輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-70	65	65	カマ ¹ 面 ² 上、6輪	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-71	64	64	64,65,カマ ¹ 面 ²	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-72	66	66,70,75,74,76	SI-05	1輪	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-73	23	SI-05	SI-05	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-74	67	24,54,25,24,21	SI-05	1輪	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-75	70	カマ ¹ 面 ²	SI-05	カマ ¹ 面 ²	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-76	69	37	SI-05	カマ ¹ 面 ²	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-77	71	2,3,カマ ¹ 面 ²	SI-05	覆土 ¹	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-78	25	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-79	24	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-80	28	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-81	26	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-82	27	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-83	73	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-84	74	74	74	カマ ¹ 面 ²	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-85	72	19,28	SI-06	1輪	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-86	75	75	SI-06	覆土 ¹	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					
図89-87	96	96	96	覆土 ¹	斜面上端	輪滑車、ナード	輪滑車、ナード	ヘリテ					

圖番号	標識番号	P番号	出土位置	層位	種類	器形	外觀形態	内部構造	底面特徴	口径(cm)	體高(cm)	底径(cm)	備考
図188-89	108	50-04	覆土		直筒型 長颈瓶	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	19	(21.7)	51.05cm直徑と複合	
図190-90	77	4,5,9	4,5,9	1,3層	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	25.6	(16.4)	6.3	
図190-91	76	1	SK-05	3層	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	25.6	(16.4)	6.3	
図190-92	3	SK-05	2層	SK-05	上部海	要	ナヂ、ヘタナヂ、摩耗	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	11.6	(11.6)	5.4	柱状高台状
図190-93	29	SK-10	覆土		上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	11.6	(11.6)	5.4	
図191-94	113	SP-10	覆土		未燃燒 赤陶瓶	直・瓶腹	ロクロナヂ、圓筒直火、自燃火	ロクロナヂ	ロクロナヂ	12.4	6.8	6.2	圓筒直火
図191-95	30	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	11.6	5.1	5.5	外面部ニス付着
図191-96	31	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	11.6	5.1	5.6	
図191-96	32	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	11.6	5.1	5.6	
図191-99	85	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	12.6	7.6	7.6	内面部ニス付着
図191-100	78	SP-03	2層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	12.6	7.6	7.6	
図191-101	79	SP-03	2層	SP-03	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-102	33	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ、ヘタナヂ、直火	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-103	90	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	口唇部直火痕
図191-104	80	SP-03	2層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-105	114	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-106	82	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-107	84	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-108	85	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-109	126	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-110	81	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-111	103	SP-03	2層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-112	104	SP-03	2層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-113	105	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-114	139	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-115	128	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-116	107	SP-03	1層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-117	106	SP-03	2層	SP-03	上部海	要	ナヂ、ケヌリ	ナヂ、ヘタナヂ	ナヂ、ヘタナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-118	34	SP-06	覆土	SP-06	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-119	38	SP-06	覆土	SP-06	上部海	要	ロクロナヂ	ロクロナヂ	ロクロナヂ	14.4	8.0	8.0	
図191-120	87	SP-06	覆土	SP-06	上部海	要	ケヌリ	ケヌリ	ケヌリ	14.4	8.0	8.0	
図191-121	89	SP-07	覆土	SP-07	上部海	要	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	14.4	8.0	8.0	
図191-122	109	SP-07	覆土	SP-07	上部海	要	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	14.4	8.0	8.0	
図191-123	110	SP-07	覆土	SP-07	上部海	要	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	14.4	8.0	8.0	
図191-124	88	SP-07	覆土	SP-07	上部海	要	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	14.4	8.0	8.0	
図191-125	115	SP-07	覆土	SP-07	上部海	要	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	ナヂ、燒結	14.4	8.0	8.0	

遺物出土位置表(平安)

測量番号	測量番号	P番号	出土位置	層位	種類	特徴	外觀形態	内部断面	底面特徴	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
IS201-6	116		II-D-72-2	1層			ロクロナデ			(3.2)			捨て場
IS201-7	118		II-D-73	1層			ロクロナデ			(3.0)			捨て場
IS201-8	148		II-E-71	カクラン			ロクロナデ			(2.1)	6.6		捨て場
IS201-9	35		II-E-72	8mm			ロクロナデ			(2.8)			捨て場
IS201-10	122		II-C-75-3	1層			ロクロナデ			(3.7)			捨て場
IS201-11	147		II-J-51	1層			ロクロナデ			(1.9)			捨て場
IS201-12	146		II-J-62	1層			ロクロナデ			(1.9)	5.3		柱状断面図
IS201-13	152		II-E-71	カクラン			ロクロナデ			(1.8)			柱状断面図
IS201-14	150		II-J-54	1層			ロクロナデ			(1.8)			柱状断面図
IS201-15	151		II-E-71	カクラン			ロクロナデ			(1.9)			柱状断面図
IS201-16	119		II-D-72-2	1層			ロクロナデ			(0.8)	4.6		捨て場
IS201-17	36		II-E-72	8mm			ロクロナデ			(2.8)			捨て場
IS201-18	157		II-J-68	1層			ロクロナデ			(1.9)			捨て場
IS201-19	124		II-D-72	1層			ナダ			(2.8)			捨て場
IS201-20	129		II-C-74	1層			ナダ			(1.9)			捨て場
IS201-21	155		II-J-61	1層			ナダ			(4.1)			捨て場
IS201-22	125		II-D-76-4	1層			ナダ			(2.1)			捨て場
IS202-23	153		II-K-51	3層			ナダ			(2.2)			捨て場
IS202-24	158		II-J-77	1層			ナダ			(2.2)			捨て場
IS202-25	121		II-C-75	1層			ナダ			(2.8)			捨て場
IS202-26	123		II-B-72-2	1層			ナダ			(2.8)			捨て場
IS202-27	154		II-H-65	3層			ナダ			(4.0)			捨て場
IS202-28	170		II-E-72	1層			ナダ			(4.2)			捨て場
IS202-29	140		II-G-41	3層			ナダ			(3.6)			捨て場
IS202-30	141		II-J-49	1層			ナダ			(2.9)			捨て場
IS202-31	111		II-J-58	1層			ナダ			(3.6)			捨て場
IS202-32	112		II-J-49	1層			ナダ			(4.0)			捨て場
IS202-33	玉井(21)		II-E-73	1.3層			ナダ			(6.2)			捨て場
IS202-34	159		II-J-49	1層			ナダ			(4.2)			捨て場
IS202-35	117		II-J-49	1層			ナダ			(4.2)			捨て場
IS202-36	142		II-J-55	3層			ナダ			(8.6)			捨て場
IS202-37	175		II-J-51	1層			ナダ			(8.6)			捨て場
IS202-38	176		II-E-71	カクラン			ナダ			(8.6)			捨て場

遺構出土陶器観察表

測量番号	測量番号	P番号	出土位置	層位	記述	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	年代	地質	備考
IS202-39	57(2)		トレンチ						11~15世紀		地熱?
IS202-40	388		II-H-73	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-41	167		II-H-65	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-42	174		II-H-74	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-43	169		II-H-47	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-44	179		II-E-73	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-45	178		II-E-53	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-46	160		II-D-73	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-47	182		II-J-53	1層	壺・壺形	ロクロナデ					
IS202-48	181		II-E-46	1層	壺・壺形	ロクロナデ					

宮田館遺跡捨場1出土石器観察表

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
142	1	219	H C-75	1	44.6	14.2	4.4	2.2	尖基鑓	珪質頁岩	
142	2	453	H D-72	1	40.6	12.7	4.4	1.5	尖基鑓	珪質頁岩	
142	3	446	H D-72	1	41.1	14.9	4.0	2.2	尖基鑓	珪質頁岩	
142	4	897	H D-74	1	41.9	17.4	3.7	2.3	尖基鑓	珪質頁岩	先端部欠損
142	5	345	H C-76-3	1	41.0	14.7	3.8	1.7	尖基鑓	珪質頁岩	
142	6	125	H C-74-3	1	35.0	14.8	3.2	1.6	尖基鑓	珪質頁岩	先端部欠損
142	7	722	H D-73	1	27.1	12.6	3.0	0.9	尖基鑓	珪質頁岩	
142	8	1004	H D-74-2	1	37.0	24.8	5.5	4.7	石鑓	珪質頁岩	
142	9	525	H D-72-2	1	41.9	13.6	4.3	2	尖基鑓	珪質頁岩	
142	10	589	H D-73	1	40.9	14.1	4.6	2.4	尖基鑓	珪質頁岩	先端部欠損
142	11	172	H C-74-4	1	39.3	16.5	3.6	2	尖基鑓	珪質頁岩	
142	12	1306	H D-76-4	1	37.1	12.3	4.1	1.3	尖基鑓	珪質頁岩	
142	13	710	H D-73	1	34.1	13.5	3.8	1.4	尖基鑓	珪質頁岩	
142	14	539	H D-72-3	1	26.8	12.0	3.7	1	尖基鑓	珪質頁岩	
142	15	146	H C-74-3	1	26.2	14.0	3.9	1.2	尖基鑓	珪質頁岩	先端部欠損
142	16	634	H D-73	1	27.4	13.1	4.1	1.3	尖基鑓	珪質頁岩	先端部欠損
142	17	165	H C-74-4	1	27.9	14.6	2.7	1.1	尖基鑓	玉髓質珪質頁岩	
142	18	220	H C-75	1	40.3	11.3	5.4	2	尖基鑓	珪質頁岩	
142	19	942	H D-74-1	1	24.2	19.0	3.2	1.6	石鑓	珪質頁岩	
142	20	698	H D-73	1	26.6	14.8	3.5	1.2	石鑓	珪質頁岩	
142	21	179	H C-74-4	1	32.6	16.1	3.9	2.2	石鑓	珪質頁岩	基部欠損
142	22	302	H C-75-4	1	35.2	19.7	5.4	2.5	石鑓	珪質頁岩	基部欠損
142	23	53	H C-73-3	1	32.7	23.4	7.1	4.8	石鑓	珪質頁岩	基部欠損
142	24	1260	H D-76-2	2	35.3	14.2	3.9	1.5	尖基鑓	珪質頁岩	
142	25	1179	H D-75-2	2	34.8	16.0	3.7	1.7	尖基鑓	玉髓質珪質頁岩	
142	26	1039	H D-74-2	2	31.6	14.5	3.1	1	尖基鑓	珪質頁岩	
142	27	279	H C-75-3	2	34.1	16.8	5.5	2.6	石鑓	珪質頁岩	
142	28	931	H D-74	3	28.9	18.2	4.7	2.1	石鑓未製品	珪質頁岩	先端部欠損
142	29	1057	H D-74-2	4	42.5	16.1	4.4	2.2	尖基鑓	珪質頁岩	
142	30	756	H D-73	4	31.7	14.9	3.8	1.5	尖基鑓	珪質頁岩	先端部欠損
142	31	847	H D-74	1	29.3	63.1	11.5	15.2	石鑓	珪質頁岩	
142	32	1406	H H-66	1	53.6	38.8	14.9	14.9	石鑓	珪質頁岩	
142	33	715	H D-73	1	30.5	32.1	13.0	7.7	石鑓	珪質頁岩	
142	34	1307	H D-76-4	1	32.2	22.1	5.0	3.5	石鑓	珪質頁岩	
142	35	1074	H D-74-3	2	46.6	20.2	6.5	5.6	石鑓	珪質頁岩	
142	36	1028	H D-74-2	2	65.7	33.0	7.8	9.2	石鑓	珪質頁岩	
143	37	1131	H D-75-1	1	40.5	31.6	6.9	7.3	石槍	珪質頁岩	基部断片資料 石槍ある いは縦形 石匙の断 片か?
143	38	383	H C-77	1	50.7	36.4	9.7	16.9	両面加工石器	珪質頁岩	
143	39	1357	H D-77-2	1	45.4	44.4	21.9	39.8	両面加工石器	珪質頁岩	
143	40	1608	H C-73-3	2	52.0	39.0	21.0	46.2			
143	41	250	H C-75-2	1	105.2	22.3	9.9	22	縦形石匙	珪質頁岩	両面加工の縦形石匙。
143	42	1034	H D-74-2	2	34.5	16.3	4.4	2.8	縦形石匙	珪質頁岩	ミニチュ アの縦形 石匙。
143	43	1203	H D-75-4	2	90.1	33.6	12.3	38.3	縦形石匙	珪質頁岩	両面加工 の縦形石 匙や、末 端欠損
143	44	1806	H E-71		103.5	34.5	10.0	32.8			
144	45	445	H D-72	1	85.2	29.1	15.1	26.8	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも 刃部に光 沢みられ る。

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
144	46	112	II C-74	1	79.4	27.8	13.2	21.7	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
144	47	504	II D-72-1	1	81.0	23.2	10.0	15.9	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
144	48	774	II D-73-2	1	71.8	25.6	13.4	20.3	縦形石匙	珪質頁岩	
144	49	932	II D-74	3	71.9	34.5	11.9	27.5	縦形石匙	珪質頁岩	
144	50	136	II C-74-3	1	85.9	26.3	11.0	21.7	縦形石匙	珪質頁岩	
144	51	946	II D-74-1	1	81.6	33.2	12.3	31	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
144	52	1070	II D-74-3	1	62.0	20.5	7.6	8.5	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらとみられる。握み部一部欠損
144	53	503	II D-72-1	1	80.9	33.9	15.0	29.5	縦形石匙	珪質頁岩	
144	54	1072	II D-74-3	1	77.4	28.9	11.8	24.1	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
144	55	1366	II E-72	1	68.2	20.4	12.5	10.4	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
144	56	802	II D-73-4	1	77.4	36.4	10.8	20.4	縦形石匙	珪質頁岩	
144	57	721	II D-73	1	64.7	18.6	9.8	7.4	縦形石匙	珪質頁岩	先端部を両面加工で鍔状に整形している。
144	58	1088	II D-74-4	1	76.3	39.0	11.8	22	縦形石匙	珪質頁岩	
144	59	156	II C-74-3	1	62.6	29.2	10.3	16.8	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
144	60	83	II C-74	1	51.7	33.1	9.9	11.2	縦形石匙	珪質頁岩	
144	61	1130	II D-75-1	1	68.4	29.8	11.5	17.2	縦形石匙	珪質頁岩	
144	62	104	II C-74	1	84.0	40.2	14.1	33.8	縦形石匙	珪質頁岩	
144	63	798	II D-73-4	1	92.9	41.5	18.1	36.4	縦形石匙	珪質頁岩	
145	64	1018	II D-74-2	1	78.9	33.7	14.9	26.5	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
145	65	411	II C-77-3	1	84.7	29.4	13.6	22.7	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらとみられる。
145	66	902	II D-74	1	72.6	32.4	12.7	17.3	縦形石匙	珪質頁岩	
145	67	307	II C-75-4	1	62.4	26.5	8.3	11.7	縦形石匙	珪質頁岩	
145	68	109	II C-74	1	59.1	39.0	7.5	14.8	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
145	69	40	II C-73-1	1	61.4	35.3	10.9	12.4	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
145	70	1099	II D-74-4	1	67.3	39.6	10.4	20.4	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
145	71	869	II D-74	1	57.0	35.3	11.0	12.2	縦形石匙	玉質珪質 頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
145	72	43	H C-73-1	1	53.8	32.1	11.5	9.2	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
145	73	1134	H D-75-1	1	74.7	18.9	13.0	10.3	縦形石匙	珪質頁岩	先端部を両面加工で錐状に整形している。
145	74	152	H C-73-3	1	68.9	21.8	10.7	8.7	縦形石匙	珪質頁岩	刃部加工なく、微小剥離痕がみられる。
145	75	468	H D-72	1	90.0	35.3	16.3	27.6	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうすらとみられる。
145	76	127	H C-74-3	1	83.3	32.5	15.5	29	縦形石匙	珪質頁岩	
145	77	637	H D-73	1	63.3	41.9	14.2	21.6	縦形石匙	珪質頁岩	
145	78	167	H C-74-4	1	81.3	38.0	9.7	15.7	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうすらとみられる。
145	79	107	H C-74	1	66.8	30.0	8.8	9.8	縦形石匙	珪質頁岩	素材の主要剥離面側に二次加工がみられる。
145	80	1132	H D-75-1	1	58.9	48.5	9.6	17.8	縦形石匙	珪質頁岩	素材の主要剥離面側に二次加工がみられる。
146	81	93	H C-74	1	99.5	33.9	10.0	34.6	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
146	82	809	H D-74	1	83.8	28.2	10.0	21.9	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
146	83	1129	H D-75-1	1	66.6	48.3	13.0	31.5	縦形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
146	84	1135	H D-75-1	1	80.8	40.3	11.5	27.4	縦形石匙	珪質頁岩	末端欠損。肉眼でも刃部に光沢みられる。
146	85	151	H C-74-3	1	72.3	36.5	9.5	17.9	縦形石匙	珪質頁岩	左辺を除き、石器のほぼ全面が摩耗している。
146	86	1332	H D-77-3	1	81.9	34.9	8.3	18.8	縦形石匙	珪質頁岩	素材の主要剥離面側に二次加工がみられる。肉眼でも刃部に光沢みられる。

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
146	87	330	II C-76	1	63.6	59.6	12.8	39	縦形石匙	珪質頁岩	三角形の平面形態であり、末端側にも急角度の加工がみられる。
146	88	406	II C-77-3	1	56.2	37.3	8.4	15.2	縦形石匙	珪質頁岩	挿入削器との折衷か。
146	89	928	II D-74	1	71.0	35.1	12.9	17.2	縦形石匙	珪質頁岩	
146	90	230	II C-75	1	4.2	2.6	1.3	10.8			
146	91	168	II C-74-4	1	52.7	36.2	12.2	18.9	縦形石匙	珪質頁岩	
146	92	41	II C-73-1	1	42.7	36.0	9.7	10	縦形石匙	珪質頁岩	
146	93	1172	II D-75-2	1	80.8	27.9	9.8	13.7	縦形石匙	珪質頁岩	
146	94	524	II D-72-2	1	54.8	39.6	13.5	21	縦形石匙	珪質頁岩	
146	95	563	II D-73	1	52.0	50.9	14.9	33	縦形石匙?	珪質頁岩	素材は調整打面をもつ。
147	96	516	II D-72-2	1	30.0	69.4	8.9	12.4	横形石匙	珪質頁岩	
147	97	1380	II E-73-1	1	27.3	77.4	10.5	14.2	横形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらとみられる。
147	98	1367	II E-72	1	32.1	60.1	7.8	13.9	横形石匙	珪質頁岩	左辺欠損
147	99	235	II C-75	1	38.6	56.9	11.5	21.3	横形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
147	100	108	II C-74	1	52.7	86.7	12.8	44.3	横形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
147	101	452	II D-72	1	34.4	49.9	10.7	16.3	横形石匙	珪質頁岩	
147	102	1225	II D-76-1	1	37.1	45.6	9.7	13.6	横形石匙	珪質頁岩	
147	103	214	II C-75	1	42.8	82.1	15.7	39.7	横形石匙	珪質頁岩	刃部を切った加工が裏面にみられる。
147	104	773	II D-73-2	1	32.7	75.0	10.1	25.6	横形石匙	珪質頁岩	
147	105	675	II D-73	1	27.9	68.7	12.2	12.5	横形石匙	珪質頁岩	
147	106	272	II C-75-3	1	39.6	66.0	11.7	24.6	横形石匙	珪質頁岩	右端裏面側に、刃部加工を切って貝殻状剥離がみられる。
147	107	733	II D-73	1	33.1	79.5	8.9	14.9	横形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
147	108	540	II D-72-3	1	31.6	57.6	12.4	10.5	横形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
147	109	633	II D-73	1	36.8	57.7	7.5	12	横形石匙	珪質頁岩	右辺欠損
147	110	1013	II D-74-2	1	47.0	83.7	15.5	35.6	横形石匙/挿入削器	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらとみられる。
147	111	337	II C-76-2	1	42.2	58.6	13.0	12.2	横形石匙/挿入削器	珪質頁岩	

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
148	112	303	II C-75-4	1	42.8	67.2	18.7	41.4	横形石匙/抉入削器	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらみられる。 肉眼でも刃部に光沢みられる。
148	113	509	II D-72-2	1	30.9	68.2	10.7	17.9	横形石匙/抉入削器	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらみられる。
148	114	1368	II E-73	1	46.8	70.4	12.3	30.6	横形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢がうつすらみられる。
148	115	1387	II E-73-1	1	44.4	58.5	10.9	19.6	横形石匙	珪質頁岩	
148	116	129	II C-74-3	1	33.0	44.7	8.2	9.3	横形石匙	珪質頁岩	
148	117	1355	II D-77-2	1	41.4	49.3	8.2	14.1	横形石匙	珪質頁岩	
148	118	927	II D-74	1	33.9	44.6	6.7	9.8	横形石匙	珪質頁岩	
148	119	314	II C-75-4	2	76.5	42.4	13.6	28.5	縱形石匙	珪質頁岩	素材は調整打面をもつ。肉眼でも刃部に光沢みられる。
148	120	1098	II D-74-3	2	59.6	37.4	12.4	22.3	縱形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
148	121	1375	II E-73	3	59.1	26.2	11.5	13.9	縱形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
148	122	1398	II F-73	2	54.5	33.3	11.8	18.9	縱形石匙	珪質頁岩	肉眼でも刃部に光沢みられる。
148	123	319	II C-75-4	2	30.1	52.0	6.1	8.1	横形石匙	珪質頁岩	
148	124	1083	II D-74-3	2	35.3	45.0	7.2	10.1	横形石匙	珪質頁岩	
148	125	293	II C-75-3	4	62.0	30.8	14.8	19	縱形石匙	珪質頁岩	末端欠損
148	126	1145	II D-75-1	4	57.4	32.9	10.1	15.1	縱形石匙	珪質頁岩	
149	127	511	II D-72-2	1	75.6	35.2	16.8	50	搔器	珪質頁岩	
149	128	1323	II D-77-1	1	43.2	30.6	10.4	15	搔器	珪質頁岩	
149	129	1383	II E-73-1	1	50.7	36.3	21.7	36.2	搔器	珪質頁岩	
149	130	166	II C-74-4	1	45.9	31.1	14.1	14.6	搔器	珪質頁岩	
149	131	569	II D-73	1	60.7	50.4	21.8	56	搔器	珪質頁岩	
149	132	1365	II E-72	1	43.5	34.5	10.0	10.6	搔器	珪質頁岩	両側縁に抉りの加工ある。
149	133	1802	II E-71		88.5	32.5	24.5	57			
149	134	187	II C-74-4	1	64.5	22.6	14.1	18.2	石鎚	珪質頁岩	刃部顎著に摩耗
149	135	1723	II D-75	1	65.0	38.0	11.0	27.7			
149	136	371	II C-76-4	1	96.4	43.3	21.3	86.1	石鎚	珪質頁岩	
149	137	283	II C-75-3	2	67.3	32.8	12.9	23.3	石鎚	珪質頁岩	基部欠損
149	138	1177	II D-75-2	1	103.1	34.2	18.7	54.5	両面加工石器	珪質頁岩	石櫛の未製品
149	139	367	II C-76-4	1	81.5	51.7	21.3	95.6	両面加工石器	珪質頁岩	末端欠損
149	140	1040	II D-74-2	2	70.1	25.0	11.5	17.3	両面加工石器	珪質頁岩	
150	141	298	II C-75-4	1	64.7	57.7	15.1	41.5	削器	珪質頁岩	
150	142	914	II D-74	1	50.9	33.5	6.2	8.8	削器	珪質頁岩	
150	143	768	II D-73-2	1	73.6	32.9	11.7	24	削器	珪質頁岩	
150	144	761	II D-73-1	1	69.9	39.1	17.7	42.5	削器	珪質頁岩	
150	145	597	II D-73	1	75.9	40.0	15.4	34.7	削器	珪質頁岩	
150	146	16	II C-73	1	54.6	29.6	12.4	18.4	削器	珪質頁岩	
150	147	1382	II E-73-1	1	59.1	28.4	10.3	13.6	削器	珪質頁岩	
150	148	1017	II D-74-2	1	92.6	50.4	22.5	49.3	削器	珪質頁岩	
150	149	1095	II D-74-4	1	41.2	39.3	10.7	14.7	削器	珪質頁岩	
150	150	1244	II D-76-2	1	47.8	36.2	11.3	16.7	削器	珪質頁岩	
150	151	1353	II D-77-2	1	55.2	27.4	10.7	7.7	削器	珪質頁岩	

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
150	152	972	II D-74-1	1	34.0	46.8	9.8	13.2	削器	珪質頁岩	
150	153	493	II D-72-1	1	74.3	39.4	16.7	28.2	削器	珪質頁岩	
150	154	944	II D-74-1	1	58.1	44.2	22.4	38.2	削器	珪質頁岩	
150	155	1390	II E-73-2	1	85.5	35.3	17.5	43.3	削器	珪質頁岩	
150	156	1352	II D-77-2	1	62.3	46.5	13.7	28.3	削器	珪質頁岩	
150	157	1136	II D-75-1	1	56.5	25.0	9.1	11.9	削器	珪質頁岩	
150	158	1246	II D-76-2	1	55.8	47.9	13.5	21.8	削器	珪質頁岩	末端欠損 両面加工体を素材としている。 あるいは異形石器か?
151	159	396	II C-77	1	50.2	39.6	10.9	9.4	削器	珪質頁岩	
151	160	475	II D-72	1	45.5	40.6	14.2	13.5	削器	珪質頁岩	
151	161	415	II D-77-3	1	32.4	54.1	6.7	7.5	削器	珪質頁岩	
151	162	1245	II D-76-1	1	82.2	42.3	10.6	32.6	削器	珪質頁岩	
151	163	623	II D-73	1	45.0	29.0	9.8	7.8	削器	珪質頁岩	
151	164	1171	II D-75-2	1	44.3	52.5	10.2	15.4	削器	珪質頁岩	
151	165	672	II D-73	1	36.1	36.3	6.2	4.1	削器	珪質頁岩	
151	166	163	II C-74-4	1	42.3	29.5	7.8	4.9	削器	珪質頁岩	
151	167	64	II C-73-4	1	74.6	51.3	13.2	33.5	削器	珪質頁岩	
151	168	945	II D-74-1	1	78.3	43.2	13.3	25.2	削器	珪質頁岩	一部欠損
151	169	410	II C-77-3	1	38.4	25.5	5.6	3.3	削器	珪質頁岩	
151	170	749	II D-73	1	43.5	29.2	11.0	9.8	削器	珪質頁岩	
151	171	1344	II D-77-2	1	68.4	58.4	14.9	49.9	削器	珪質頁岩	
151	172	464	II D-72	1	38.4	43.2	7.0	9.2	削器	珪質頁岩	
151	173	1300	II D-76-4	1	30.2	30.9	6.6	6.2	削器	珪質頁岩	
151	174	519	II D-72-2	1	61.8	126.6	30.8	228.7	削器	珪質頁岩	
152	175	370	II C-76-4	1	107.9	48.8	20.7	86.1	削器	珪質頁岩	
152	176	150	II C-74-3	1	70.4	37.6	19.4	47.6	削器	珪質頁岩	
152	177	1339	II D-77-2	1	51.5	77.9	20.9	39.6	削器	珪質頁岩	
152	178	614	II D-73	1	73.9	51.7	13.3	45.6	削器	珪質頁岩	
152	179	550	II D-73	1	59.5	49.1	10.7	28	削器	珪質頁岩	
152	180	602	II D-73	1	63.9	57.8	24.2	77.8	削器	珪質頁岩	
152	181	349	II C-76-3	2	106.2	35.4	24.1	58.9	削器	珪質頁岩	
152	182	1180	II D-75-2	2	111.8	44.8	22.1	50	削器	珪質頁岩	
152	183	282	II C-75-3	2	65.7	38.6	16.0	32.3	削器	玉髓	
153	184	1392	II D-73-2	2	46.2	34.1	12.0	14.1	削器	珪質頁岩	
153	185	278	II C-75-3	2	56.2	53.0	10.8	26.6	削器	珪質頁岩	
153	186	1265	II D-76-2	2	29.0	13.1	3.1	1	削器	珪質頁岩	
153	187	209	II C-74-4	4	65.9	33.8	11.8	25.8	削器	珪質頁岩	
153	188	1053	II D-74-2	4	45.0	45.3	8.6	13.1	削器	珪質頁岩	末端欠損
154	189	365	II C-76-4	1	57.5	44.8	11.8	28.4	MF	珪質頁岩	
154	190	144	II C-74-3	1	65.3	37.6	16.6	20	MF	珪質頁岩	
154	191	868	II D-74	1	43.9	34.1	8.7	10.4	MF	珪質頁岩	
154	192	764	II D-73-2	1	81.3	43.1	17.0	42.2	MF	珪質頁岩	
154	193	124	II C-74-3	1	74.5	39.4	23.2	54.4	MF	珪質頁岩	打面再生剥片を用いたMF。
154	194	647	II D-73	1	33.2	33.2	8.1	8.3	MF	珪質頁岩	
154	195	557	II D-73	1	63.1	29.5	7.8	7.8	MF	珪質頁岩	
154	196	390	II C-77	1	61.5	45.9	28.3	70.2	MF	珪質頁岩	打面再生剥片を用いたMF。
154	197	432	II C-78-3	1	73.4	41.0	16.5	49.3	MF	珪質頁岩	
154	198	1327	II D-77-1	1	53.6	29.3	11.8	15.4	MF	珪質頁岩	
154	199	198	II C-74-4	1	76.7	38.0	14.6	33.7	MF	珪質頁岩	
154	200	458	II D-72	1	74.0	29.2	15.0	19.4	MF	珪質頁岩	
154	201	753	II D-73	1	65.6	52.9	17.6	45.2	MF	珪質頁岩	
154	202	555	II D-73	1	44.8	33.2	4.6	6.9	MF	珪質頁岩	
154	203	421	II C-77-3	1	31.1	40.7	7.2	5.3	MF	珪質頁岩	
154	204	530	II D-72-2	1	48.3	31.7	6.1	7.7	MF	珪質頁岩	
154	205	1394	II E-77-2	2	48.6	54.6	15.1	25.5	MF	珪質頁岩	
154	206	322	II C-75-4	2	65.8	48.3	12.3	20.2	MF	珪質頁岩	
154	207	285	II C-75-3	2	60.8	33.2	7.3	7.2	MF	珪質頁岩	
155	208	648	II D-73	1	32.4	30.8	13.9	13.5	兩極石器	メノウ	
155	209	252	II C-75-2	1	38.9	28.2	15.2	14.7	兩極石器	珪質頁岩	
155	210	15	II C-73	1	34.9	32.9	16.6	18.3	石核	玉髓珪質頁岩	
155	211	121	II C-74-1	1	70.2	50.1	37.2	90.6	石核	珪質頁岩	

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
155	212	1362	II D-78-1	1	36.4	54.4	30.3	55.6	石核	珪質頁岩	
155	213	518	II D-72-2	1	21.9	56.4	36.6	41.1	石核	珪質頁岩	
155	214	830	II D-74	1	42.2	60.4	26.3	57.3	石核	珪質頁岩	
155	215	478	II D-72	1	48.8	45.3	14.7	33.2	石核?	珪質頁岩	
155	216	787	II D-73-2	1	64.6	60.3	21.1	71.8	石核	珪質頁岩	円盤状
155	217	805	II D-73-4	2	94.3	38.5	37.4	79.7	石核	珪質頁岩	打面再生 剥片か?
155	218	1052	II D-74-2	4	87.6	64.7	21.1	104	石核	珪質頁岩	円盤状
156	219	785	II D-73-2	1層				8.1	磨製石斧	緑色片岩	
156	220	2255	II D-73	1層				5	磨製石斧	緑色片岩	
156	221	2206	II C-75-3	1層				230	磨製石斧	角閃岩	
156	222	2288	II D-74-1	1層				50	磨製石斧	ひん岩	
156	223	2289	II D-74-1	2層	3.35	4	1.85	15	磨製石斧	角閃岩	
156	224	2302	II D-74-2	1層	9.5	5.2	3.05	250	磨製石斧	角閃岩	
156	225	2334	II D-75-4	1層	6.5	6.7	3.05	170	磨製石斧	角閃岩	
156	226	2320	II D-75-1	1層	14.2	5	3.5	315	敲磨器A	珪灰岩	
156	227	2277	II D-73-4	1層	10.8	5.7	3.8	315	敲磨器A	珪灰質砂岩	
156	228	2212	II C-75-4	1層	11.2	4.9	3.7	285	敲磨器A	安山岩	
156	229	2338	II D-76-1	1層	9.7	6.7	2.85	215	敲磨器A	流紋岩	
156	230	2262	II D-73	1層	12.6	5.8	2.5	235	敲磨器A	流紋岩	
156	231	2245	II D-72-1	1層	8.2	5.2	4.2	225	敲磨器A	流紋岩	
157	232	2168	II C-74-2	1層	8.95	9.5	3.2	415	敲磨器A	珪灰質砂岩	
157	233	2275	II D-73-3	1層	15.7	5.2	2.8	255	敲磨器A	緑色珪灰岩	
157	234	2276	II D-73-4	1層	15.6	8.6	2.8	600	敲磨器A	緑色珪灰岩	
157	235	2156	SD-07 II L-57	77土	16.4	8.8	3.5	649	敲磨器B	溶結砾岩	
157	236	2328	II D-75-2	2層	14	7.9	2.7	365	敲磨器A	珪灰岩	
157	237	2295	II D-74-2	1層	15	5.25	4	460	敲磨器A	緑色珪灰岩	
157	238	2221	II C-75-4	1層	18.2	5.5	2.4	405	敲磨器A	緑色珪灰岩	
157	239	2248	II D-72-1	1層	14.4	8.3	2.9	280	敲磨器A	砂岩	
158	240	2228	II C-76-4	1層	18	6.2	3.2	290	敲磨器A	安山岩	
158	241	2246	II D-72-1	1層	12.7	7.9	3.4	425	敲磨器A	閃綠岩	
158	242	2170	II C-74-3	1層	13.2	4.6	2.7	145	敲磨器A	珪灰岩	
158	243	2148	SD-07 II C-75	77土	16.1	6.9	2.8	480	敲磨器A	流紋岩	
158	244	2253	II D-72-2	1層	7.8	6	5.2	270	敲磨器A	流紋岩	
158	245	2232	II C-77-3	1層	10.6	5.7	3	190	敲磨器A	珪灰岩	
158	246	2211	II C-75-3	1層	11.2	4.6	2	120	敲磨器A	珪灰岩	
158	247	2339	II D-76-1	1層	10.2	5.7	2.3	165	敲磨器A	珪灰岩	
158	248	2329	II D-75-2	4層	13.8	5.9	13.6	385	敲磨器A	珪灰岩	
158	249	2149	SD-07 II C-75	77土	13.6	9	2.7	492	敲磨器B	珪灰岩	
158	250	2187	II C-74-4	1層	9.3	7.2	2.9	215	敲磨器B	安山岩	
158	251	2312	II D-74-4	1層	15.4	7.8	3.1	510	敲磨器B	安山岩	
159	252	2361	II D-77-2	1層	14.7	8	2.5	340	敲磨器B	珪灰岩	
159	253	2230	II C-76-4	1層	8.2	7.7	2.7	185	敲磨器B	珪灰岩	
159	254	2177	II C-74-3	1層	13	6.1	2.3	260	敲磨器B		
159	255	2173	II C-74-3	1層	10.7	5.5	1.9	125	敲磨器B	珪灰質泥岩	
159	256	2229	II C-76-4	1層	14.3	6.1	3	370	敲磨器B	緑色珪灰岩	
159	257	2282	II D-74	1層	15.2	7.5	2.3	265	敲磨器B	珪灰岩	
159	258	2150	SD-07 II C-75	77土	15.8	8.3	3.3	566	敲磨器B	ディ岩	
159	259	2326	II D-75-2	1層	15.8	8.3	3.3	180	敲磨器B	ディ岩	
159	260	2306	II D-74-3	1層	14.9	6.7	3	325	敲磨器B	流紋岩	
159	260	2358	II D-77-1	1層	10.4	7.2	3.1	275	敲磨器B	流紋岩	
160	261	2193	II C-75	1層	15.2	8.9	4.3	675	敲磨器B	花崗岩	
160	262	2216	II C-75-4	1層	13.8	7.6	3.5	445	敲磨器B	ディサイト	
160	263	2283	II D-74	1層	12.5	5.9	2.2	350	敲磨器B	閃綠岩	
160	264	2166	II C-74-1	1層	8.95	7.45	3.2	300	敲磨器B	花崗閃綠岩	
160	265	2367	II D-76	1層	7.4	2.4	20.45	165	敲磨器B	安山岩	
160	266	2318	II D-75-1	1層	14.3	9.4	4.5	840	敲磨器B	花崗閃綠岩	
160	267	2356	II D-76-2	1層	11.9	8	4.5	590	敲磨器B	安山岩	
160	268	2241	II D-72-1	1層	10.8	7.7	4.05	400	敲磨器B	閃綠岩	
161	269	2179	II C-74-3	1層	9.5	9.6	3.6	480	敲磨器B	砂岩	
161	270	2285	II D-74	1層	9.3	7.8	3.95	380	敲磨器B	流紋岩	
161	271	2203	II C-75-3	2層	22.2	11.9	3.3	575	敲磨器B		
161	271	2350	II D-76-2	2層	22.2	11.9	3.3	705	敲磨器B	安山岩	
161	272	2208	II C-75-3	2層	13.8	7.1	2.2	385	敲磨器B	珪灰岩	
161	273	2199	II C-75-2	2層	13.7	8.2	0.3	425	敲磨器B	ディサイト	
161	274	2351	II D-76-2	2層	10.6	7.1	3.55	380	敲磨器B	ディサイト	
161	275	2323	II D-75-1	2層	10.9	4.2	4.25	360	敲磨器B	珪灰岩	
161	276	2200	II C-75-2	2層	9.6	5.7	2.1	165	敲磨器B	緑色珪灰岩	
162	277	2319	II D-75-1	2層	10.7	8.2	4.3	525	敲磨器B	砂岩	
162	278	2357	II D-76-2	2層	16.5	6.2	7.2	1200	敲磨器B	花崗閃綠岩	

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	器種	石材	備考
162	279	2300	II D-74-2	4層	16.2	6.2	3	145	蔽磨器B	蔽灰質砂岩	
162	279	2301	II D-74-2	4層	17.1	7.2	3.6	265	蔽磨器B		
162	280	2315	II D-74-4	4層	12.3	6.8	1.4	700	蔽磨器B	花崗閃綠岩	
162	281	2231	II C-76-4	1層	9.7	6.8	2.3	155	蔽磨器C	流紋岩	
162	282	2167	II C-74-2	1層	16.4	9.3	2.6	235	蔽磨器C	蔽灰質泥岩	
162	283	2296	II D-74-2	1層	11.9	10.3	10.2	515	蔽磨器C	流紋岩	
163	284	2169	II C-74-3	1層	7.8	8.9	2	185	蔽磨器D	流紋岩	
163	285	2237	II C-77-4	1層	11.9	11.9	10.2	190	蔽磨器D	蔽灰岩	
163	286	2184	II C-74-4	1層	11	7.1	2.1	285	蔽磨器D	流紋岩	
163	287	2304	II D-74-3	1層	11.15	7.2	1.7	200	蔽磨器D		
163	288	2227	II C-76-4	1層	11.9	7.6	2.6	370	蔽磨器D	流紋岩	
163	289	2225	II C-76-3	2層	10.8	6.4	2.3	180	蔽磨器D	流紋岩	
163	290	2151	SD-07 II C-75	77土	12.7	7.1	2.4	268	蔽磨器D	流紋岩	
163	291	2259	II D-73	1層	10.8	6.9	2.1	200	蔽磨器D	流紋岩	
163	292	2222	II C-75-4	2層	9.4	6.3	1.6	115	蔽磨器D	細流紋灰岩	
164	293	2267	II D-73-1	1層	10.6	6.4	0.9	15	石刀?	粘板岩	
164	294	2152	SD-07 II C-75	77土	17.2	6	2.4	71	石製品	蔽灰岩	
164	295	2218	II C-75-4	1層	15.2	6	4.6	190	石製品	流紋岩	
164	296	2235	II C-77-3	1層	22.6	15.2	5.4	2890	石皿	安山岩	
164	297	2165	II C-74-1	1層	9.6	7.8	4.6	445	砥石?	石英安山岩	

宮田館遺跡遺構外出土石器観察表

図	番号	整番	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	器種	備考	石質
165	1	1395	II E-74	I	71.0	67.2	17.8	81.2	削器		珪質頁岩
165	2	TR13-1	トレンチ	I	44.0	38.0	11.0		削器		
165	3	374	II C-77	I	17.9	22.3	6.5	2.2	石器断片		珪質頁岩
165	4	1868	トレンチ12	I	38.0	43.5	10.0	10.1	削器		
165	5	TR2	II G-60	II	53.5	37.5	8.0	15.6	両極削片		
165	19	2432	II H-57	III層	9.9	7.5	4.6		磨製石斧		
165	6	2394	II E-74	I層	8.7	3.4	1.5	80	磨製石斧	S-×	角閃岩
165	7	2139	SD-03	2層	13.3	5.6	2.9	354	磨製石斧	S-×	角閃岩
165	8	2422	II G-67	III層	10.6	4.8	3.05	236	磨製石斧	S-×	花崗岩
165	9	2403	II G-52	II層	14.8	13.2	5.5	1130	蔽磨器B?	S-×	蔽灰岩
165	10	2410	II G-61	III層	7	5.2	3	155	蔽磨器A	S-×	流紋岩
165	11	2416	II G-62	III層	16.3	9.6	3.6	890	蔽磨器A	S-×	蔽灰質砂岩
165	12	2144	SD-07 II B-78	77土	14.3	5.6	2.9	309	蔽磨器A	S-×	デイサイト
165	13	2154	SD-07 II K-59	77土	14.5	509	4.1	541	蔽磨器A	S-×	流紋岩
166	14	2439	II H-65	III層	15.6	8	5.6	875	蔽磨器B	S-×	流紋岩
166	15	2396	II E-74	I層	14.2	6.1	3.2	350	蔽磨器B	S-×	蔽灰質砂岩
166	16	2453	II K-50	II層	14.1	8.9	6.8	1060	蔽磨器B	S-×	蔽灰質砂岩
166	17	2431	II H-57	III層	14.2	7.2	3.9	545	蔽磨器B	S-×	流紋岩
166	18	2408	II G-61	II層	15.6	6.1	3.8	535	蔽磨器B	S-×	デイサイト
166	19	2432	II H-57	III層	9.9	7.4	4.6	446	蔽磨器B	S-×	緑色細流紋灰岩
166	20	2433	II H-59	II層	8.2	10	5.8	530	蔽磨器B	S-×	蔽灰岩
166	21	2146	SD-07 II B-78	77土	18.6	6.8	7.2	1052	蔽磨器B	S-×	デイサイト
167	22	2442	II I-46	II層	30.2	17.2	7.3	9000	石皿	S-×	安山岩
167	23	2370	II D-76	I層	17.6	9.6	4.2	2545	台石	S-×	流紋岩
167	24	2387	II E-72	ナガ	10.6	6.7	1	15	石製品	S-×	蔽灰岩

宮田館遺跡鉄製品観察表

図版番号	丁番	遺跡名	層位	器種	特徴	諸記述
177-1	鉄4	SI-02	I層	網	U字状	長さ18cm、最大幅16.7cm、厚さ1.1cm
177-3	鉄3	SI-02	床面	半鍛	目釘穴	長さ7cm、最大幅1.4cm、厚さ0.1cm
177-2	鉄2	SI-02	床面	鉄錠		長さ11cm、最大幅6.6cm、厚さ0.4cm
177-4	鉄1	SI-02	床面	鉄製品	網状	



B区北側の遺構配置状況（上空から画面上が西）



沢3南側におけるカマド状遺構の配置状況



SE-96の井戸枠





表



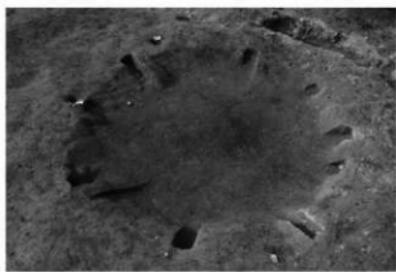
裏

古代末～中世初期の出土陶磁器（約1/2）1～9は本書、10は米山（2）III未報告

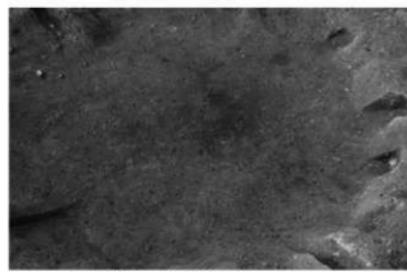


米山（2）遺跡等出土容器類（11は上野尻IV、1・5は米山（2）V、2・4・6・7・10は山（2）IV、3・8・9は本書所収）

図版2（米山②）



SI-33 完掘 E→



SI-33 床面土壤サンプル採取地点 E→



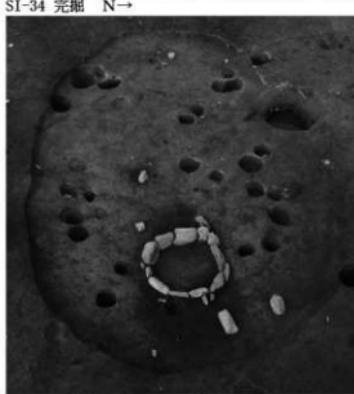
SI-34 完掘 N→



SI-34 炉炭化物出土状況 S→



SI-35 土層南側 N→



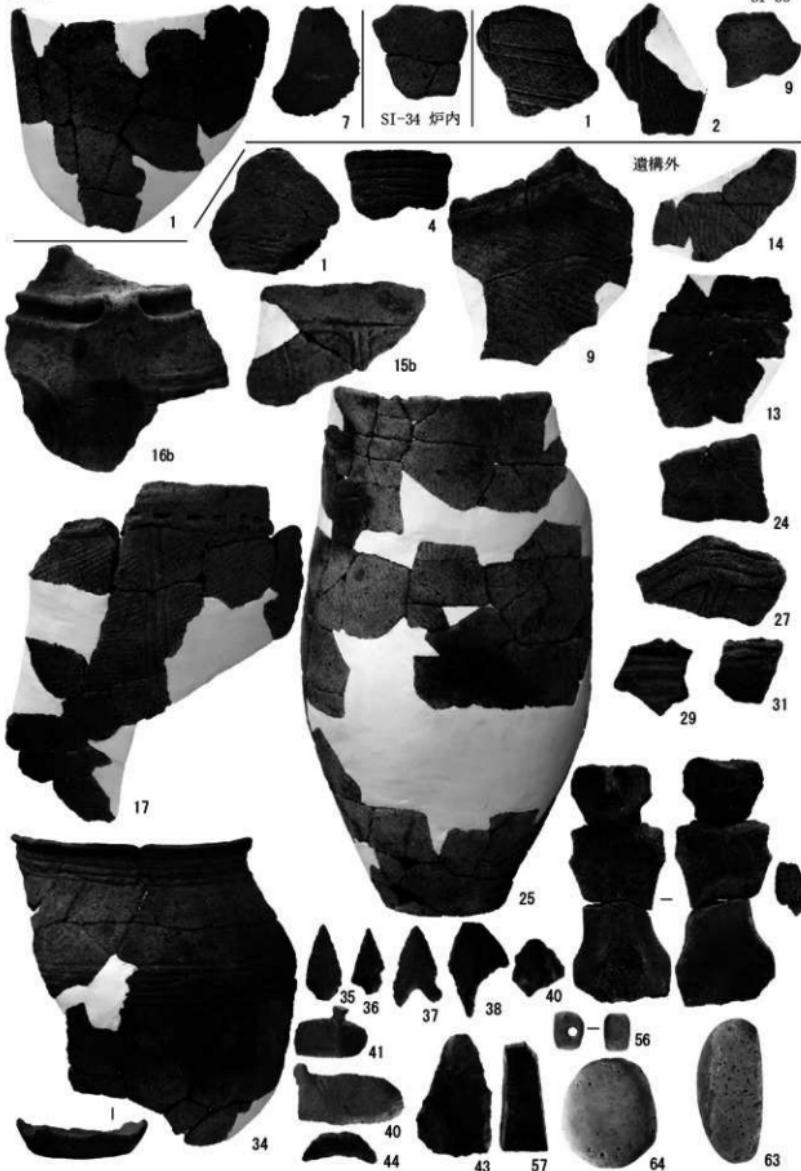
SI-35 完掘 S→



SI-35 炉土層 SW→

図版3 (米山③)

SI-33



图版 4 (米山④)



米山(2)遺跡調査区遠景(上空西から)



調査区遠景と遺跡の位置関係(上空北から)



B区北半部 上空から（写真上が西）



B区南半部 上空から（写真上が西）



SB-01 完掘 W→



SK-226 瓷出土状况 N→



SK-227 土層 E→



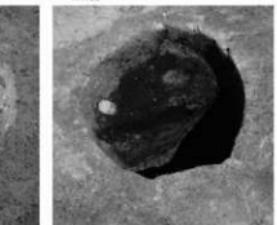
SP-2110 土層 W→



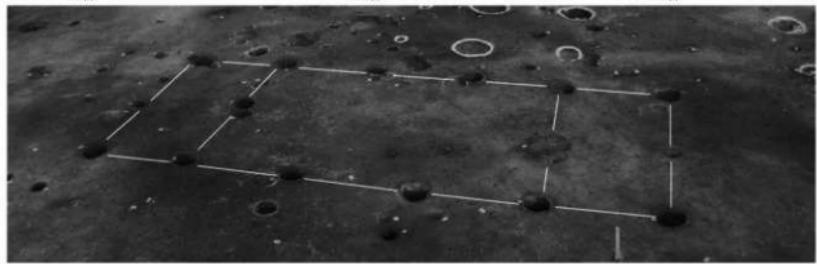
SK-128 土層 E→



SP-2108 土層 S→

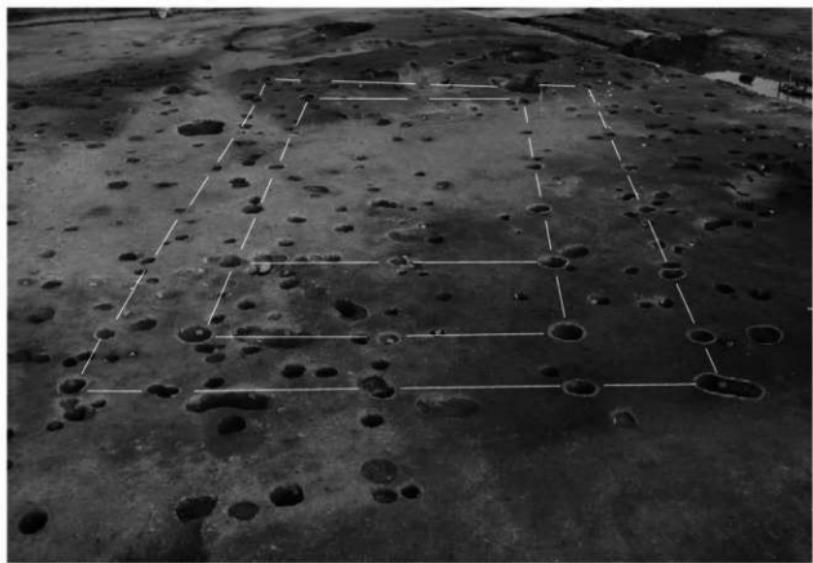


SK-234 土層 W→

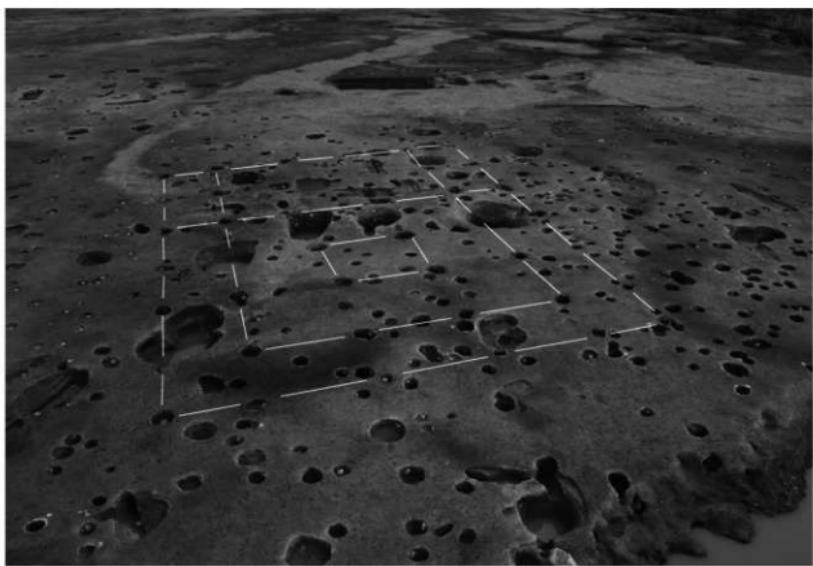


SB-02 完掘 W→

圖版 7 (米山⑦)



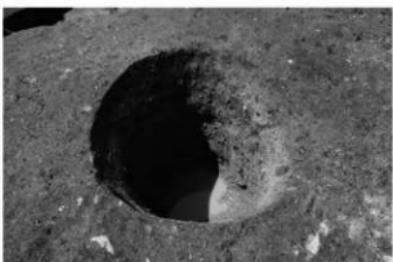
SB-07 完掘 W→



SB-26 完掘 W→



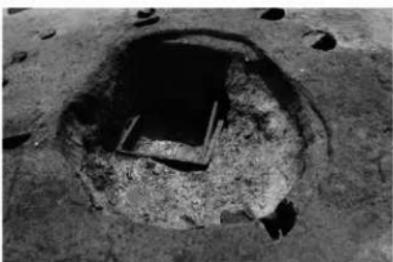
SE-90 完掘 N→



SE-91 完掘 N→



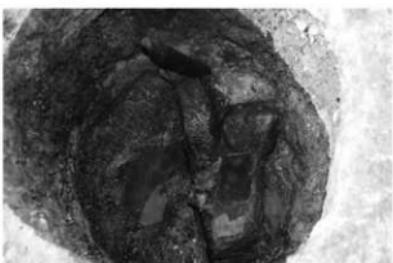
SE-92 完掘 NW→



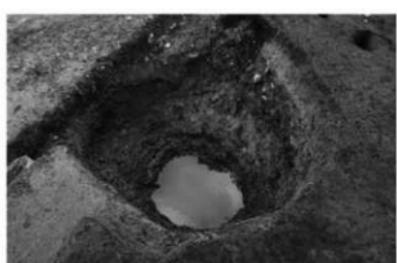
SE-92 木枠 NW→



SE-92 横桟組み方アップ



SE-93 下層遺物出土状況 N→



SE-94 完掘 S→



SE-94 遺物出土状況 W→

図版9 (米山⑨)



SE-94 木製品出土状況 E→



SE-95 完掘 E→



SE-96 上位土層 S→



SE-96 井戸枠完掘(西側) E→



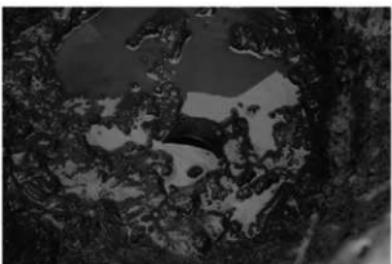
SE-96 上位掘方中の模板確認状況 S→



SE-96 潛柱の礎石確認状況



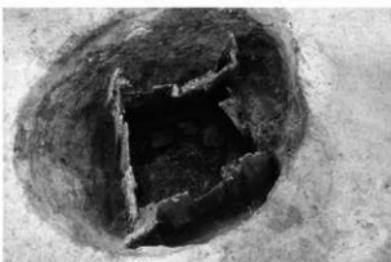
SE-97 土層 E→



SE-97 曲物(ひしやく)出土状況 N→



SE-99 完掘 W→



SE-100 井戸枠完掘 S→



SE-100 挖方内木製箆出土状況 S→



SE-100 横桟組み方アップ



SE-101 木片出土状況 N→



SE-101 完掘 N→



SE-102 碓出土状況 SW→



SE-103 上層礎出土状況 S→



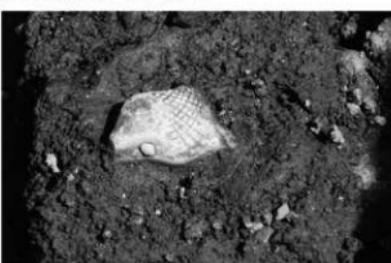
SE-104 上位土層 S→



SE-104 井戸枠アップ (E→)



SE-105 完掘 S→



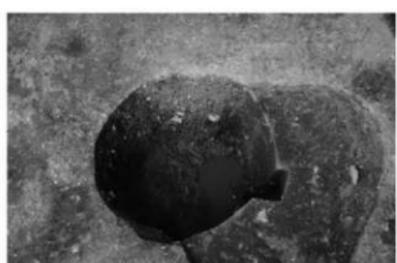
SE-100 陶器出土状況 N→



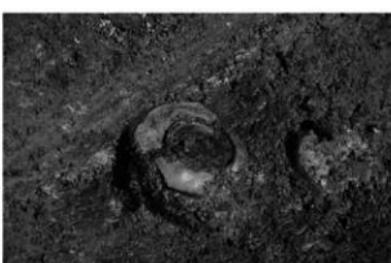
SE-106 磚出土状況 S→



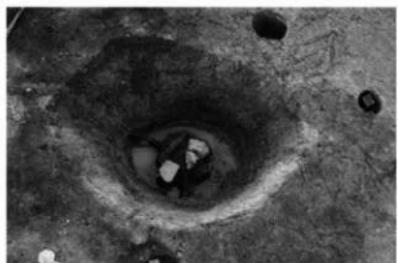
SE-106 編み籠出土状況 E→



SE-107 完掘 S→



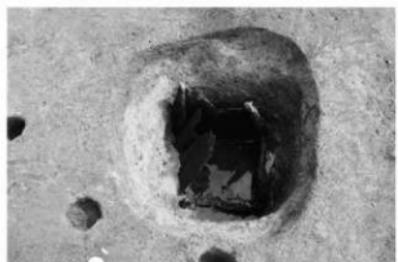
SE-107 上層漆器皿出土状況 SW→



SE-108 底面遺物出土状況 E→



SE-109 完掘 E→



SE-110 井戸枠完掘 E→



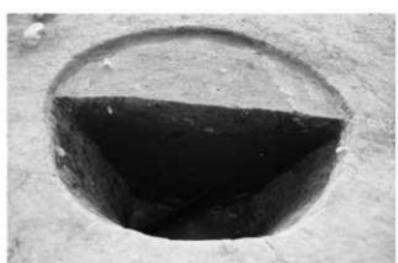
SE-110 井戸枠アップ N→



SE-111 遺物出土状況 E→



SE-112 土層 W→



SE-113 土層 E→



SE-114 土層 S→



SE-115 完掘 S→



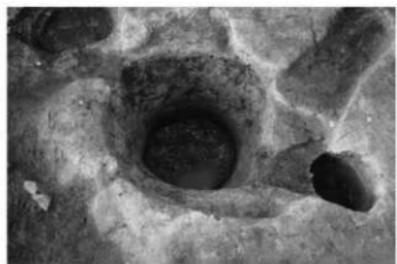
SE-116 完掘 W→



SE-117 完掘 N→



SE-118 土層 S→



SE-119 完掘 S→



SE-120 土層 S E→



SE-121 土層 S→



SE-122 土層 S→



SE-122 樹皮出土範圍 S→



SE-123 木製品出土狀況 N E→



SF-120 土層 NW→



SF-121 燒土確認狀況 S→



SF-122 燒土確認狀況 W→



SF-123 燃出土屑 W→



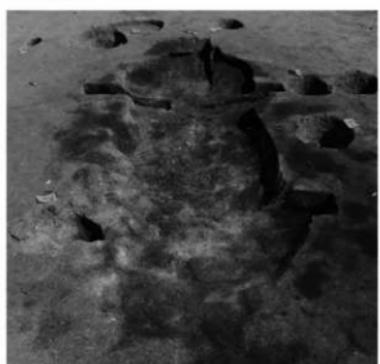
SF-123 完掘 W→



SF-125 完掘 N→



SF-124・125土層 NW→



SF-126 完掘 N→



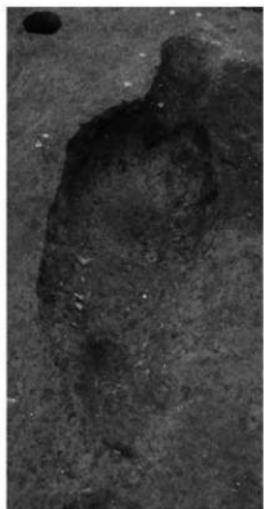
SF-127 完掘 S→



SF-129 土層 E→



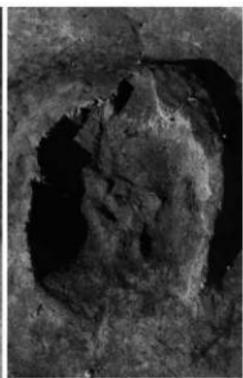
SF-128 完掘 S→



SF-131 完掘 W→



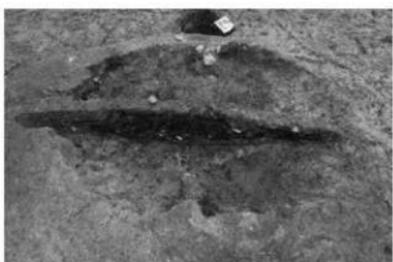
SF-131 燃焼部内炭化物 W→



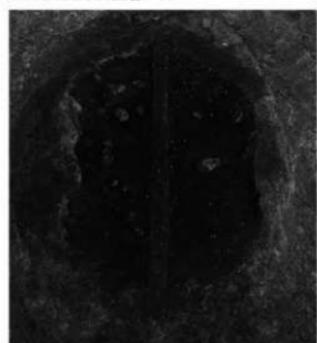
SF-132 完掘 S W→



SF-132 火床面土層 N→



SF-132 土層 N→



SF-132 鉄門遺物出土状況 S→



SF-133 完掘 N→



SF-134 焼土確認 W→



SF-134 完掘 W→



SF-135 土層 E→

SF-135 炭化物出土狀況 N→



SF-138 煙出土層 S→



SF-139 煙出土層 S→